地質学雑誌　第104巻　第8号（通巻1235号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成10年8月15日発行（毎月1回15日発行）

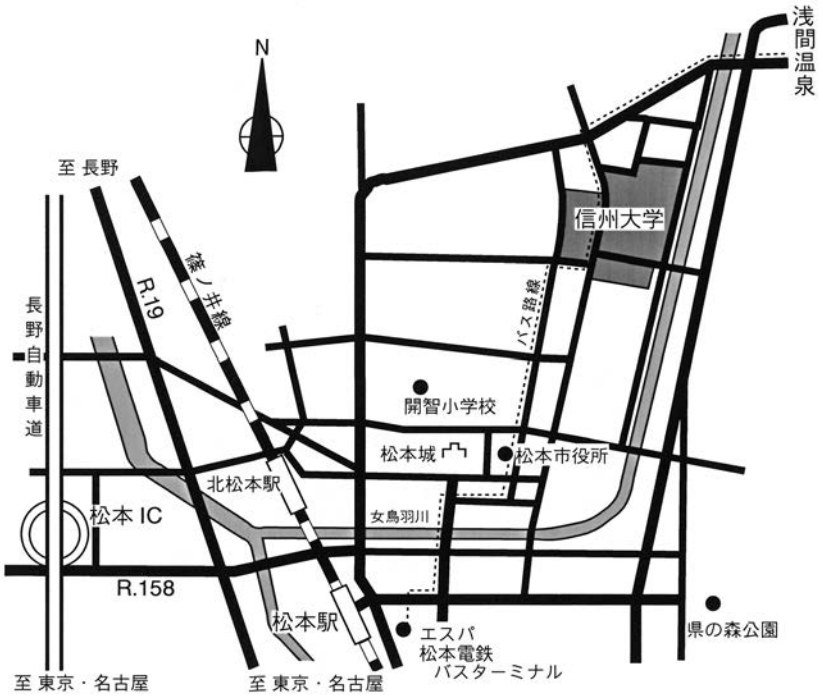
日本地質学会 News

Vol.1 No.8 August 1998

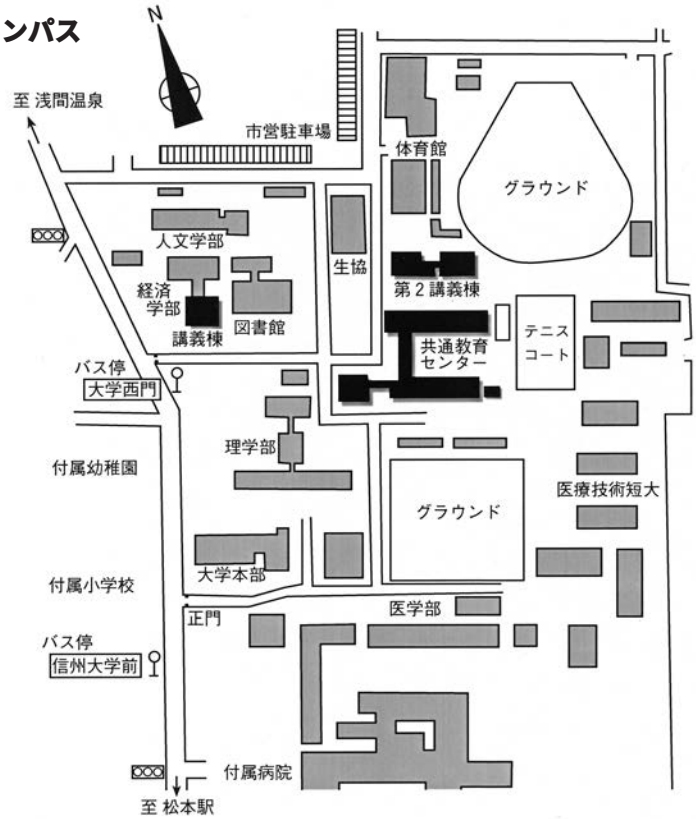
日本地質学会
第105年年会
プログラム

日本地質学会第105年年会プログラム

期　日　1998年9月25日（金）－27日（日）
会　場　信州大学共通教育センター講義棟



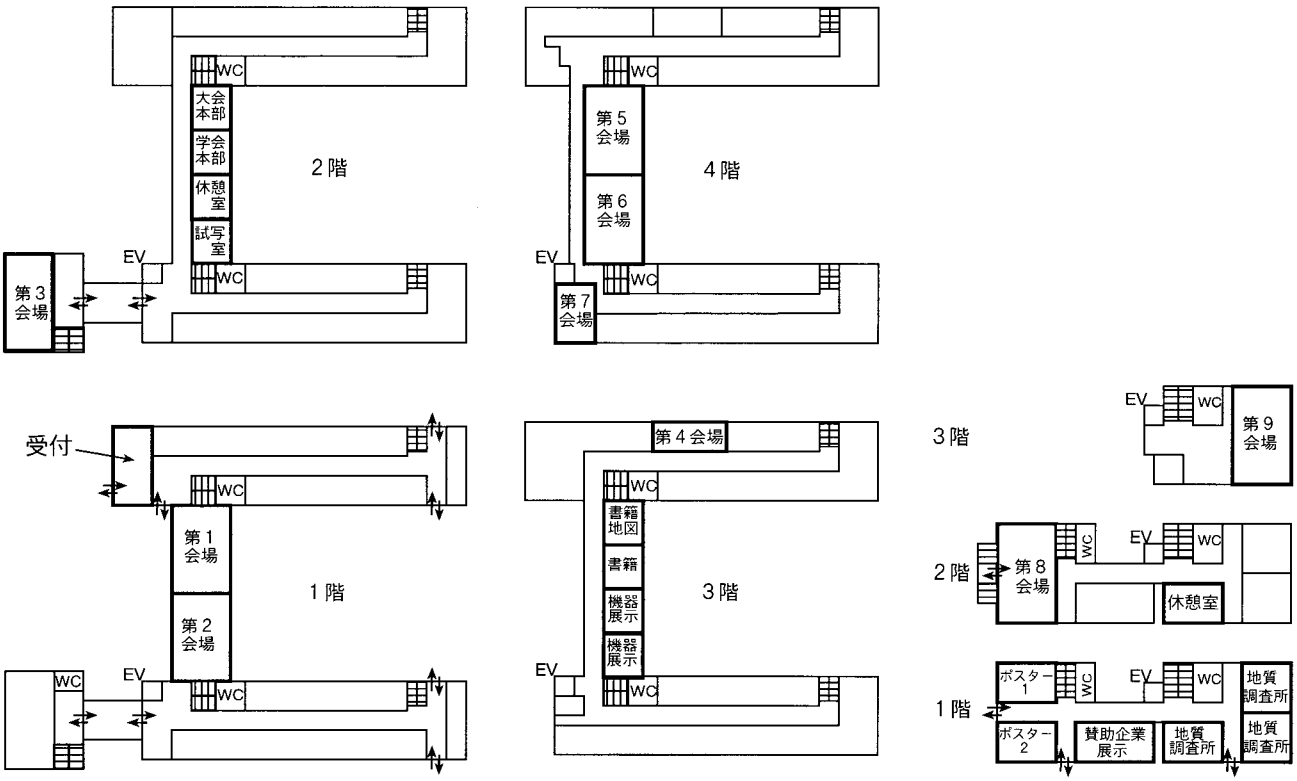
信州大学旭町キャンパス



会場への交通

バス：JR松本駅正面口を出て，右前方「エスパ」地下1階の松本電鉄バスターミナル6番乗り場から，「信大病院経由　浅間温泉行き」に乗車し，「大学西門」下車．
バスは10～15分おきに発車．
所要時間約15分．
料金は190円で後払い．

会場案内図（共通教育センター本館・第1・第2講義棟）



受　付	共通教育センター	本館	(1F)
第1会場	〃	〃	(〃)
第2会場	〃	〃	(〃)
第3会場	〃	第1講義棟	(2F)
第4会場	〃	本館	(3F)
第5会場	〃	〃	(4F)
第6会場	〃	〃	(〃)
第7会場	〃	〃	(〃)
第8会場	〃	第2講義棟	(2F)
第9会場	〃	〃	(3F)
ポスター会場1	〃	〃	(1F)
ポスター会場2	〃	〃	(〃)

試写室（スライド受付）		本館	(2F)
書籍販売	〃	〃	(〃)
機器展示	〃	〃	(〃)
企業展示	〃	第2講義棟	(1F)
地調情報展	〃	〃	(〃)
休憩室1	〃	本館	(2F)
休憩室2	〃	第2講義棟	(2F)
学会本部	〃	本館	(2F)
大会本部	〃	〃	(〃)

＊緊急用電話番号　010–615–4240

市民講演会　　経済学部　　大講義室

懇　親　会

9月25日（金）　18：00－20：00　　会場　松本市社会文化会館

＊大学より会場までは徒歩15分，バス5分です

原則として予約参加です．5月号に申込書等がとじ込んでありますのでご利用下さい．参加予約された方は，当日年会受付で参加の確認をし，入場証を受け取って下さい．参加予約は9月4日が締切です．定員に余裕があれば当日参加も可能ですが，この場合の参加費は正会員6,000円，院生，学生会員は4,000円となります．なお，ご同伴のご家族の会費は学生会員と同額です．

日本地質学会松本大会市民講演会：「地球の不思議に迫る」，甲信越地質情報展：「ザ・フォッサマグナ」開催のお知らせ

日本地質学会松本大会市民講演会

「地球の不思議に迫る」

演題：塚原弘昭 (信州大学理学部教授)

「信州の活断層と地震」

下山　晃 (筑波大学化学系教授)

「隕石から見た生命の起源」

小学校高学年から一般までの方を対象としたわかりやすい講演です．(入場無料)

日時：1998年9月26日 (土) 13：00－16：00

場所：信州大学経済学部大講義室

(信州大学西門バス停下車すぐ)

主催：日本地質学会

後援：信州大学理学部

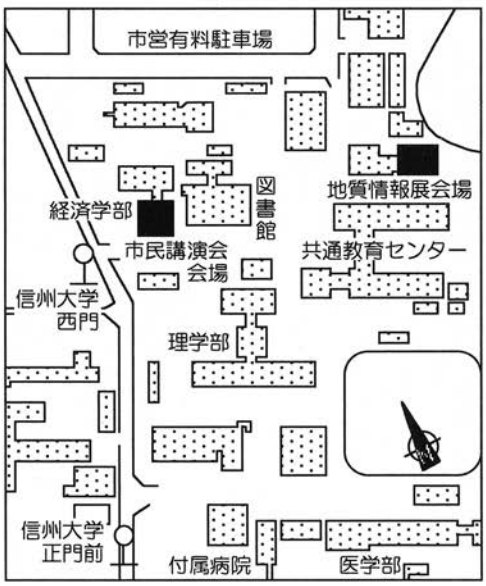
問い合わせ先：

信州大学理学部物質循環学科　　塚原弘昭

〒390-8621　松本市旭3-1-1　tel 0263-37-2485

e-mail　htsukah@gipac.shinshu-u.ac.jp

会場案内図



甲信越地質情報展：**「ザ・フォッサマグナ」**

甲信越地域の地質を題材に，一般の方々が地質学の研究内容を知って地質学を身近に感することができるように企画したイベントです．子供から大人まで楽しみながら地質学に親しめる機会を提供します．また一般の方のみならず，会員の方々にも興味あるものになるでしょう．プレゼントも多数用意して皆様のお越しをお待ちしております．(入場無料)

日時：1998年9月26日 (土) －27日 (日)　9：00－17：00

場所：信州大学共通教育センター第2講義棟1階

(大学西門バス停下車徒歩2分) (入場無料)

主催：地質調査所・信州大学理学部・日本地質学会

後援：長野県教育委員会

[展示]

- 活断層 (長野県池田町) のトレンチはぎ取り標本
- 北アルプスの地質
- 地質図から見るフォッサマグナの実態
- 世界一新しい花崗岩
- 善光寺地震と山崩れ　など

[実習]

- 化石の複製を作ってみよう
- 活断層を探してみよう
- 顕微鏡で見る微化石の世界
- フォッサマグナをCGで見よう
- 岩石・鉱石を割ってみよう　など

問い合わせ先：

地質調査所総務部広報係

〒305-8567　つくば市東1-1-3

tel. 0298-54-3520

fax. 3533

e-mail

gsjnews@gsj.go.jp

交通：松本駅前松電バスターミナル6番線から「信大病院経由浅間温泉行き」に乗車，大学西門下車．

105年年会スケジュール表

		第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場
25日 (金)	9:00 12:00	オフィオ岩 440-448 <P98-P99>	動的岩石学 283-291 <P73> <岩石の変形> <P70-P72>	テクトニクス 204-215 <P50-P52>	環境修復 515-524 <P113-117>	
	12:10 13:00	L:岩石部会		L:構造地質部会		
	14:00 17:30	オフィオ岩 449-459	岩石の変形 271-282	テクトニクス 216-220 地質と地震 292-299 <P74-P76>	環境地震災害 531-541	ヒマラヤ 485-497
	18:00 20:00	**懇親会：松本市文化会館**				
26日 (土)	9:00 12:00	マグマプロセス 377-387	付加体 239-249 <P61-P63>	マグマ 359-370 <P86>	環境水文都市 525-530 環境人間社会 542-547	海洋地質 185-194 <P40-P49> <沈込帯の計測> <P57-P60>
	12:10 13:00			L:火山 部会		L:海洋地質部会
	14:00 17:30	マグマプロセス 388-399	付加体 250-256 層序の復元 <P22>89-94	火山岩 320-334	変成作用一般 <P89-P93> 400-413	海洋地質 195-203 沈込帯の計測 233-238
	18:00 20:00	**夜間小集会：理学部講義室** 1.女性地球科学者, 2.南極地質, 3.子供達と調べる, 4.信越堆積盆地, 5.地質年代小委,				
27日 (日)	9:00 12:00	古領家帯 414-423	活構造 221-232 <P53-P56>	火山岩 335-346 <P85>	プレート深部 429-439 <P94-P97> ＜超高温変成岩＞ <P100>	堆積過程 174-184 <P39> <太平洋新生代> <P110-P111>
	12:10 13:00					L:地質過程部会
	14:00 17:30	古領家帯 424-428	断層岩 <P64-P69> 257-270	火山岩 347-358	超高温変成岩 460-471	太平洋新生代 472-484
	18:00 20:00	**夜間小集会：理学部講義室** 11.学芸員協議会, 12.淡水動物相, 13.地層名命名規約, 14.信州の地質学,				

L=ランチョン

第6会場	第7会場	第8会場	第9会場	第10会場	ポスター会場
堆積相 152-162 <P33-P38>	有機地質学 134-144 <P32>	火山噴火 300-311	地域層序 53-62 <P14-P20>		地域層序 P14-P20 有機地質学 P32 堆積相 P33-P38 テクトニクス P50-P52 岩石の変形 P70-P72 動的岩石学 P73 地質と地震 P74-P76 火山噴火 P77-P82 火山地質 P83-P84 火山テクト P87-P88 オフィオ岩 P98-P99 環境修復 P113-P117
L:堆積部会			L:層序部会		
堆積相 163-167 シーケンス 145-151	脊椎動物化石 548-560	<火山噴火> <P72-P82> 火山地質 312-319 <P83-P84> 火山テクト 371-376 <P87-P88>	地域層序 63-76 <P21>		
砕屑物組成 95-106 <P23-P26>	中生代古生物 561-572 <P118-P120> <地学教育普及> <p123>	超大陸 498-506 <P112>	地域層序 77-81 広域層序 82-88 <P21>		広域層序 P21 層序の復元 P22 砕屑物組成 P23-P26 海洋地質 P40-P49 沈込帯の計測 P57-P60 付加体 P61-P63 マグマ P86 変成作用一般 P89-P93 超大陸 P112 中生代古生物 P118-P120 地学教育普及 P123
	L:古生物部会	L:情報地質部会			
砕屑物組成 107-112 ケイシツ・続成 168-173	地学教育普及 591-602	超大陸 507-514	国内地質 1-13		
6.ヒマラヤ, 7.構造地質研究会, 8.環境地質, 9.超大陸, 10.ハットンシンポ					
炭酸塩岩 113-124	新生代古生物 573-583 <P121-122>	フォッサ 35-43<P13>	国内地質 14-23 <P1-P10> <海外地質> <P11-P12>	岩盤崩落崩壊 603-611 <P124-P128>	国内地質 P1-P10 海外地質 P11-P12 フォッサ P13 炭酸塩岩 P27-P30 炭酸塩化学 P31 堆積過程 P39 活構造 P53-P56 断層岩 P64-P69 火山岩 P85 プレート深部 P94-P97 超高温変成岩 P100 情報地質 P101-P109 太平洋新生代 P110-P111 新生代古生物 P121-P122 応用地質 P124-P126
			L:地域地質部会	L:応用地質部会	
炭酸塩岩 <P27-P30> 125-126 炭酸塩化学 <P31> 127-133	新生代古生物 584-590	フォッサ 44-52	国内地質 24-27 海外地質 28-34		
15.レルゾライト, 16.フィッショントラック研究会, 17.炭酸塩堆積学, 18.ゴンドワナ研究連合, 19.若手研究者懇談会					

発　表　者　へ

口頭・ポスター発表とも，招待講演を除き発表者は本学会の会員に限ります（共同発表の場合は筆頭者に適用）．また，止むを得ぬ事情により，予め連記された共同発表者内で筆頭者の変更を希望する場合は，必ず事前に行事委員会（会期前は学会本部へ，会期中は年会本部事務局へ）に連絡して下さい．この場合も「会員に限り1人1題」の発表制限は守るものといたします．代理人による代読，発表会場内での突然の発表者変更，発表順序の変更は一切認めませんのでご注意下さい．とくに口頭発表者およびポスターの口頭紹介をする方は，発表時間の厳守をお願いします．発表に際しては座長の指示に従い，会場の運営がスムーズに行われますようご協力下さい．

スライド受付 → 試写室

これまで各会場ごとに受け付けていたスライドを，松本大会では試写室（兼スライド受付）で，一元的に受付けて管理します．スライドを使用する方（口頭発表・ポスター口頭紹介とも）は下記の点を厳守し，大会の効率的な運営のためにご協力をお願いします．

1. スライドは遅くとも講演開始の30分前までに試写室のスライド受付へお出し下さい．

ただし，各講演日の初回（9：00開始）に講演する方は前日，または当日の15分以上前にスライドをお出しくださるようにお願いします．

2. スライドは「スライドカセロール」に自分でセットして受付係りに渡してください．
3. 30分前までに受付に届けられなかった場合は，スライドを使用しないものと見なします．

念のため，スライドを使わない方は，その旨をスライド係りに伝えていただくとたいへん助かります．

4. 講演終了後は忘れずに試写室でスライドをお引きとり下さい．

口頭発表

①1題15分（討論時間を含む）
②スライド使用15枚以内，オーバーヘッドプロジェクター併用可能．
③スライドの受付は発表の30分前までに試写室に届ける（詳細別記）．

ポスターセッション

①展示時間　　8：45–17：00（展示，回収時間を含む）
②コアタイム　13：00–14：00（この時間内は発表者は必ずその場に立ち会うこと）
③口頭紹介は2分間です．紹介をする場合は各セッションの口頭紹介開始時刻までに会場にお入り下さい．発表者が会場にいない場合には口頭紹介はないものと判断し，順次繰り上げ紹介となりますので，実際には予定時間より早まることがあります．
④展示ボード面積は180cm×90cm（タテ×ヨコ）です．
ポスターには発表番号・発表者名・題名を必ず明記して下さい．

参加登録・受付についてお願い

当日の参加登録は次の手順により行います．受付事務がスムーズに運びますよう，ご協力をお願いいたします．

1. **「参加登録票」をお出し下さい．**
   参加登録票は当プログラム末尾にあります．切り取って記入してご来場下さい．
2. **「参加登録費」をいただきます．**
   「正会員」：2,000円，「非会員一般」：3,000円です．正会員および非会員一般の方は参加登録票とともに，所定の参加費をお払い下さい．名誉会員，学生（会員，非会員とも）は無料です．
3. **「ネームカード」の着用をお願いします．**
   参加登録票と引き換えにネームカードを差し上げます．氏名・所属をご記入の上，会期中を通じて胸につけて下さるよう，お願いします．
4. **「講演要旨」は「引き換え券」と交換です．**
   会場受取で予約購入された方には，1週間前までに引換券をお送りします．
5. **「懇親会」，「見学旅行」の確認．**
   参加予約をされた方は，各係りの受付で必ず確認をして下さい．

＊非会員の方はこの機会に是非ご入会下さい．受付に申込書を用意します．入会申込をされた時点から会員扱いといたします

専門部会ランチョン

25日（金）－27日（日）　12：10－13：00

＊昼食時を利用しての会合です．部会入会を希望される方，興味をお持ちの方も是非ご参加下さい．弁当は特に用意しませんので，各自ご持参でお集り下さい．

25日（金）
構造地質（第3会場）・堆積（第6会場）・層序（第9会場）・岩石（第1会場）

26日（土）
海洋（第5会場）・古生物（第7会場）・火山（第3会場）・情報地質（第8会場）

27日（日）
地域地質（第9会場）・地質過程（第5会場）・応用地質（第10会場）

夜　間　小　集　会

＊部屋割りは会場の掲示をご覧下さい.

9月26日（金）18：00－20：00　会場：理学部講義室

1.　女性地球科学者の未来を考える研究委員会（世話人：田崎和江・宮下由香里・大友幸子・堀　利栄）保育室，交流会巡検について話し合う・
2.　南極地質研究委員会（世話人：本吉洋一）第39次観測隊の報告，第40次隊の計画，将来計画等.
3.　子供達と調べる私たちの大地（世話人：堀川秀夫）話題提供　1）大地のつくり；小林祐一，2）小学校における地学教育，地形と地質；阿部国広.
4.　信越堆積盆地の最近の研究動向（世話人：荒戸裕之・高野修）北部フォッサマグナ堆積盆地及びその関係地域における新第三紀・第四紀の層序，構造発達史，堆積過程を研究する研究者，学生，院生を中心として，最近の研究成果並びに研究動向に関する情報を持ち寄り互いに意見交換・問題提起を行う.
5.　地質学研連-地質年代小委員会（世話人：兼岡一郎；小委員会委員長）地質年代小委員会の開催．連絡，打ち合わせ等.
6.　ヒマラヤ地質研究委員会（世話人：在田一則・酒井治孝・中山勝博）研究委員会の相談会及び講演会.
7.　構造地質研究会夜間小集会（世話人：高木秀雄）1）特別講演：松島信幸「赤石山地から伊那谷までの50年」，2）自由討論会；構造地質研究会の今後の活動についての意見交換.
8.　環境地質部会・環境地質研究委員会及び都市地質連絡協議会（世話人：森崎正昭・古野邦雄）事務連絡，講演会.
9.　特定領域「超大陸の形成・分裂と地球環境」研究計画検討会（世話人：吉田　勝）
10.　2003年ハットン・シンポジウムとこれからの花崗岩研究（世話人：中島　隆・石原舜三・沓掛俊夫・高橋正樹・志村俊昭）2003年ハットン・シンポジウムの内容企画とそれに向けての日本の花崗岩関連研究推進について．花崗岩メールネットワークの活動について.

9月27日（日）18：00－20：00　会場：理学部講義室

11.　地質系学芸員協議会（世話人：松岡敬二・村松　武・赤羽久忠・柴　正博）情報交換や日常活動の問題点について話し合う.
12.　国際シンポジウム「東アジアにおける淡水動物相の起源と発展」（1999年，中国）について（世話人：友田淑郎）経過報告，シンポジウムの内容の検討.
13.　日本地質学会地層名命名規約についての討論会（世話人：天野一男；地層名命名規約策定委員会）日本地質学会地層命名規約原案の紹介と討論.
14.　信州の地質学研究と地学教育の歩み（世話人：赤羽貞幸・秋山雅彦・沓掛俊夫・鈴木尉元）講演1）杉山隆二「理学部地質学教室の創設の経緯」，2）酒井潤一「信大における第四紀研究の歩み」，3）小松宏明「長野県の地学教育の歴史と現状」．地質学史懇話会会務報告.
15.　国際レルゾライトワークショップを日本に誘致する会（世話人：小畑正明）1999年イタリアで開催予定の国際レルゾライトワークショップについて日本が次回（2003年）開催国として立候補するための準備と打ち合わせを行う.
16.　フィッショントラック研究会（世話人：松田高明）研究会の今後のあり方・方針について話し合う.
17.　炭酸塩堆積学に関する懇談会（世話人：松田博貴）炭酸塩堆積学に関する最近の話題・トピックスについて討論するとともに，最新研究動向・情報について意見交換をおこなう.
18.　国際ゴンドワナ研究連合研究連絡会・　インド中央構造帯シンポジウム（世話人：吉田　勝）
19.　若手研究者懇談会（世話人：芳野　極・真砂英樹）院生会員を主体として新評議員の活動報告と招待講演（予定）

日本地質学会委員会関係展示

25日（金）－27日（日）　9：00－17：00　ポスター会場

＊現在，下記委員会で検討している内容を会員に紹介し，実状の理解を深めることを目的に展示します.

1.　財政問題検討委員会（委員長：上砂正一・秋葉文雄・磯﨑行雄・嶋本利彦・久保和也・高橋正樹・吉田武義・事務局：水野篤行）地質学会の財政問題について
2.　組織運営検討委員会（委員長：徳岡隆夫・加藤碩一・佐々木和彦・新妻信明・府川宗雄・事務局：水野篤行）
3.　事業計画委員会（委員長：坂　幸恭・青木　滋・上砂正一・香村一夫・高橋正樹・籾倉克幹・湯浅真人・事務局：水野篤行）
4.　第一次地質基準策定委員会（委員長：新妻信明・足立勝治・天野一男・岩松　暉・宇田進一・上砂正一・坂　幸恭・酒井彰・滝田良基・楡井　久・服部　仁・早川俊之・水野篤行・皆川　潤・宮島吉雄・籾倉克幹・山元孝広）

企業等団体展示

25日（金）－27日（日）　9：00－17：00　企業展示会場

賛助会員

川崎地質(株)　技術本部
帝国石油(株)　探鉱部
(株)パスコ　コンサルタント事業部
八洲開発(株)

松本大会協賛企業

(株)テルナイト　技術開発部
長野県地質ボーリング業協会加盟企業
(株)興和　調査部
(株)サクセン　地質部
大成基礎設計(株)　営業本部
(株)中部測地研究所　技術部
(株)中部地質　技術部
(株)日さく　調査部
日本綜合建設(株)　技術部
(株)北信ボーリング　長野支店
北陽建設(株)　地質コンサルタント部
(株)村尾地研　長野営業所
明治コンサルタント(株)　技術研究所
ミュージアム鉱研　地球の宝石箱

口頭およびポスター発表

＊口頭・ポスター発表について，それぞれ通しの講演番号がついています．ただし，ポスター発表には番号の頭に「P」をつけてあります．お知らせした番号がずれた方もいますのでご確認下さい．
＊発表時間　口頭発表15分
＊ポスター発表　展示8：45–17：00，コアタイム13：00–14：00
＊ポスター発表の口頭紹介　ポスター発表の口頭紹介が設定されているセッションについては，2分ずつ時間割をしてあります．指定時間に会場にいない場合は紹介がないものとし，時間を繰り上げて進行します．また，他のセッションと一緒に時間設定をしている場合もありますので，発表者は十分にご注意下さい．

地 域 地 質（国 内）

世話人：斎藤　眞（saitomkt@gsj.go.jp）
座長：1–4　田中　均，5–8　山縣　毅，9–13　宮本隆実，
14–17　中里裕臣，18–21　宮地良典，
22–23，P1–P10，P11–P12　河尻清和，24–27　斎藤　眞

26日（土）　14：00－17：15，第9会場

1.　14：00　中琉球，奄美大島西部における秩父帯と四万十帯の境界部について……藤田　宏
2.　14：15　九州南東部の新生代後期テクトニクス……斎藤　眞
3.　14：30　熊本県五木村の秩父帯南縁部（三宝山帯）の地質（予報）……山縣　毅
4.　14：45　西九州黒瀬川地帯，日奈久帯の層序と構造……宮本隆実，桑水流淳二
5.　15：00　九州八代山地東域の下部白亜系（その1）……田中　均・高橋　努・桑水流淳二・宮本隆実・安藤秀一
6.　15：15　九州八代山地東域の下部白亜系（その2）－とくに微化石層序について－……安藤秀一・宮本隆実・田中　均・高橋　努・桑水流淳二
7.　15：30　大分県秩父帯下部白亜系山部層の層序と構造……一瀬めぐみ・田中　均
8.　15：45　佐賀県肥前町から野島層群（中新世）の発見……近藤　寛・河野隆重
9.　16：00　四国西部大野ヶ原地域の地質－とくに浮穴メランジについて－……鹿島愛彦
10.　16：15　愛媛県松山市東方，中央構造線付近の地質構造……窪田安打
11.　16：30　広島県油木町付近の備北層群……松本俊雄
12.　16：45　瀬戸内中部の地下地質に関する新知見，（そのⅠ）堆積岩及び風化帯……星野一男・高野　仁・松本徹哉・本多　清
13.　17：00　瀬戸内中部の地下資源に関する新知見，（そのⅡ）花崗岩類……松本徹哉・星野一男・高野　仁・本多　清

27日（日）　9：00－11：30，第9会場

14.　9：00　京都西山山地の中・古生界－層序と構造について－……楠　利夫・武蔵野実・井本伸広
15.　9：15　「大阪東南部」図幅地域の地質－特に大阪層群の地質と構造発達史－……宮地良典
16.　9：30　飛騨外縁帯森部層に貫入するハンレイ岩……河尻清和
17.　9：45　富士五湖湖底の音波探査および磁気探査……奥水達司・柴田知之・門西　恵・中村文紀・中川　博・保坂邦之
18.　10：00　長野県猿丸層で発見された複輝石凝灰岩層とその対比……細川　学・渋谷孝信
19.　10：15　長野県千曲川上流域に分布する河岸段丘……内山美恵子・金川美幸・武智国加
20.　10：30　新潟県佐渡島にみられる赤色風化について（その2）－赤色風化殻の高度分布とその意義－……仲川隆夫
21.　10：45　中期更新世における千葉県北東部の構造運動像……中里裕臣・佐藤弘幸
22.　11：00　棚倉断層沿いに発達する中新世ファンデルタ……大森信義・天野一男
23.　11：15　棚倉断層沿いに分布する中新世水中火山の復元……橋本　純・天野一男

27日（日）　14：00－15：00，第9会場

24.　14：00　八溝山地北部の中生界……堀　常東
25.　14：15　葛根田花崗岩にみられるマグマ/熱水系の特徴……佐々木宗建・藤本光一郎・佐脇貴幸
26.　14：30　秋田県太平山南麓地区に分布する中新世水中火山岩類（砂子淵層）の堆積……一関　敏・天野一男
27.　14：45　北海道中央部，双珠別地域に分布する中部蝦夷層群“基底礫岩”－双珠別スランプ体について－……鳴島　勤・川村信人

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　11：30－11：50　第9会場＞

P1.　11：30　沖縄県久米島の新第三系および第四系の地質……飯島康夫・佐野弘好
P2.　11：32　防予諸島および周辺の瀬戸内火山岩類のK–Ar年代……角井朝昭
P3.　11：34　淡路島北西部野島周辺の大阪層群に挟在される火山灰層のフィッション・トラック年代……荒井良祐・竹村恵二
P4.　11：36　紀伊半島中央部，奈良県川上村の秩父累帯……加藤　潔・市岡秀巳・西家秀行・坂　幸恭
P5.　11：38　和歌山県北部，有田川中流域の御荷鉾帯……栗本史雄
P6.　11：40　愛知県，渥美半島の秩父帯……大場穂高
P7.　11：42　ボーリングデータからみた濃飛流紋岩の地下構造……山田直利・小井土由光
P8.　11：44　飛騨外縁帯，白馬岳地域の古生界と蛇紋岩メランジュ……竹内　誠
P9.　11：46　早池峰構造帯の地質構造……内野隆之・

北上古生層研究グループ

P10.　11 : 48　出羽山地の地質と新第三紀火山活動……土谷信之

地 域 地 質（海 外）

世話人：脇田浩二（wakita@gsj.go.jp）

座長：28–34　脇田浩二，P11–P12　河尻清和

27日（日）　15 : 00－16 : 45，第9会場

28.　15 : 00　（招待）東アジアの地質と地質構造図－国際研究計画による数値図編纂の成果
……佐藤　正・奥村公男・脇田浩二

29.　15 : 15　北東アジアの鉱物資源とテクトニックスに関するデータの編集……小笠原正継・須藤定久・脇田浩二・W. J. Nokleberg・A. Khanchuk・L. M. Parfenov・M. Kuzmin・A. A. Obolenskig・D. Hwang・S. Hongquam・G. Bardarch

30.　15 : 30　沿海州南東部と西南日本内帯の白亜紀後期－古第三紀深成岩類の比較……先山　徹・松田高明・江南　亮・乙藤洋一郎・Sakhno, V. G.・Matunin, A. P.

31.　15 : 45　韓半島・西南日本における白亜紀－古第三紀火成岩類のSr・Nd同位体広域変化　……飯泉　滋・金　重旭・太平寛人・赤坂正秀・李　倫鐘

32.　16 : 00　Petrochemistry and geochronology of the Ambagaspitiya Granite in the western part of Srilanka ……Fernand, W. I. S. and Iizumi, S.

33.　16 : 15　ネパール，ポカラ盆地湖沼の地質学的研究とその環境変遷……吉川尚伸・徳岡隆夫・井内美郎

34.　16 : 30　南極リュツォ・ホルム湾，スカーレン地域に見られる海成堆積物と氷床拡大の証拠……瀬戸浩二

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 50－11 : 54　第9会場＞

P11.　11 : 50　CPMP/CCOP東アジア地質構造図（インドネシア）の数値編集……奥村公男・佐藤　正

P12.　11 : 52　ロシア極東，シホテアリンおよびヒンガン－オホーツク地域の花崗岩活動と鉱化作用
……佐藤興平・A.I. Khanchuk・根建心具・N. P. Romanovsky・S. V. Kovalenko・A. A. Vrublevsky

フ ォ ッ サ マ グ ナ

世話人：天野一男（kam@mito.ipc.ibaraki.ac.jp）・小坂共栄・高橋正樹・竹内圭史

座長：35–39　高橋正樹，40–43，P13　竹内圭史，44–48　天野一男，49–52　小坂共栄

27日（日）　9 : 30－11 : 45，第8会場

35.　9 : 30　（招待）フォッサマグナと伊豆島弧－研究史と問題点－……松田時彦

36.　9 : 45　中津川断層沿いに推定される向斜構造について
……山田誠一・佐瀬和義・角田史雄・本間直樹・丹沢団体研究グループ

37.　10 : 00　足柄層群形成時の堆積環境の変遷とプレート運動
……今永　勇

38.　10 : 15　御坂地塊－南部フォッサマグナにおける衝突付加した海洋性島弧……田中舘宏橘・天野一男

39.　10 : 30　伊豆衝突帯巨摩山塊中の始新－漸新世古伊豆・小笠原弧衝突付加体……青池　寛

40.　10 : 45　The Kushigatayama Block, First Collided Volcanic Arc Segment in the South Fossa Magna ?
……Martin, Andrew James・Amano, Kazuo

41.　11 : 00　中期中新世古伊豆弧の位置に対する地質学的制約
……高橋雅紀・吉田武義

42.　11 : 15　南部フォッサマグナにおける被衝突地塊の回転運動……天野一男・石田　高・Martin, Andrew James・田中舘宏橘・納谷友規・鈴木久美子・菅沼悠介・岡田　誠

43.　11 : 30　フォッサマグナの関東地域における後期中新世の造構－火成作用……足立久男

27日（日）　14 : 00－16 : 15，第8会場

44.　14 : 00　北部フォッサマグナ谷川岳深成岩体のフィッショントラック年代と全岩Rb–Sr年代
……大平寛人・近藤一宏・飯泉　滋・川野良信

45.　14 : 15　Miocene collapse in the Echigo-Yuzawa region, Central Japan: new stratigraphic, Sedimentological and tectonic Evidence ……Choi, Tad James

46.　14 : 30　北部フォッサマグナ中央隆起帯地における更新世の運動－そのⅠ，塩田平・上田盆の形成
……塚田有一郎・山岸猪久馬・上原利明

47.　14 : 45　北部フォッサマグナ中央隆起帯地における更新世の運動－そのⅡ．内村渓谷の形成
……上原利明・山岸猪久馬・塚田有一郎

48.　15 : 00　北部フォッサマグナ中央隆起帯における更新世の運動－そのIII．大峰面形成後の運動
……山岸猪久馬・塚田有一郎・上原利明

49.　15 : 15　北部フォッサマグナ犀川流域における地質構造と古地磁気……新妻祥子・丸山俊明

50.　15 : 30　北部フォッサマグナ猿丸層の火山灰層とその対比
……青木豊樹

51.　15 : 45　長野県小谷村における「糸魚川－静岡構造線」とその断層露頭……竹内　均・白石秀一・植村　武

52.　16 : 00　北部フォッサマグナ山地の隆起と浸食
……富樫　均

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 45－11 : 47　第8会場＞

P13.　11 : 45　北部フォッサマグナ地質図（20万分の1）
……加藤碩一

地 域 層 序

世話人：新妻信明（senniit@sci.shizuoka.ac.jp）

座長：53–56　星　博幸，57–62，P14–P20　新妻信明，63–69　岡田　誠，70–76　柳沢幸夫，77–81　滝沢文教

25日（金）　9 : 00－11 : 30，第9会場

53.　9 : 00　北海道芦別川流域の空知層群最上部に認められる

炭素同位体比変動（OAE1a）
……安渡敦史・西　弘嗣・掛川　武・高嶋礼詩・斎藤常正

54.　9 : 15　後志利別川の河成段丘の対比と編年
……鈴木隆司・紀藤典夫

55.　9 : 30　下北半島西部の中新統の層序と年代
……伝法谷宣洋・伊藤　隆・松末和之

56.　9 : 45　下北半島西部鮮新統の層序の再検討―“グリーンタフ”の位置付け―
……河野啓幸・熊崎直樹・吉岡　正

57.　10 : 00　房総半島・三浦層群における火山灰層のK–Ar年代……卜部厚志・大木淳一・吉久順子・須江由佳里

58.　10 : 15　鮮新―更新統上総層群下部に挟在する火砕鍵層Kd38の側方岩相変化 ……里口保文・渡辺真人

59.　10 : 30　銚子地域犬吠層群（更新統）および上総層群における火山灰鍵層の対比
……岡田　誠・久光敏夫・中丸純平

60.　10 : 45　関東平野西部地域の地質構造……鈴木宏芳

61.　11 : 00　島弧変動期における堆積盆地の発生・発展様式―関東平野西縁丘陵地域を例として―…竹越　智・倉川　博・関東平野西縁団体研究グループ

62.　11 : 15　（招待）陸上セクションの磁気極性層序と高精度年代測定：茂木地域の下部中新統に対する研究
……星　博幸

25日（金）　14 : 00―17 : 30，第9会場

63.　14 : 00　越後平野中央部，白根地域の“沖積層”の層序と年代……鴨井幸彦・安井　賢・小林巌雄・立石雅昭・針生真也・伊豫田成子・田中里志

64.　14 : 15　越後平野中央部白根地域における“沖積層”の汽水性動物群集……安井　賢・渡辺其久男・鴨井幸彦・小林巌雄

65.　14 : 30　新潟地域の椎谷/寺泊層境界付近に分布する火山灰層の対比……大久保進・辻　隆司・花方　聡

66.　14 : 45　日本海側新第三系における底生有孔虫化石帯 *Spirosigmoilinella compressa*/*Milliammina echigoensis* Zone境界の年代と古環境上の意義
……花方　聡・辻　隆司・本山　功・平松　力

67.　15 : 00　能登半島珠洲地域の中新統の珪藻化石層序
……柳沢幸夫

68.　15 : 15　掛川層群の堀之内層と土方層の層序関係
……柴　正博・横山謙二・渡辺恭太郎・佐々木昭仁・真田瑠美・駿河湾団体研究グループ

69.　15 : 30　岐阜県岩村層群（中新統）の火山灰層序の検討と対比……細山光也・丸山　徹・入月俊明

70.　15 : 45　滋賀県甲賀郡甲西町野洲川河床の古琵琶湖層群の層序と年代……黒川　明・里口保文

71.　16 : 00　兵庫県加東郡東条町南西部における神戸層群の岩相層序……阪本龍馬・岩田英明・竹村厚司・西村年晴

72.　16 : 15　岡山県高山市（こうやまいち）地域の備北層群からの中新世珪藻・放散虫化石
……三宅　誠・渡辺真人・竹村厚司

73.　16 : 30　広島県庄原市，西城川河床における海成中新統の岩相と古環境……山本裕雄

74.　16 : 45　飛騨外縁帯北東部の手取層群……滝沢文教

75.　17 : 00　和泉山脈の和泉層群から産出した放散虫群集
……橋本寿夫

76.　17 : 15　四国東部，四万十累層群の岩相層序と放散虫年代
……石田啓祐

26日（土）　9 : 00―10 : 15，第9会場

77.　9 : 00　球磨川流域・ジュラ系坂本層の放散虫化石層序
……松山朋代・村田正文・豊原富士夫

78.　9 : 15　豊浦層群（下部ジュラ系）の層序と堆積環境
……石浜佐栄子・松本　良

79.　9 : 30　黒瀬川帯のシルル～デボン系祇園山層群の層序の再検討……梅田真樹

80.　9 : 45　九州中部黒瀬川帯及びその周辺部の先白亜系層序
……内田守亮・豊原富士夫・村田正文

81.　10 : 00　九州黒瀬川帯及び周辺部の層序
……豊原富士夫・村田正文・内田守亮・兼国晋輔

25日（金）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 30―11 : 44　第9会場＞

P14.　11 : 30　根室層群の大型化石層序
……成瀬　元・前田晴良・重田康成

P15.　11 : 32　北海道中央部，中新統上杵白層の珪藻化石年代
……芳賀正和・黒田智子・浅野裕史・金川久一・伊藤谷生

P16.　11 : 34　岩手・青森県二戸–三戸地域の新第三系の層序
……松原尚志

P17.　11 : 36　大町テフラ群のジルコンFT年代の再検討
……岩野英樹・檀原　徹

P18.　11 : 38　大町テフラ群のジルコンFT年代の再検討
……檀原　徹・岩野英樹

P19.　11 : 40　凝灰岩中の重鉱物を用いた，岐阜県岩村・瑞浪・可児盆地間の中新統の対比
……加藤丈典・細山光也

P20.　11 : 42　香川県高松平野の第四紀後期層―とくにテフラ層序……川村教一

広　域　層　序

世話人：柳沢幸夫（yanagisa@gsj.go.jp）
座長：82–85　柳沢幸夫，86–88，P21　木村勝弘

26日（土）　10 : 00―11 : 45，第9会場

82.　10 : 00　（招待）精密層序学と日本列島の地球科学
……新妻信明

83.　10 : 15　日本新生界の放射年代層序……木村勝弘

84.　10 : 30　魚沼層群のSK110火山灰層と上総層群のKd25火山灰層の広域対比……黒川勝己・青木豊樹・富田裕子・長橋良隆・里口保文・大橋理香

85.　10 : 45　ヒュオン半島および房総半島の海成段丘からみた酸素同位体ステージ3の古海面高度…… 菊地隆男

86.　11 : 00　古地磁気強度層序―第四紀海底堆積物の新たな年代推定法……山崎俊嗣・井岡　昇

87.　11 : 15　富山県八尾地域に分布する新第三系の古地磁気/珪藻化石層序

……伊藤康人・柳沢幸夫・渡辺真人

88.　11 : 30　房総半島における中部中新統の複合年代層序
……渡辺真人・高橋雅紀

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 45－11 : 47　第9会場＞

P21.　11 : 45　新第三紀球状放散虫*Spongoplegma*属の北西太平洋域における層位分布……鈴木紀毅・本山　功

古海洋底・付加地塊層序の復元

世話人：松岡　篤（matsuoka@geobio.ge.niigata-u.ac.jp）・永広昌之

座長：P22,　89–91　松岡　篤，92–94　永広昌之

26日（土）　16 : 00－17 : 30，第2会場

89.　16 : 00　（招待）顕生代層状チャートの全岩および放散虫化石の化学組成……加藤泰浩

90.　16 : 15　美濃帯犬山地域の三畳紀層状チャートの古地磁気
……安藤暁史

91.　16 : 30　上部ペルム系放散虫生層序の再検討（その2）－岩相層序や地質構造との関わり－
……桑原希世子・八尾　昭・山北　聡

92.　16 : 45　岐阜県上宝村飛騨外縁帯福地地域の空山層の層序と構造……東田和弘・高橋　泰

93.　17 : 00　ニュージーランド北島，ワイパパテレーン北部の海洋底堆積物層序……竹村厚司・相田吉昭・堀　利栄・K. Berhard Sporli・Hamish Campbell・小玉一人・酒井豊三郎

94.　17 : 15　チベットヤールンツァンポー縫合帯における中生代珪質堆積物の分布と産状
……松岡　篤・楊　群・小林健太・長橋　徹・曾　慶高・王　玉浄

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　15 : 58－16 : 00　第2会場＞

P22.　15 : 58　放散虫mixed faunaの一例 …石田直人・村田正文

砕屑物組成とテクトニクス

世話人：公文富士夫（shkumon@gipac.shinshu-u.ac.jp）・君波和雄・武蔵野実・竹内　誠

座長：95–98　公文富士夫，99–102　竹内　誠，103–106，P23–P26　武蔵野実，107–110　吉田孝紀，111–112　君波和雄

26日（土）　9 : 00－12 : 00，第6会場

95.　9 : 00　（招待）砕屑粒子の年代論から解析するテクトニクス……足立　守

96.　9 : 15　美濃帯北東部，乗鞍岳地域から産出した高Mgザクロ石を含む片麻岩礫とそのCHIME年代
……田中姿郎・足立　守・鈴木和博

97.　9 : 30　富山県南部域，手取層群礫岩中のカリ長石に富む花崗岩礫の年代
……杉本憲彦・足立　守・鈴木和博

98.　9 : 45　新潟県青海町に分布する白亜系尻高山層の砂岩組成……岸上正裕

99.　10 : 00　（招待）砕屑性ザクロ石による堆積物供給源解析
……寺岡易司

100.　10 : 15　四国中央部，三波川帯大歩危地域砂岩片岩中の砕屑性ザクロ石……金子吾朗

101.　10 : 30　砕屑性クロムスピネルからみた日本列島のテクトニクス……久田健一郎・荒井章司

102.　10 : 45　EPMAによる全自動粒子解析の応用
……近藤裕而・大槻正行・大橋秀実

103.　11 : 00　紀伊半島に分布する四万十累帯白亜系砂岩の重鉱物組成とその時代的変化……別所孝範

104.　11 : 15　四国西部の四万十帯白亜系砂岩
……寺岡易司・川上久美

105.　11 : 30　北海道穂別～新冠地域における中・上部中新統砂岩の組成……吉田孝紀・川上源太郎・白杵　直

106.　11 : 45　Sedimentation and provenance of the Neogne sequences, western Indo-Burman Ranges, Myanmar ……キ・キン

26日（土）　14 : 00－15 : 30，第6会場

107.　14 : 00　足柄堆積盆と丹沢山地からみた島弧－島弧衝突帯における物質収支……徐　垣

108.　14 : 15　（招待）日本列島の砂岩の化学組成とテクトニクス……君波和雄

109.　14 : 30　Al_2O_3/SiO_2－Basicity Indexダイアグラムとその類似ダイアグラムについて－その3－
……武蔵野実

110.　14 : 45　三波川変成帯砂質片岩と秩父帯ジュラ系・四万十帯白亜系砂岩との化学組成上の関連
……石濱茂崇・君波和雄

111.　15 : 00　白亜系蝦夷累層群砂岩の全岩化学組成パターン
……川村信人・藤本樹快

112.　15 : 15　変成砕屑岩の微量元素組成を用いた後背地解析
……萩谷　宏

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　12 : 00－12 : 08　第6会場＞

P23.　12 : 00　長門構造帯周辺の砕屑性クロムスピネル
……高島　静・久田健一郎・荒井章司

P24.　12 : 02　九州東・中部四万十帯の砂岩組成……酒井　彰

P25.　12 : 04　日本列島の中・古生代地帯における堆積岩の元素組成の変化からみた地殻進化過程
……道前香緒里・石賀裕明

P26.　12 : 06　オーストラリア北東部，ボーエン堆積盆東縁の二畳系砂岩の組成とテクトニクス
……公文富士夫・Fielding C. R.

炭酸塩岩起源と環境

世話人：佐野弘好（sano@geo.kyushu-u.ac.jp）・松本　良

座長：113–116　川村寿郎，117–120　松本　良，121–124　中森　亨，125–126，P27– P30，P31　佐野弘好

27日（日）　9 : 00－12 : 00，第6会場

113.　9 : 00　（招待）Paleoenvironmental analysis of the Mercia

Mudstone Group (Upper Triassic) of the Severn Basin and Bristol Channel Region, Southwest Britain ……Paul. G. Milroy

114. 9 : 15 韓国カンブリア・オルドビス系朝鮮累層群に見られる石灰質扁平礫レキ岩の分布とその意義
……伊藤民平・松本　良

115. 9 : 30 カナダ，ブリティッシュコロンビア州中部カシェクリークテレーンのPope石灰岩（中部石炭系～下部ペルム系）の岩相・年代（予報）
……佐野弘好・L. C. Struik・M. Orchard・L. Rui

116. 9 : 45 秋吉台，地獄台地区における秋吉石灰岩層群の上部石炭系～下部ペルム系紡錘虫生層序
……井川敏恵

117. 10 : 00 ペルム紀末期におけるサンゴ礁？―中国湖南省慈利地域の長興統セクション―
……川村寿郎・江崎洋一・沈　建偉・楊　万容

118. 10 : 15 トリアス紀六射サンゴの起源と造礁作用
……江崎洋一

119. 10 : 30 琉球弧における始新世火成活動と炭酸塩岩の堆積
……中森　亨・河野慎児・井龍康文

120. 10 : 45 東南アジア中新統炭酸塩岩貯留岩の続成作用とその規制要因……松田博貴・松田文彰・石田　聖

121. 11 : 00 沖縄県与那国島に分布する琉球層群の層序と堆積相……山田茂昭・松田博貴

122. 11 : 15 鹿児島県与論島の第四系サンゴ礁堆積物（琉球層群）……小田原啓・井龍康文

123. 11 : 30 沖縄本島下部更新統知念層の堆積相に基づく堆積環境の復元……平塚美友紀・松田博貴

124. 11 : 45 鹿児島県喜界島の時代の異なる砂丘砂層中における陸水性続成作用の相違……熊井教寿・松田博貴

27日（日） 14 : 00－14 : 30，第6会場

125. 14 : 00 沖縄県竹富島コンドイ浜で発見されたLime clay（サンゴ礁粘土）……山本　聰

126. 14 : 15 白骨温泉の“噴湯丘”の起源と「白骨大池」の提唱……松本　良・渡辺大輔・小田　浩・伊藤民平

27日（日）ポスター会場

＜口頭紹介　14 : 30－14 : 38　第6会場＞

P27. 14 : 30 球磨川中流域神瀬層群トリアス系石灰岩の生物構築構造……上島　彩

P28. 14 : 32 インドネシア中新統炭酸塩岩油層の堆積過程シミュレーション……松田文彰・松田純典・斉藤道典・岩橋龍太郎・小田　浩

P29. 14 : 34 更新統琉球層群中の化石造礁サンゴ群集―その特徴と変化パターン―……砂川奈都召

P30. 14 : 36 縞状トゥファの組織的特徴
……藤井秀憲・井原拓二

炭酸塩地球化学から読み取る環境変動

世話人：松田博貴・狩野彰宏（hmat@sci.kumamoto-u.ac.jp）
座長：127–130　松田博貴，131–133　狩野彰宏，P31　佐野弘好

27日（日） 15 : 00－16 : 45，第6会場

127. 15 : 00 （招待）造礁サンゴ骨格の同位体組成から読み取る日オーダーの海洋環境変動……山田　努

128. 15 : 15 トゥファ堆積場の水の安定同位体組成
……狩野彰宏・渡邊　剛

129. 15 : 30 縞状炭酸塩堆積物トゥファに記録された安定同位体組成……松岡　淳・坂井三郎

130. 15 : 45 北大東島試錐試料にみられる炭素・酸素同位体比の負のスパイクとその地質学的意義
……稲垣静枝・井龍康文

131. 16 : 00 （招待）顕生代炭酸塩岩中の微量元素含量と海洋環境との関連……相澤省一

132. 16 : 15 ゴンドワナ氷床寒冷期の開始：イラン石炭系炭酸塩岩の堆積学的・地球化学的研究からの証拠
……渡辺大輔・猪郷久治・上野勝美・松本　良

133. 16 : 30 イラン，ジョルファにおけるP/T境界直前のCe負異常　……角和善隆・松本　良・Hosein Gharei

27日（日） ポスター会場

＜口頭紹介　14 : 38－14 : 40　第6会場＞

P31. Green River頁岩の縞状構造の化学組成変化
……石橋正敏・波多野佳子・相川眞奈美

地質学において堆積有機物の果たす役割

世話人：秋山雅彦（akiyama@gipac.shinshu-u.ac.jp）
座長：134–137　鈴木祐一郎，138–141　鈴木徳行，142–144，P32　金子信行

25日（金） 9 : 00－11 : 45，第7会場

134. 9 : 00 堆積有機物と地質学……秋山雅彦

135. 9 : 15 （招待）バイオマーカー研究の新展開
……鈴木徳行

136. 9 : 30 バイオマーカーからみたカリフォルニア縁辺海の後期第四紀古環境
……山本正伸・山室真澄・田中裕一郎・多田隆治・Ingred L. Hendy・James P. Kennett

137. 9 : 45 初期続成過程における間隙水中へのメタン，ヨウ素の濃集機構……金子信行

138. 10 : 00 前期白亜紀海洋無酸素事変―下部蝦夷層群に見られる一例―……高橋一晴・平野弘道

139. 10 : 15 珪長質火成岩中の黒雲母に伴われる有機物：その起源と有機地球化学的意義
……三瓶良和・沢田順弘・松野貴子

140. 10 : 30 貯留層地化学の応用
……加藤　進・西田英毅・佐藤大地

141. 10 : 45 石油根源岩としての石炭の特徴と問題点
……鈴木祐一郎・藤井敬三

142. 11 : 00 顕微FTIRによるケロジェンのクラッキングカイネティックス……森田宜史・秋山雅彦・続木直英・波多野佳子

143. 11 : 15 西オーストラリア，ノースポール地域産世界最古（35億年前）生命化石と炭素同位体比
……上野雄一郎・磯﨑行雄・圦本尚義

144. 11 : 30 （招待）堆積岩有機物と隕石有機物の接点
……下山　晃

25日（金） ポスター会場
＜口頭紹介　11：45－11：47　第7会場＞

P32.　11：45　有機物特性から見た寺泊層および椎谷層の堆積環境……藤田和人・秋山雅彦・福島和夫

シーケンス層序学―基本概念，テクトニクス・層序への応用

世話人：高野　修（takano-o@jnoc.go.jp）・伊藤　慎
座長：145–148　高野　修，149–151　伊藤　慎

25日（金）　15：15－17：00，第6会場

145.　15：15　Forced regression堆積物のシーケンス層序学的位置づけ……伊藤　慎
146.　15：30　房総半島鮮新統清澄層のシート状タービダイト砂岩のシーケンス層序学的位置づけ……斉藤高浩
147.　15：45　房総半島上部更新統木下層のラグーン堆積物に認められるシーケンス層序学的特徴……西川　徹
148.　16：00　房総半島上部更新統木下層に認められる高周波堆積シーケンスの形成過程……杉本英也・西川　徹
149.　16：15　日本海第四系の第6オーダー（41k.y.）堆積シーケンス……北村晃寿・松井裕之・表　寛子
150.　16：30　新潟県東・西頸城地域鮮新統の堆積シーケンスと時代対比への応用……大村亜希子
151.　16：45　堆積シーケンスの形成におけるテクトニクス・砕屑物供給の影響に関する考察―日本海東縁新第三系堆積盆の例から―……高野　修

堆積相と堆積システム

世話人：立石雅昭（sedta9-4@sc.niigata-u.ac.jp）・鎌田耕太郎・増田富士雄
座長：152–155　立石雅昭，156–159　鎌田耕太郎，160–162, P33–P38　八木下晃司，163–167　岡崎浩子

25日（金）　9：00－11：45，第6会場

152.　9：00　キューバ，最上部白亜系ペニャルベル層の起源と堆積機構……高山英男・多田隆治・松井孝典・M.A. Iturralde-Vinent・田近英一・大路樹生・清川昌一・豊田和弘・岡田尚武
153.　9：15　南部北上帯，上部ペルム系の斜面堆積相……鎌田耕太郎
154.　9：30　豊浦・豊西層群の堆積相とジュラ～白亜紀大陸縁辺層序……太田　亨・坂井　卓
155.　9：45　前期中新統野島層群大屋層の堆積環境……小松原純子
156.　10：00　中新統唐鐘累層の海浜堆積物にみられるストームとストーム後の海浜回復過程の記録……前島　渉・中西健史
157.　10：15　背弧海盆初期における小堆積盆発達の一様式―中新統白鳥川層群の例……八木下晃司・小守一男・川守田浩
158.　10：30　古琵琶湖層群甲賀累層における湖成デルタの発達過程……中条武司・里口保文・片岡香子
159.　10：45　房総半島下部更新統黄和田層の堆積サイクル……高野壮太郎
160.　11：00　更新統下総層群上泉層の大規模フォーセット層理の成因……岡崎浩子
161.　11：15　新潟県長岡市南西方における魚沼層群の堆積システムの変遷について……池津大輔
162.　11：30　大阪西成区の完新統コアから求めた内湾堆積物の堆積速度と古水深及び堆積相の関係……宮原伐折羅・増田富士雄・入月俊明・藤原　治・吉川周作

25日（金）　14：00－15：15，第6会場

163.　14：00　下総台地を構成する浅海成堆積相の不均質性と透水性……久留景吾
164.　14：15　タービダイトサクセッションの時系列解析パターンから何がいえるか……徳橋秀一・石原与四郎・宮田雄一郎・三田　勲
165.　14：30　タービダイトのバイモーダル層厚度数分布とその意義……石原与四郎・宮田雄一郎・徳橋秀一・三田　勲
166.　14：45　厚層タービダイト砂岩の形態と累重様式：房総半島更新統国本層……高尾晶彦
167.　15：00　複合流ベッドフォームのサイズ分布……石垣朝子

25日（金）　ポスター会場
＜口頭紹介　11：45－11：57　第6会場＞

P33.　11：45　堆積相分布を利用した過去約45万年間の連続的な地殻上下動の復元―男鹿半島中～上部更新統への適用例―……白井正明・多田隆治
P34.　11：47　山中地溝帯西縁の堆積相と堆積環境……田辺　晋
P35.　11：49　宮崎層群‘宮崎相’に見られる海底谷充填物の発達……高清水康博
P36.　11：51　新潟堆積盆地における第四系階層性シーケンスの堆積システム……荒戸裕之・保柳康一・工藤哲朗
P37.　11：53　出羽丘陵はいつから隆起しはじめたか?―新庄盆地西部の鮮新統中渡層の年代と堆積環境―……川辺孝幸・本田康夫・長沢一雄
P38.　11：55　プログラデーションと海退浸食面―中部更新統潟端層を例にして―……立石雅昭・畠山幸司・神蔵勝明・卜部厚志・田中里志

珪質堆積物・続成作用

世話人：井本伸広（nimoto@wsml.kyokyo-u.ac.jp）・多田隆治・斎藤靖二・立石雅昭
座長：168–170　井本伸広，171–173　立石雅昭

26日（土）　15：30－17：00，第6会場

168.　15：30　紀伊半島四万十帯層状チャートの堆積環境―ノルマルパラフィン組成と主要元素組成からの推定……高柳幸央・山本鋼志・三村耕一・足立　守
169.　15：45　泥質堆積岩の化学的特徴―玄武岩質マグマの貫入による影響―……今中里華子・宮下純夫
170.　16：00　福井県加越台地の新第三紀中新世から産出したチ

ャート……水野閲映

171. 16 : 15 男鹿半島，新第三系珪質頁岩の化学組成からみた古海洋環境変動……木村進一・鹿園直建

172. 16 : 30 能登におけるフリントの産状と形態―珪化した棲管（鉄砲石）と「子ぶり石」
……赤羽久忠・大森昌衛・藤井昭二・吉川敏之・井川耽石

173. 16 : 45 黄鉄鉱・燐灰石の硫黄同位体比からみた登米統リン酸塩岩の形成条件……松永絹子・森清寿郎

堆積過程（実験，シミュレーション，現行堆積）

世話人：宮田雄一郎・斎藤文紀（yoshi@gsj.go.jp）
座長：174–177　斎藤文紀，178–181　宮田雄一郎，182–184，P39，P110–P111　村越直美

27日（日） 9 : 00－11 : 45，第5会場

174. 9 : 00 力学によらない砂粒子の運搬堆積シミュレーション……宮田雄一郎・木村　真

175. 9 : 15 礫質デューンの形成プロセス―海進面の形成波浪条件……村越直美・上村ゆう子

176. 9 : 30 砂浜海岸の堆積過程―大潟海岸について
……白井　亨

177. 9 : 45 三保海岸における礫の移動速度―海岸浸食に関連して―……佐藤　武

178. 10 : 00 駿河湾三保半島中大陸棚の堆積環境について
……中西のぶ江・堀口瑞穂・滝野義幸・根元謙次

179. 10 : 15 海水準変化にともなう堆積域の移動と三保砂嘴の形成……依田美行・根元謙次

180. 10 : 30 東海沖におけるタービタイトの発生周期と要因
……池原　研

181. 10 : 45 遡上型津波堆積物の堆積構造と堆積プロセス
……七山　太・重野聖元・佐竹健治・下川浩一

182. 11 : 00 海浜遡上によって生じた津波堆積物の粒度特性とその起源―平浜海岸における1993年北海道南西沖地震津波の研究例
……重野聖之・下川浩一・佐竹健治・七山　太

183. 11 : 15 北海道南西沖地震の陸棚堆積物への影響
……斎藤文紀・宮野正実・若林伸一・目黒和司・横田節哉

184. 11 : 30 サロマ湖湖底柱状試料の解析―内湾域堆積物粒径分布の多峰性について―……仁科健二

27日（日） ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 45－11 : 47，第5会場＞

P39. 11 : 45 地震起源の水中噴砂堆積物の基礎研究
……冨永英治・北村晃寿・酒井英男

海　洋　地　質

世話人：西村　昭（akiran@gsj.go.jp）・湯浅真人
座長：185–188　片山　肇，189–192　横川美和，193–194，P40–P49，P57–P60　川幡穂高，195–199　金松敏也，200–203　荒井晃作

26日（土） 9 : 00–11 : 30，第5会場

185. 9 : 00 南極，ロス海の陸棚縁の石灰質堆積物とその加速器質量分析法による^{14}C年代
……西村　昭・村山雅史・中村俊夫

186. 9 : 15 南大洋における高分解能古海洋解析の展開―ODP Leg177 船上研究成果―
……池原　実・杉山和弘・ODP Leg177 乗船研究者一同

187. 9 : 30 帯磁率及び岩石磁気学を用いた海洋底堆積物の圧密状態の解析（西大西洋フロリダ沖の白亜系―古第三系）
……中井睦美・ODP Leg171B乗船科学者

188. 9 : 45 更新統（ステージ8～10）における北大西洋深層流の変化についての一考察
……横川美和・ODP Leg172乗船研究者一同

189. 10 : 00 カリフォルニア沖北部後期更新世以降の生物源フラックスの変動
……黒田智子・坂本竜彦・小泉　格

190. 10 : 15 南北両半球の中緯度域における一次生産の変遷―シャツキーライズ，ロードハウライズ―
……川幡穂高・大串健一・畠山泰英

191. 10 : 30 東シナ海における黄河系堆積物の拡散とその歴史的変遷……片山　肇・斎藤文紀・池原　研

192. 10 : 45 浮遊性有孔虫の沈降・堆積過程
……山崎　誠・尾田太良

193. 11 : 00 日本海における浮遊性有孔虫群集
……堂満華子・尾田太良

194. 11 : 15 オホーツク海サハリン沖における完新世の珪藻遺骸群集の周期的変動……志賀健司

26日（土） 14 : 00－16 : 15，第5会場

195. 14 : 00 東地中海海底堆積物の酸素・炭素同位体比とその変動……中澤知哉・坂本竜彦・小泉　格

196. 14 : 15 東地中海堆積物中の砕屑物フラックスとアフリカモンスーン変動
……飯島耕一・坂本竜彦・小泉　格

197. 14 : 30 東地中海海底堆積物の可視領域分光反射能の測定法とその特性……大倉恒太・坂本竜彦

198. 14 : 45 淡路島北淡町野島蟇浦沖の海底地質について
……坂本多恵夫・根元謙次・井口博夫・小濱裕士

199. 15 : 00 東海沖大陸斜面の堆積層序発達史
……荒井晃作・岡村行信・倉本真一

200. 15 : 15 駿河湾西岸有度丘陵から大陸斜面の基盤構造
……石井　良・根元謙次

201. 15 : 30 明神海丘海底カルデラ床のアクティブ熱水フィールドとブラックスモーカー
……湯浅真人・藤原義弘・堀井善弘・石橋純一郎・石塚　治・小山純弘・東出幸真・植松勝之・山中寿朗

202. 15 : 45 伊豆―小笠原弧，孀婦岩構造線周辺の地質および記載岩石学的特徴……坂本　泉・藤岡換太郎

203. 16 : 00 西フィリピン海盆セントラルベイズンフォルトとマリアナ海溝の地形とテクトニクス
……金松敏也・藤岡換太郎・沖野響子・小原泰彦・本座栄一・松岡裕美・久田公一・

石井輝秋・池原　研・KR98-01乗船者一同

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　11：30－11：50，第5会場＞

P40.　11：30　過去5万年間のバイカル湖底堆積物中の10Be変動……堀内一穂・小林紘一・中村俊夫・箕浦幸治・尾田武史・羽鳥　聡・河合崇欣

P41.　11：32　南大洋，南東大西洋セクターの放散虫生層序―ODP Leg177船上研究　成果報告―……杉山和弘・ODP Leg177乗船研究者一同

P42.　11：34　海底コア（ODP Leg127）の珪藻群集にもとづいた鮮新世後期―更新世の日本海の古海洋学的研究……古屋克江

P43.　11：36　過去530万年間の東地中海sapropelsの堆積リズム……坂本竜彦

P44.　11：38　ROVによる三保半島沖の海底環境……堀口瑞穂・中西のぶ江・根元謙次

P45.　11：40　研究船白鳳丸KH98-1第3節航海報告―マリアナ・小笠原のマントルカンラン岩，海底噴出岩，熱水活動―……石井輝秋・佐藤　暢・平田由紀子・原口　悟・谷口英嗣・早坂康隆・前島丈明・中屋晴恵・山中寿朗・西尾嘉郎

P46.　11：42　南部マリアナ古島弧噴出岩類の岩石学的特徴及びテクトニクス上の意義……谷口英嗣・平田由紀子・原口　悟・佐藤　暢・早坂康隆・前島丈明・石井輝秋

P47.　11：44　南部マリアナ産マントルカンラン岩の構造的・岩石学的特徴……佐藤　暢・早坂康隆・前島丈明・谷口英嗣・原口　悟・平田由紀子・石井輝秋

P48.　11：46　中部伊豆・小笠原弧の地殻構造―孀婦岩構造線周辺の潜航調査による目視観察と広域マッピング―……藤岡換太郎・坂本　泉

P49.　11：48　潜水調査により明らかになった三陸沖日本海溝海側斜面の経年変化―堆積環境と開口性割れ目の発達―……平野　聡・小川勇二郎・藤岡換太郎・川村喜一郎

テクトニクス

世話人：大藤　茂（shige@sci.toyama-u..ac.jp）・宮田隆夫・山北　聡

座長：204–207　山北　聡，208–211　竹村静夫
212–215，P50–P52　亀高正男，216–220　大藤　茂

25日（金）　9：00－12：00，第3会場

204.　9：00　三重県西部の秩父帯の地帯区分……柏木健司

205.　9：15　紀伊山地中央部の秩父帯・四万十帯（その16）―紀伊山地中央部に黒瀬川帯はない―……八尾　昭・大和大峰研究グループ

206.　9：30　40Ar/39Ar whole-rock ages of the Sambagawa Belt of the western Kii Peninsula (Wakayama Prefecture) : constraints on the timing of accretion and reactivation along the Aridagawa tectonic line.……K. De Jong・C. Kurimoto・P.B. Guise・J.R. Wijbrans

207.　9：45　舞鶴帯，超丹波帯，丹波帯における2種の成立褶曲構造……竹村静夫・鈴木茂之

208.　10：00　美祢層群・成羽層群の後背地解析から復元した東アジアの構造発達史……亀高正男

209.　10：15　古地磁気から見た日本海形成時における隠岐島後の挙動……小島　健・岡田　誠・時枝克安・小室裕明・天野一男

210.　10：30　白亜紀，アジア東縁活動帯と太平洋 LIPS 活動による影響……木下　修

211.　10：45　母体―長坂地域の剪断帯：原岩，分布，テクトニクス……佐々木みぎわ

212.　11：00　（招待）東北日本白亜紀横ずれ断層運動……越谷　信・永広昌之

213.　11：15　上越帯・足尾帯の走向すべりを伴う衝上運動と再配列……竹之内耕

214.　11：30　（招待）美濃帯の走向すべり運動と再配列……大塚　勉

215.　11：45　横すべり場における手取層群堆積盆の形成……大藤　茂

25日（金）　14：00－15：15，第3会場

216.　14：00　西南日本内帯先白亜系ナップ群の運動像―特に周防変成帯について―……広瀬丈洋・早坂康隆

217.　14：15　（招待）西南日本内帯のナップ構造の横ずれ改変……早坂康隆

218.　14：30　黒瀬川帯北縁の横すべり断層運動……山北　聡

219.　14：45　盆地縁の礫組成から見た中国Tan-Lu断層の後期白亜紀の横ずれ運動……洪　景鵬・宮田隆夫

220.　15：00　アジア大陸東部の白亜紀横ずれ堆積盆……宮田隆夫・洪　景鵬・李　東雨・張　泰雨

25日（金）　ポスター会場

＜口頭紹介　12：00－12：06，第3会場＞

P50.　12：00　日高変成帯南部幌満カンラン岩体周辺のマイロナイト化作用……小原友弘・金子絵美・豊島剛志

P51.　12：02　関東山地三波川変成帯の地質構造……阿部龍巳

P52.　12：04　和歌山県北西部打田町における中央構造線地下構造のイメージング……河村知徳・越後智雄・久富邦彦・副田宜男・宮内崇裕・伊藤谷生・津村紀子・佐藤比呂志・川中　卓・井川　猛・紀伊MTL浅層反射法探査グループ

活　構　造

世話人：杉山雄一（sugiyama@gsj.go.jp）・芦寿一郎

座長：221–224　杉山雄一，225–228　竹村恵二，
229–232　岡村行信，P53–P56　芦寿一郎

27日（日）　9：00－12：00，第2会場

221.　9：00　函館平野西縁断層帯のテクトニクス……大津　直・田近　淳

222.　9：15　B級活断層の活動性評価について：函館平野西縁断層帯を例に……田近　淳・大津　直

223.　9：30　外秩父山地の隆起過程……松岡喜久次・小幡喜一・角田史雄・力田　正一・久津間文隆・

本間岳史・昼間　明・町田明夫

224.　9：45　川崎市によるバイブロサイス反射法物探と綱島断層系との関係……三梨　昂

225.　10：00　駿河湾奥部由比沖大陸棚の隆起帯について……滝野義幸・根元謙次　・山本玄珠

226.　10：15　日本海東縁の活断層とその上盤の変形様式……岡村行信

227.　10：30　阿寺断層の鮮新世以降の活動史（その2）……安江健一

228.　10：45　近畿三角地帯の主要活断層の地震発生危険度評価―現在の到達点と今後の課題……杉山雄一

229.　11：00　六甲山地東部五助橋断層・大月断層沿いの変位地形と断層活動性……丸山　正・林　愛明・宮田隆夫

230.　11：15　神戸市街地，五助橋断層南西延長域の地下レーダ探査……苦瓜泰秀・横道　崇・宮田隆夫

231.　11：30　別府湾周辺のネオテクトニクス……竹村恵二・伊藤康人・鎌田浩毅

232.　11：45　反射法地震探査による別府湾の第四紀テクトニクス……峯元　愛・伊藤康人・竹村恵二・由佐悠紀・井川　猛

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　12：00－12：08　**第2会場＞**

P53.　12：00　北海道千歳市東部コムカラ峠（道横断自動車道工事現場）に出現した活断層露頭……岡　孝雄

P54.　12：02　メタンハイドレートBSRからみた断層活動と堆積浸食過程―東海　沖南海トラフ付加プリズムの例……芦寿一郎・徳山英一・木下正高・平　朝彦

P55.　12：04　高横須賀断層（横断型）および河和断層（反転型）の形成機構に関する検討……牧野内猛・伊藤　孝・古澤　明・鳥越祐司

P56.　12：06　大阪住之江地域の撓曲構造と後期更新世～完新世の地質……土井康裕・七山　太・竹村恵二・北田奈緒子

プレート沈み込み帯におけるリモートセンシング，ロギング，およびモニタリング

世話人：平朝彦・斎藤実篤（saito@ori.u-tokyo.ac.jp）・芦寿一郎・斎藤文紀

座長：233–238　斎藤実篤，P57–P60　川幡穂高，

26日（土）　16：15－17：45，第5会場

233.　16：15　（招待）陸上掘削におけるロギング及びモニタリングの現状……伊藤久男

234.　16：30　プレート沈み込み帯におけるODPのloggingの成果……斎藤実篤

235.　16：45　プレート沈み込み帯における精密海底地形計測―日本周辺の海溝地形の特徴―……加藤幸弘・浅田　昭

236.　17：00　海底音響探査による北部伊豆・小笠原弧の火山群発達の軌跡……森田澄人・平　朝彦・徳山英一・石塚　治

237.　17：15　光波測距儀による南部フォッサマグナ南端における現行地質過程の実測……新妻信明

238.　17：30　プレート沈み込み帯の深海掘削と長期観測……平　朝彦

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　11：50－11：58，**第5会場＞**

P57.　11：50　千島海溝，日本海溝の海底精密地形とテクトニクス……佐々木智之・玉木賢策

P58.　11：52　Integration of core-log-seismic data : Study at Yamato Basin ODP Sites 794 and 797　…Moe K.T., Kuramoto, S., Saito, S., and Tamaki, K.

P59.　11：54　Multi-channel seismic reflection data of the western Nankai Trough: Evidence　for seamount subduction　……朴　進午・鶴　哲郎・小平秀一・高橋成実・木戸ゆかり・金田義行・木下　肇・河野芳輝

P60.　11：56　房総半島の第三紀層中に発達する面なし断層近傍の物性変化……鈴木清史

付　加　体

世話人：狩野謙一（sekkano@sci.shizuoka.ac.jp）・木村克己

座長：239–242　木村克己，243–246　村田明広，247–249，P61–P63　広野哲朗，250–253　中江　訓，254–256　坂口有人

26日（土）　9：00－11：45，第2会場

239.　9：00　（招待）付加体の構造地質学―現状と課題―……狩野謙一

240.　9：15　放散虫・フズリナ化石層序に基づく秋吉帯海山群の付加現象……中　孝仁

241.　9：30　丹波帯東部における付加コンプレックスのユニット区分と地質構造の形成……中江　訓・木村克己

242.　9：45　美濃帯伊吹山当方のジュラ紀古世及び中世付加コンプレックス……鈴木洋平・大塚　勉

243.　10：00　犬山地域の三畳系チャートの古地磁気とテクトニクス……小田啓邦・鈴木寿志

244.　10：15　鶏足山塊の堆積岩コンプレックスの区分……笠井勝美・天野一男

245.　10：30　（招待）美濃帯のメランジ　……脇田浩二

246.　10：45　付加体中の現地性緑色岩（奄美大島の名瀬層）―泥質岩の化学組成―……川端清司・君波和雄

247.　11：00　九州四万十帯，塚原衝上断層によるほぼ水平なナップ……村田明広

248.　11：15　四国西部伊ノ岬における四万十帯北帯・南帯境界部付近の地質と年代……小柳津　篤・君波和雄

249.　11：30　付加体のOut-of-sequence thrust―紀州四万十帯美山累層の例―……木村克己

26日（土）　14：00－15：45，第2会場

250.　14：00　（招待）付加体の温度履歴解析　……田上高広

251.　14：15　美濃帯の熱年代学的研究……長谷部徳子・渡邊宏昭

252..　14：30　鉱物脈の同位体組成および流体包有物解析から見た白亜系四万十帯のts熱史と流体分布

……坂口有人

253. 14 : 45 過去の付加体に見られる脈の時空間分布：紀州白亜系四万十帯を例に……橋本善孝・木村　学

254. 15 : 00 沈み込み帯浅部，付加体における流体の移動―画像解析を用いた間隙構造の可視化―……広野哲朗

255. 15 : 15 三浦層群岬層中に観察されるduplex構造の形態とそれによる側方短縮
……山本由弦・小川勇二郎・太田恭史

256. 15 : 30 ニュージーランド南島，カイコウラ南方のトーレス付加体の造構過程：重複褶曲と泥注入
……狩野謙一・小西祐作

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 45－11 : 51　第2会場＞

P61. 11 : 45 美濃帯根尾―和泉地域における左門岳ユニットから産出したトリアス紀・ジュラ紀の放散虫化石群集……小林祐哉

P62. 11 : 47 赤石山地中部，四万十帯の地質と放散虫化石
……村松　武

P63. 11 : 49 大分県番匠川中流域の三宝山帯床木層中に見られる砕屑岩脈……武邊勝道

断　層　岩

世話人：田中秀実（tanaka@sci.ehime-u.ac.jp）・林　愛明

座長：P64–P69　257–260　氏家恒太郎，261–264　大森琴絵，265–268　堤　昭人，269–270　大谷具幸

27日（日）　14 : 15－17 : 45，第2会場

257. 14 : 15 日本国マイロナイトの地球化学……高橋　浩

258. 14 : 30 輝炭反射率からみた延岡市北方の延岡衝上断層
……大森琴絵

259. 14 : 45 変形組織からみた花崗岩質カタクレーサイトの分類……小林健太・高橋美穂・豊島剛志

260. 15 : 00 断層ガウジに発達する複合面構造とクリープ性組織―四国地方中央構造線の例―
……檜　晋一郎・田中秀実

261. 15 : 15 低変成度領域における剪断帯の発達プロセス
……氏家恒太郎

262. 15 : 30 東北日本南西部の花崗岩類に見られる脆性断層岩の発達様式―蒲萄山塊花崗岩について―
……人見香奈子・豊島剛志

263. 15 : 45 野島地震断層平林地区の断層岩中の変形組織
……堤　昭人・江本祐嗣

264. 16 : 00 断層ガウジの生成年代と断層活動性評価―野島断層500m掘削コア試料を例として―……福地龍郎

265. 16 : 15 深度1500mの破砕帯における物質移動様式―富島1800mコアの解析―……冨田直人・田中秀実

266. 16 : 30 野島断層破砕帯における熱水活動の痕跡―流体包有物による解析―……大谷具幸・藤本光一郎・田中秀実・冨田直人・伊藤久男

267. 16 : 45 野島断層破砕帯の微細構造と変質鉱物の産状
……藤本光一郎・田中秀実・冨田直人・大谷具幸・伊藤久男

268. 17 : 00 断層帯浅部の物質移動様式……田中秀実・藤本光一郎・冨田直人・大谷具幸・伊藤久男

269. 17 : 15 断層中軸帯における断層岩の鉱物組み合わせと量比の変化―野島断層の例―……関谷典恵・田中秀実・藤本光一郎・大谷具幸・伊藤久男

270. 17 : 30 防災科学技術研究所野島断層掘削コア1300m破砕帯における鉱物組み合わせ，および元素分布様式―同掘削コア1140m破砕帯との比較―
……松田達生・新井崇史・池田隆司・小村健太朗・小林健太・佐野広征・澤口　隆・島田耕史・田中秀実・冨田倫明・冨田直人・平野　聡・山崎暁子

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　14 : 00－14 : 12　第2会場＞

P64. 14 : 00 岐阜県川上村，付知町における400m断層ドリリングによる阿寺断層破砕帯コア採取（序報）
……小村健太朗・池田隆司・飯尾能久・水落幸広

P65. 14 : 02 野島断層平林産のシュードタキライト・粉体岩の組織と化学組成……大槻憲四郎・長瀬敏郎

P66. 14 : 04 日高変成帯におけるマイロナイトの組織―カタクラサイト様組織をもつマイロナイトとS–Cマイロナイトの比較　……新里忠史・豊島剛志

P67. 14 : 06 新潟県北東部，五頭花崗岩体における脆性断層系の発達過程……高橋美穂・小林健太・豊島剛志・渡部直喜・厨川亮子

P68. 14 : 08 宮城県北西部の鬼首―湯沢マイロナイト帯
……大友幸子・菊地初絵・斎藤史子

P69. 14 : 10 中国地方西部のリニアメントとカタクレーサイト帯……安野泰伸・金折裕司・白石健太郎

岩石・鉱物の変形

世話人：竹下　徹（toru@letitbe.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp）・清水以知子

座長：271–274　安東淳一，　275–278　重松紀生，279–282　中村教博，P70–P72　西山忠男

25日（金）　14 : 00－17 : 00，第2会場

271. 14 : 00 日高変成帯北部のカンラン岩体の上昇と変形―南部幌満カンラン岩体との比較―……古姓昌也

272. 14 : 15 日高変成帯中央部における主帯―西帯構成岩類の運動像
……三池　力・高梨　将・金川久一・西澤　修

273. 14 : 30 幌満カンラン岩のカンラン石ファブリックと弾性波速度異方性……神田幸穂・澤口　隆・金川久一

274. 14 : 45 日高変成帯構成岩類の弾性波速度異方性
……高梨　将・三池　力・金川久一・西澤　修

275. 15 : 00 新第三紀徳和深成岩中の石英ファブリックはサブマグマ流動を示すか……滝沢　茂・小坂和夫

276. 15 : 15 対称律は構造地質学の禁制となりうるのか？
……中村教博・長濱裕幸

277. 15 : 30 ノンコアクシャル場での歪解析の精度
……林大五郎

278. 15 : 45 瀬戸川スレートに発達する微細構造の解析―白雲母の定向性に着目して―

……大塚隆司・山地孝昌・田中秀実

279.　16 : 00　角閃岩のレオロジー事始め：地殻中下部の流動の解明に向けて
……竹下　徹・安東淳一・藤原みどり

280.　16 : 15　斜長石の動的再結晶と断層岩の分類
……重松紀生

281.　16 : 30　歪硬化と動的再結晶組織の発達……清水以知子

282.　16 : 45　高圧変形実験で形成された珪酸塩ガーネットの微細構造……安東淳一・V. Voegele・P. Cordier・R . C. Liebermann

25日（金）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 17－11 : 23　第2会場＞

P70.　11 : 17　粒径依存クリープする二相岩のレオロジー
……武田昌尚

P71.　11 : 19　高歪み速度下での泥質堆積物の変形挙動―三軸試験機による研究報告―
……田中　尚・宮田雄一郎・鈴木清央

P72.　11 : 21　室内実験からみた地殻内部の流体移動と岩石の変形・破壊過程
……増田幸治・西澤　修・佐藤隆司・雷　興林

動的岩石学の新展開

世話人：鳥海光弘（tori@geol.s.u-tokyo.ac.jp）・西山忠男・小畑正明

座長：283–287　小畑正明，288–291，P73，P70–P72　西山忠男

25日（金）　9 : 00－11 : 15，第2会場

283.　9 : 00　変成帯の脱水過程と力学プロセス……鳥海光弘

284.　9 : 15　熱流と拡散流の相互作用による構造形成
……西山忠男・池田　剛

285.　9 : 30　結晶圧変化の複交代作用における役割
……大石いずみ・星野健一・下林典正

286.　9 : 45　衝突合体成長とオストワルド成長のカップリングに伴う組織形成……水谷哲也

287.　10 : 00　分散粒子による結晶粒子成長のピン止めに関するコンピュータシミュレーション……三宅　明

288.　10 : 15　変成岩中のフラクタルな菫青石の成長機構と拡散律速凝集（DLA）……宮崎一博

289.　10 : 30　（招待）パターン演算：火成岩の組織構造解析のための新しい概念の提案……寅丸敦志

290.　10 : 45　岩石の均質性と不均質構造についての一考察
……小畑正明

291.　11 : 00　（招待）核形成―成長に従う2種鉱物からなる組織の空間相関関数による解釈とその室戸岬はんれい岩への適用……森下律生

25日（金）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 15－11 : 17，第2会場＞

P73.　11 : 15　石英及び長石の再結晶組織における粒界タイプ
……平賀岳彦，秋月瑞彦

日本列島の内陸大地震は地質構造とどうかかわるか

世話人：塚原弘昭（htsukah@gipac.shinshu-u.ac.jp）・小嶋　智・佃　栄吉・竹内　章・大塚　勉

座長：P74–P76，292–295　塚原弘昭，296–299　小嶋　智

25日（金）　15 : 30－17 : 30，第3会場

292.　15 : 30　跡津川断層系，茂住祐延断層の変動地形と活動性
……竹内　章・伊藤谷生・迫垣内薫・岡田洋一・中川靖浩・哈斯巴特爾・武部晃充

293.　15 : 45　跡津川断層系，茂住祐延断層地表調査結果
……武部晃充・竹内　章・伊藤谷生・迫垣内薫・岡田洋一・中川靖浩・哈斯巴特爾・何　培明

294.　16 : 00　二つの大山脈にはさまれた伊那谷の活断層
……松島信幸

295.　16 : 15　信濃川地震帯の地震活動履歴とネオテクトニクス
……河内一男・大木靖衛

296.　16 : 30　中部日本における活断層のセグメント構造と地震発生様式……粟田泰夫

297.　16 : 45　西南日本における基盤地質と活断層……早坂康隆

298.　17 : 00　（招待）日本列島の水平ひずみと地質大構造
……橋本　学

299.　17 : 15　（招待）地殻内地震の上限，下限と内陸大地震
……伊藤　潔

25日（金）　ポスター会場

＜口頭紹介　15 : 20－15 : 26，第3会場＞

P74.　15 : 20　濃飛流紋岩中に発達する割れ目の特徴
……小嶋　智・大野　淳・矢入憲二

P75.　15 : 22　糸魚川–静岡構造線活断層系のセグメント構造を決めているものは何か……佃　栄吉

P76.　15 : 24　長野盆地で発生した中規模地震と盆地の形成
……塚原弘昭・赤羽貞幸

火山噴火と噴出物

世話人：中田節也（nakada@eri.u-tokyo.ac.jp）・安井真也・伊藤順一

座長：300–303　中田節也，304–307　安井真也，308–311　伊藤順一，P77–P82　中川光弘

25日（金）　9 : 00－12 : 00，第8会場

300.　9 : 00　（招待）鬼押出溶岩流からみた浅間火山1783年噴火の再検討……井上素子

301.　9 : 15　浅間火山1783年噴火の推移と噴火様式―不均質な安山岩質マグマの大規模噴火―
……安井真也・小屋口剛博

302.　9 : 30　（招待）雲仙普賢岳噴火より発生した火砕流/火砕サージ堆積物の地質学的検討―噴火の推移の復元，運搬過程の解析と火山災害との関わりを中心に―
……遠藤邦彦・長井大輔・橘川貴史・小森次郎

303.　9 : 45　埋没家屋発掘による火砕流・サージ・ブラストの堆積過程の検討

……千葉達朗・遠藤邦彦・小森次郎・長井大輔・橘川貴史・宮原智哉・森田明夫

304. 10 : 00 Block- and ash-flowの堆積過程:島根県三瓶火山の太平山火砕流堆積物の例……草野高志・中山勝博

305. 10 : 15 鮮新・更新世境界付近の福田火山灰層の再堆積過程……片岡香子・中条武司・吉川周作

306. 10 : 30 岩手県胆沢郡地方に分布する山形軽石の層序と供給源……照井一明

307. 10 : 45 榛名火山，二ツ岳噴出物の岩石学……鈴木由希・中田節也

308. 11 : 00 雲仙火山，平成新山出現前に放出された2種類の本質ガラス……渡辺公一郎・波多江憲治・渡辺一徳・本村慶信・中田節也・壇原　徹

309. 11 : 15 普賢岳噴火における“マグマ混合”のモデル……中田節也・C. H. Chen

310. 11 : 30 水蒸気爆発噴出物の固体物質科学……大場　司・北出優樹

311. 11 : 45 安山岩質成層火山における水蒸気爆発の発生頻度……守屋以智雄

25日（金）　ポスター会場

＜口頭紹介　14 : 10－14 : 22　第8会場＞

P77. 14 : 10 block and ash flow堆積物の堆積構造―雲仙普賢岳火砕流を例に―……橘川貴史・遠藤邦彦

P78. 14 : 12 神津島の千両池周辺で観察される流紋岩質熔岩の周縁相……金容義・坂本　泉・芹沢智則・田口弘介

P79. 14 : 14 秋田焼山における水蒸気爆発の発生履歴……伊藤順一

P80. 14 : 16 史料からみた桜島安永噴火の推移……井村隆介

P81. 14 : 18 火山ガラスと鉱物組成からみた三瓶火山のマグマ活動史……麻原慶憲・沢田順弘

P82. 14 : 20 火山噴出物中の石英斑晶に含まれるメルト包有物中の水分布……森泉美穂子・中嶋　悟

火山地質と火山発達史

世話人：中川光弘（nakagawa@cosmos.sci.hokudai.ac.jp）

座長：P77–82，P83–P84，P87–P88，312–315　中川光弘，316–319　小林哲夫

25日（金）　14 : 30－16 : 30，第8会場

312. 14 : 30 （招待）アグルーチネイトの成因 ……小林哲夫

313. 14 : 45 箱根火山，第Ⅳステージ（新期外輪山；YS）にみられる溶結凝灰岩……平田由紀子

314. 15 : 00 白亜紀佐々並コールドロン：山口県中央部の阿武層群中に見いだされた火山性陥没構造……井川寿之・今岡照喜

315. 15 : 15 （招待）プリニー式噴火から火砕流が発生するタイミングとその意味……古川竜太

316. 15 : 30 降下テフラによる水蒸気噴火の頻度と規模……奥野　充

317. 15 : 45 南八ケ岳火山層序の再検討―古地磁気層序および火山灰層序による研究―……内山　高

318. 16 : 00 北アルプス焼岳火山群のK–Ar年代……及川輝樹・紀岡秀征

319. 16 : 15 千島―東北日本弧会合部の新第三紀火山活動発達史とテクトニクス……広瀬　亘・岩崎深雪・中川光弘

25日（金）　ポスター会場

＜口頭紹介　14 : 22－14 : 26　第8会場＞

P83. 14 : 22 北アルプス，立山火山のK–Ar年代……中野　俊・宇都浩三・内海　茂

P84. 14 : 24 岐阜県下呂町東方，湯ヶ峰流紋岩とその給源岩脈の内部構造……石崎康男・宇江健一

火山岩および関連する深成岩

世話人：周藤賢治（shuto@scux.sc.niigata-u.ac.jp）・吉田武義

座長：320–324　周藤賢治，325–329　土谷信高，330–334　藤林紀枝，335–338　吉倉紳一，339–342　白木敬一，343–346，P85　佐野　栄，347–352　川野良信，353–358　今岡照喜

26日（土）　14 : 00－17 : 45，第3会場

320. 14 : 00 一の目潟放出物中のアルミナス・スピネルを含むはんれい岩……藤林紀枝・武内直人

321. 14 : 15 海川火山岩類とはんれい岩質包有物の成因……山本佳明・加々美寛雄・藤林紀枝

322. 14 : 30 北部北上山地の古第三紀浄土ケ浜流紋岩類に伴う高Mg安山岩類について……土谷信高・古川聡子・木村純一

323. 14 : 45 八戸～種差海岸地域における前期白亜紀火山岩類について……佐々木加奈子

324. 15 : 00 北上山地宮古花崗岩体の累帯構造について……小岩修平・土谷信高

325. 15 : 15 岩手県浄法寺地域におけるlow–K安山岩の岩石学的特徴とその時間的変化……安井光大・山元正継

326. 15 : 30 北海道知床半島基部，海別岳の地質と岩石……角田真一・周藤賢治

327. 15 : 45 北部北海道西部，浜益地域に産する鮮新世火山岩類のK–Ar年代と岩石学……青木　淳・周藤賢治・板谷徹丸

328. 16 : 00 北部北海道，置戸西方に産する第三紀火山岩のK–Ar年代と全岩化学組成……神保　啓・周藤賢治・板谷徹丸

329. 16 : 15 北海道北部中新世敏音知岳流紋岩の成因―岩石記載と化学組成からの検討―……垣原康之

330. 16 : 30 北部北海道第三紀玄武岩のSr・Nd同位体比の広域的変異とその成因……周藤賢治・垣原康之・山下智士・青木　淳・神保　啓

331. 16 : 45 富山県八尾地域周辺に分布する中新統岩稲累層火山岩類の全岩化学組成……高橋俊郎

332. 17 : 00 福井県三国地域のピジョン輝石斑晶を含む安山岩の岩石学……本谷　充

333. 17 : 15 能登半島北西部の高カリウム系列，黒崎火山岩類（玄武岩～デイサイト）の組成変化

……近藤美紀・石渡　明

334.　17 : 30　Volcanologic Relations of the Oligo-Miocene Sequence in Uchiura and Noto Areas, Noto Peninsula
……Lopez, Juan Carlos and Ishiwatari, Akira

27日（日）　9 : 00－12 : 00，第3会場

335.　9 : 00　琉球列島久米島の高Mg玄武岩と高Mg安山岩
……伊藤純一・白木敬一・浦野隼臣・坂元健太郎

336.　9 : 15　熊本県菊池市北部のMg安山岩と斜長石斑状安山岩……白木敬一・道繁　薫・伊藤純一・中野鉄也・松本徑夫・田島俊彦

337.　9 : 30　瀬戸内火山岩類，高縄山火道の地質とK–Ar年代
……棚瀬充史・薦田靖志・小畑英樹・小松　亮・梅田浩司

338.　9 : 45　香川県観音寺周辺に産する瀬戸内火山岩の岩石学的特徴……川畑　博・周藤賢治

339.　10 : 00　沈み込む堆積物の島弧火山岩組成に及ぼす影響―瀬戸内火山岩類の場合―……佐野　栄

340.　10 : 15　帯磁率異方性からみた丹沢トーナル岩体におけるマグマの流動
……金丸龍夫・高橋正樹・岡田　誠

341.　10 : 30　（招待）丹沢深成岩類の成因と伊豆弧火山岩
……川手新一

342.　10 : 45　小豆島花崗岩類に伴われるsynplutonic mafic dikeの岩石学的特徴……熱田真一・吉倉紳一

343.　11 : 00　花崗岩中にみられるmantled feldsparの多様性とその成因―足摺岬花崗岩体の例―
……伊藤元人・吉倉紳一

344.　11 : 15　瀬戸内海西部越智諸島大島に分布する花崗岩類―特にいわゆる大島石の組成変化について―
……山本定雄・吉倉紳一

345.　11 : 30　マグマ起源緑簾石―黒瀬川構造帯産石英安山岩脈中の緑簾石斑晶の例―
……吉倉紳一・松岡里美・吉村康隆

346.　11 : 45　広島県北西部戸河内花崗閃緑岩体に伴われる暗色包有物の起源……石岡　純・飯泉　滋

27日（日）　14 : 00－17 : 00，第3会場

347.　14 : 00　近畿領家帯花崗岩類中の捕獲岩と変輝緑岩の比較
……藤井宏明

348.　14 : 15　伊那領家帯，日曽利花崗岩の岩石化学的特徴
……柚原雅樹・加々美寛雄

349.　14 : 30　近畿領家帯花崗岩類のSr同位体初生値と全岩化学組成の特徴
……森岡幸三郎・田結庄良昭・加々美寛雄

350.　14 : 45　ざくろ石や白雲母を含む領家花崗岩類について
……中島　隆

351.　15 : 00　西南日本で見いだされたいくつかのラパキビ花崗岩:マグマ混合の重要性
……今岡照喜・竹友　和・加納　隆・加々美寛雄

352.　15 : 15　奈川花崗岩体の垂直岩相変化―交代作用による岩体頂部のSタイプ花崗岩の形成―
……羽部知宏・山口佳昭

353.　15 : 30　高シリカマグマの垂直変化―有明花崗岩体
……山口佳昭・七條　寛・牧野洲明

354.　15 : 45　新潟県上越市周辺の中性貫入複合小岩体の岩石化学的研究……大場孝信・林　宏樹

355.　16 : 00　北部フオッサマグナ，新第三紀花崗岩類の岩石学
……川野良信

356.　16 : 15　岩船花崗岩の結晶集積構造とその年代
……加々島慎一

357.　16 : 30　南部阿武隈山地，鮫川深成岩体の岩相変化と岩石化学的特徴
……田中久雄・寺門玲奈・A. M. R. Neiva

358.　16 : 45　現存する天体から飛来した隕石とその起源
……矢内桂三

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　12 : 00－12 : 02　第3会場＞

P85.　12 : 00　A possible magma composition of the Pilanesberg Alkaline felsic rocks, South Sfrica
……大高　暁・宮野　敬

マグマとマグマ成因論

世話人：木村純一（jkimura@riko.shimane-u.ac.jp）・高澤栄一・吉田武義

座長：359–362　沢田順弘，363–366　佐脇貴幸，367–370，P86　森清寿郎

26日（土）　9 : 00－12 : 00，第3会場

359.　9 : 00　北上山地宮古深成岩岩体の希土類元素組成と結晶分化シミュレーション……西岡芳晴・御子柴真澄

360.　9 : 15　近畿地方の領家花崗岩類の広域地球化学
……沓掛俊夫

361.　9 : 30　本邦産花崗岩及びペグマタイト中の流体包有物の地球化学的研究（その3）
……佐脇貴幸・笹田政克・佐々木宗建

362.　9 : 45　輝岩，閃長岩，燐灰石岩中の燐灰石―黒雲母の水素同位体の分配について
……黒田吉益・志賀美英・孫　世華

363.　10 : 00　カーボナタイトの炭素の起源とsource region
……森清寿郎

364.　10 : 15　珪長質火成岩中の黒雲母に伴われる有機物：マグマ学への貢献……沢田順弘・三瓶良和・松野貴子

365.　10 : 30　御岳火山の古期御岳期におけるマグマ組成の時空間変遷……紀岡秀征・三宅康幸・池元壮彦

366.　10 : 45　上野玄武岩類：マグマ発生場の時間発展
……木村純一・吉田武義

367.　11 : 00　上部マントルの部分融解作用―造山帯レルゾライトと海洋底ペリドタイトの比較―……高澤栄一

368.　11 : 15　アファー・マントルプルームの不均質性
……折橋裕二・Barry B. Hanan・Ashraf Al-Jailani

369.　11 : 30　（招待）マグマ生成のモデル化の現状と課題
……岩森　光

370.　11 : 45　島弧マグマにおける希ガス同位体比特性
……兼岡一郎

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　12 : 00－12 : 02　第3会場＞

P86.　12 : 00　一枚の厚い流紋岩溶岩における組成不均質性とそ

の形成プロセス：隠岐島後，末期中新世の流紋岩を例として……小林伸治・沢田順弘

火山活動とテクトニクス

世話人：高橋正樹（takama@mito.ipc.ibaraki.ac.jp）
座長：371–376　高橋正樹，P87–P88　中川光弘

25日（金）　16：00－17：30，第8会場

371.　16：00　（招待）北アルプスの火山周辺の地殻構造と地震活動……川崎一朗
372.　16：15　穂高－滝谷火山深成コンプレックスの形成場と飛騨山脈の隆起……原山　智
373.　16：30　飛騨山脈東西両地域の鮮新・下部更新統と火砕流堆積物……長橋良隆
374.　16：45　東北日本弧・伊豆マリアナ弧の会合部における火山体直下の基盤構造……中村庄八
375.　17：00　瀬戸内火山岩類の成因：設楽地方に分布する火山岩類からの制約……杉原孝充
376.　17：15　日本列島第四紀後期島弧火山域における火山・テクトニクス区……高橋正樹

25日（金）　ポスター会場
＜口頭紹介　14：26–14：30　第8会場＞

P87.　14：26　飛騨山脈，滝谷深成岩体中の流体包有物と熱水活動……関根孝太郎・坂東昌利・土屋範芳
P88.　14：28　焼岳のGPS観測と噴気孔温度観測……高山大貴・島田祐輝・上田和琴・乗松正志・角野由夫

下部地殻～上部マントルのマグマプロセス

世話人：新井田清信（kiyo@cosmos.sci.hokudai.ac.jp）・荒井章司
座長：377–382　阿部なつ江，383–387　松影香子，
389–393　山元正継，394–399　高橋奈津子

26日（土）　9：00－11：45，第1会場

377.　9：00　（招待）玄武岩マグマ成因論の新展開：ペリドタイト/玄武岩複合系の溶融実験より……高橋栄一
378.　9：15　上部マントルで生じた初期発生メルトの性質……高橋奈津子
379.　9：30　カリフォルニア，トリニティーかんらん岩体……上田夏代・荒井章司・松影香子
380.　9：45　リザードかんらん岩：プレート内マグマの影響を受けた海洋マントル物質？……角島和之・荒井章司・広重演久
381.　10：00　スペイン，ロンダかんらん岩体のコランダムを含む塩基性岩の岩石学……森下知晃・荒井章司・F. Gervilla
382.　10：15　みかぶ帯塩川かんらん岩体の起源……上杉次郎・荒井章司
383.　10：30　神居古潭帯のかんらん岩の成因……田村明弘・牧田宗明・荒井章司
384.　10：45　ウェンザル複合かんらん岩体……宮本浩二・荒井章司
385.　11：00　かんらん岩捕獲岩から見たホットスポット下の上部マントル……田中小満・荒井章司
386.　11：15　バイカル湖東方ヴィティム玄武岩に含まれるザクロ石レルゾライトのRb–Sr鉱物アイソクロン年代……阿部志保・山元正継
387.　11：30　岡山県荒戸山のアルカリ玄武岩中のざくろ石を含むハルツバージャイト……山元正継・阿部洋美・阿部志保・安井光大・伊藤　光

26日（土）　14：00－17：00，第1会場

388.　14：00　朝鮮半島のかんらん岩捕獲岩……阿部なつ江・荒井章司・喜田恵美・角島和之
389.　14：15　（招待）幌満かんらん岩の微量元素とメルトーマントル反応……高澤栄一
390.　14：30　上部マントル，メルト移動場におけるメルト/マントル相互反応の重要性について……松影香子・荒井章司
391.　14：45　深部マグマ活動の重要性：ダナイトとクロミタイトの成因……荒井章司・新井田清信
392.　15：00　ポディフォームクロミタイト形成におけるかんらん岩/メルト相互反応の程度の重要性：三郡帯とアルバニアの例……松本一郎・荒井章司
393.　15：15　ダナイト-クロミタイトチャネルの形成：形態と組織からの検証……新井田清信・荒井章司
394.　15：30　岩内岳のダナイト-クロミタイトチャネル：通過メルトと壁岩の相互作用……塩谷由美・新井田清信・寺井康文・須田裕子・三浦　亮
395.　15：45　パキスタン・マラカンドオフィオライト中のクロミタイト形成に関与したマグマの推定……須田裕子・新井田清信
396.　16：00　（招待）ミグマタイト成因論からみた下部地殻でのメルト－固体反応……志村俊昭
397.　16：15　（招待）コヒスタン島弧下部地殻のマグマ溜まり……久保和也
398.　16：30　西ヒマラヤコヒスタン帯チラス複合深成岩体の岩石化学……御子柴（氏家）真澄・高橋浩・久保和也・A. B. Kausar・T. Khan・高橋裕平・白波瀬輝夫
399.　16：45　コヒスタン帯ジジャール複合岩体の超苦鉄質岩の起源……寺井康文・新井田清信・Said Rahim Khan

変成作用とテクトニクス

世話人：廣井美邦（yhiroi@earth.s.chiba-u.ac.jp），渡辺暉夫
座長：400–403 平島崇男，404–407　板谷徹丸，
408–411　サイモン ウォリス，
412–413，P89–P93　高須　晃

26日（土）　14：15–17：45，第4会場

400.　14：15　北海道イドンナップ帯南部に分布する冬島変成岩類のprograde変成作用と変形作用……三浦路子・豊島剛志
401.　14：30　日高変成帯，静内川地域の十字石……臼杵　直
402.　14：45　スリランカにおけるスピネル＋石英の安定限界に

ついて……安東　努・小山内康人・宮下由香里・浜本拓志・吉原 靖

403.　15 : 00　北上山地，田野畑花崗岩体接触帯の部分溶融：酸素同位体による検討……奥山康子・上田　晃

404.　15 : 15　領家帯青山高原地域のミグマタイト―電気石の分布と岩相変化との関係……河上哲生

405.　15 : 30　カザフスタン産ひすい輝石岩中のコスモクロア……阪本志津枝・高須　晃

406.　15 : 45　西南日本とロシア沿海州の古生代オフィオライトと藍閃変成帯……辻森　樹・石渡　明・S. V. Vysotskiy・S. V. Kovalenko・A. I. Khanchuk

407.　16 : 00　超高圧変成岩の等温減圧履歴とその意義……中村大輔・平島崇男

408.　16 : 15　飛騨外縁帯青海，楢谷，伊勢地域の黒雲母帯以上の泥質片岩の岩石学……伊藤秀樹・石渡　明・辻森　樹・齋藤大地

409.　16 : 30　三波川帯ピーモンタイト石英片岩中のタルク形成反応 ……平島崇男・J. Izadyar・中村大輔

410.　16 : 45　四国中央部三波川変成帯のフィッション・トラック年代……高須　晃・大平寛人

411.　17 : 00　三波川変成岩の白雲母K–Ar年代の不一致……板谷徹丸

412.　17 : 15　三波川帯の運動学的解析より西南日本での過去のプレート運動を推定……牟田清文・Simon R. Wallis

413.　17 : 30　浮力による高圧変成岩の移流：三波川帯の高温部を例にして ……サイモン ウォリス

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　14 : 05－14 : 15　第4会場＞

P89.　14 : 05　ジンバブエ，リンポポ帯北縁部の石英長石質片麻岩に見られる普通角閃石脱水反応時期とその意義……棟上俊二・水野耕平・久田公一・宮野　敬

P90.　14 : 07　山口県領家帯八島花崗岩：角閃岩の部分溶融によって形成された花崗岩マグマ……佐藤　隆・宮下由香里・小松正幸

P91.　14 : 09　領家・阿武隈変成帯 ……小野　晃

P92.　14 : 11　白雲母を含まない砂泥質接触変成岩―関東山地の二畳紀ホルンフェルスの例―……竹内圭史

P93.　14 : 13　三波川帯，瀬場谷地域に産するエクロジャイトの成因―変形構造解析による統一的な説明……青矢睦月・S. R. Wallis

古領家帯と黒瀬川帯の諸問題（第2部）古領家帯

世話人：高木秀雄（hideo@mn.waseda.ac.jp）・磯﨑行雄・武田賢治

座長：414–418　亀井淳志，419–423　坂島俊彦，424–428　新井宏嘉

27日（日）　9 : 00－11 : 45，第1会場

414.　9 : 00　関東地方と四国～九州の古領家帯―南部北上帯・阿武隈帯の西方延長？……高木秀雄・柴田　賢

415.　9 : 15　黒瀬川－古領家陸塊の構造区分と運動像……原　郁夫・宮本隆実

416.　9 : 30　跡倉・金勝山ナップの構造発達史……新井宏嘉・高木秀雄・小林健太

417.　9 : 45　四国西部三波川帯～みかぶ帯に分布する中圧型高度変成岩・マイロナイト岩体の産状と起源……武田賢治

418.　10 : 00　四国西部，唐崎マイロナイトの帰属……吉村浄治

419.　10 : 30　南部北上帯―早池峰構造帯と黒瀬川構造帯・“古領家帯”―構造発達史の比較―……永広昌之

420.　10 : 45　南部北上山地，氷上花崗岩体について―その3―……浅川敬公

421.　11 : 00　（招待）CHIME年代からみた氷上花崗岩と他の先白亜紀花崗岩類……鈴木和博・足立　守

422.　11 : 15　化学組成からみた日本列島のペルム紀花崗岩類とシルル―デボン紀花崗岩類……小林靖広・高木秀雄・加藤　潔・山後公二・鈴木和博

423.　11 : 30　阿武隈帯竹貫変成岩の変成史……廣井美邦

27日（日）　14 : 00－15 : 15，第1会場

424.　14 : 00　肥後変成帯の花崗岩類……亀井淳志

425.　14 : 15　SHRIMPによる肥後帯深成岩類のU–Pb年代……坂島俊彦・寺田健太郎・日高　洋・佐野有司・竹下　徹・早坂康隆

426.　14 : 30　肥後変成岩のCHIMEモナザイト年代……鈴木和博・足立　守・高木秀雄・小山内康人

427.　14 : 45　（招待）領家帯の変成岩，花崗岩および苦鉄質岩の同位体年代……柚原雅樹・加々美寛雄

428.　15 : 00　領家花崗岩の形成に貢献した原生代中～初期岩石……加々美寛雄・柚原雅樹・川野良信

プレート収束域の深部過程

世話人：榎並正樹（enami@eps.nagoya-u.ac.jp）・田切美智雄・平島崇男

座長：429–430　榎並正樹，431–434　田切美智雄，435–439　小笠原義秀，P94–P97，P100　寺林　優

27日（日）　9 : 00－11 : 45，第4会場

429.　9 : 00　（招待）沈み込み帯の温度構造・物質循環・火成―変成作用・島弧の成長史……岩森　光

430.　9 : 15　（招待）ゴンドワナ大陸東縁部における沈み込み帯変成作用の成立……渡邉暉夫

431.　9 : 30　カザフ共和国・コクチェタフ超高圧変成帯の地質と地質構造 ……金子慶之・丸山茂徳・寺林　優・山本啓司・太田　努・安間　了・石川正弘・クリス パーキンソン・中島洋一・片山郁夫・小笠原義秀・真砂英樹

432.　9 : 45　カザフ共和国コクチェタフ超高圧変成帯のエクロジャイトの岩石学……真砂英樹・太田　努・クリス パーキンソン・寺林　優・中島洋一・丸山茂徳

433.　10 : 00　ドロマイトマーブル中のダイヤモンドの産状と安定関係……小笠原義秀・太田雅仁・片山郁夫・丸山茂徳

434.　10 : 15　カザフ共和国北部，コクチェタフ超高圧変成帯のジルコン中の包有物

……片山郁夫・丸山茂徳・金子慶之・寺林　優・山本啓司・太田　努・安間　了・石川正弘・クリス パーキンソン・中島洋一

435.　10 : 30　MORB＋H_2O系におけるエクロジャイト・ガーネタイト相転移……岡本和明・丸山茂徳

436.　10 : 45　四国中央部別子地域三波川変成帯中の五良津東部岩体の岩石組織……田中　宙

437.　11 : 00　四国三波川帯猿田川地域の後退変成作用……坂野靖行

438.　11 : 15　石英ファブリックに基づく四国三波川帯猿田川地域の変形条件と運動像……八木公史・竹下　徹

439.　11 : 30　沸石中の自形ヒスイ輝石……宮島　宏

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 45－11 : 53　第4会場＞

P94.　11 : 45　カザフ共和国コクチェタフ変成帯産含ダイヤモンド ドロマイトマーブル……太田雅仁・小笠原義秀・片山郁夫・丸山茂徳

P95.　11 : 47　中部地方佐久間－天竜地域の三波川帯……田切美智雄

P96.　11 : 49　北西ヒマラヤ，コヒスタン弧の下部地殻における流体の挙動……芳野　極

P97.　11 : 51　沈み込むスラブにおけるCaAl–鉱物のSrコンテナとしての重要性……榎並正樹・木村純一・吉田武義

オフィオライトと海洋プレート－生成からエンプレースメントまで

世話人：宮下純夫（miyashit@sc.niigata-u.ac.jp）・石渡　明

座長：440–444　太田　努，445–449　小沢大成，450–454，P98–P99　中川　充，455–459　植田勇人

25日（金）　9 : 30－11 : 45，第1会場

440.　9 : 30　（招待）環太平洋オフィオライトとプルームテクトニクス……丸山茂徳

441.　9 : 45　四国東部剣山地域のみかぶ緑色岩類－スーパープリュームによる火成活動？……小沢大成・元山茂樹・加藤泰浩・村田　守

442.　10 : 00　太古代プリューム起源海洋地殻の海洋低変成作用－オーストラリア，ピルバラ地塊，ノースポール地域…増田優記・寺林　優・丸山茂徳・小沢大成

443.　10 : 15　フィンランドの原生代前期のオフィオライトと付加体について……石渡　明

444.　10 : 30　シベリアクラトン南縁部，カンブリア紀付加体に産する緑色岩の岩石学……宇都宮敦・太田　努・石川　晃・丸山茂徳・M. Buslov

445.　10 : 45　ロシア極東，エリストラートバ・オフィオライト：島弧マグマ起源の沈積岩体……斎藤大地・石渡　明・辻森　樹・宮下純夫・Sergey D. Sokolov

446.　11 : 00　東インドネシア，チモールタニンバー諸島に産するオフィオライト……石川　晃・金子慶之・丸山茂徳

447.　11 : 15　オフィオライトエンプレースメントの力学的情報源：メタモルフィックソールの変形構造（オマーン，ワジタイン地域）……増田俊明・釘宮康郎・青島逸子・原由生子

448.　11 : 30　オマーンオフィオライト斑れい岩層にみられる鉱物累帯構造からみた火成プロセス……足立佳子・宮下純夫

25日（金）　14 : 00－16 : 45，第1会場

449.　14 : 00　ニペソツ緑色岩体－日高帯現地性緑色岩における横方向変化……宮下純夫・渡辺　徹・関川美香

450.　14 : 15　北海道北見枝幸地域に分布する緑色岩の岩石学……伊豆隆太郎・宮下純夫

451.　14 : 30　北海道中軸部白亜紀付加体から復元された空知海台の年代およびその形成場……堀　利栄・榊原正幸・木村　学・池田倫治・甲本智之・加藤宏海

452.　14 : 45　北海道中軸部南部三石地域における海山衝突型付加体の構成と白亜紀不整合……植田勇人・川村信人

453.　15 : 00　北海道空知層群上部に産出する緑色岩類の岩石学……長橋　徹

454.　15 : 15　20万分の1「浦河」図幅内のアルカリ玄武岩質岩床……中川　充

455.　15 : 30　北部北上山地葛巻付近の緑色岩類について……和田元子・土谷信高

456.　15 : 45　房総半島嶺岡オフィオライトの斑れい岩類……高橋直樹

457.　16 : 00　玄武岩の年代と組成に基づく嶺岡オフィオライト帯のテクトニクス……平野直人

458.　16 : 15　付加体玄武岩の3型と年代依存性……遅沢壮一

459.　16 : 30　徳島県南東部に分布する四万十帯緑色岩の変質とその進行過程……麻木孝郎・吉田武義

25日（金）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 45－11 : 49　第1会場＞

P98.　11 : 45　オマーンオフィオライト下底，メタモルフィックソールの変成鉱物：予察……釘宮康郎・松田　恭・青島逸子・増田俊明

P99.　11 : 47　夜久野オフィオライトとマリアナフォアアークオフィオライトにおける島弧内変成作用……前島丈明・早坂康隆

超高温変成作用と地殻の溶融

世話人：石塚英男（ishizuka@cc.kochi-u.ac.jp）・小山内康人

座長：460–463　石塚英男，464–467　本吉洋一，468–471　小山内康人，P100　寺林　優

27日（日）　14 : 00－17 : 00　第4会場

460.　14 : 00　（招待）超高温変成作用研究の最近の動向……本吉洋一

461.　14 : 15　（招待）地殻の溶融:証拠と意義……廣井美邦

462.　14 : 30　東南極ナピア岩体リーセル・ラルセン山地域におけるRb–Sr, Sm–Nd同位体年代……鈴木里子・白石和行・本吉洋一・加々美弘寛雄

463.　14 : 45　東南極ナピア岩体トナー島における超高温変成岩

類の地質……小山内康人・豊島剛志・大和田正明・角替敏昭・外田智千・W. A. Crowe

464. 15 : 00 東南極ナピア岩体トナー島産超高温マフィックグラニュライト……角替敏昭・小山内康人・豊島剛志・大和田正明・外田智千・W. A. Crowe

465. 15 : 15 東南極，ナピア岩体トナー島，超高温苦鉄質グラニュライトの原岩……大和田正明・小山内康人・豊島剛志・角替敏昭・外田智千・W. A. Crowe

466. 15 : 30 東南極ナピア岩体トナー島超高温変成岩類の変形作用……豊島剛志・小山内康人・大和田正明・角替敏昭・外田智千・W. A. Crowe

467. 15 : 45 東南極ナピア岩体トナー島における超高温アルミナスグラニュライトの変成作用……外田智千・小山内康人・豊島剛志・大和田正明・角替敏昭・W. A. Crowe

468. 16 : 00 $Fe_3Al_2Si_3O_{12}$–$Mg_3Al_2Si_3O_{12}$系のFeに富む組成領域における1気圧での相関係……酒井　聡

469. 16 : 15 九州肥後変成帯の変成作用と同位体組成……濱本拓志・小山内康人・加々美寛雄

470. 16 : 30 スコットランド北西・ルーイシアン岩体の超高温変成作用とスリナム石の形成・分解反応……馬場壮太郎

471. 16 : 45 ボツワナ東部リンポポ帯，低圧高温変成作用による大規模なミグマタイト岩体の形成について……久田公一

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 53－11 : 55　第4会場＞

P100. 11 : 53 南アフリカ・ブッシュフェルト火成岩体接触部における泥質岩の部分溶融……水野耕平・棟上俊二・久田公一・宮野　敬

情　報　地　質

世話人：升本眞二（masumoto@sci.osaka-cu.ac.jp）・坂本正徳・西脇二一

27日（日）　ポスター会場　＜口頭紹介なし＞

P101. 大阪平野における海成粘土層の基底深度の統計学的検討……三田村宗樹・吉川周作

P102. （招待）数値地質情報の表現と利用－Windows版簡易GISソフトGeomapZ……雷　興林・長谷川功・野呂春文・脇田浩二

P103. （招待）三次元地質構造表示機能を持つパソコン版ボーリングデータベース……高野　仁・得丸昌則

P104. 3次元地質モデルのVRML表示……坂本正徳・升本眞二・塩野清治・Venkatesh Raghavan

P105. （招待）3次元地質モデルの作成と表示……山根裕之

P106. 地質図幅をデータとした3次元地質モデリング……升本眞二・青山隆行・足立佳世・Venkatesh Raghavan・塩野清治

P107. （招待）地質調査分野におけるGISの利用……勝野直樹

P108. 岩石学データベースIGBA & SEDBA……西脇二一

P109. インターネット技術を利用した空間情報システム－地質学的な応用と可能性－……Venkatesh Raghavan・升本眞二・坂本正徳

太平洋新生代地史イベント

世話人：小笠原憲四郎（ogasawar@arsia.geo.tsukuba.ac.jp）・木村　学・保柳康一

座長：472–475　木村　学，476–478　保柳康一，479–484　小笠原憲四郎，P110–P111　村越直美

27日（日）　14 : 00－17 : 15，第5会場

472. 14 : 00 古第三紀から新第三紀初期の太平洋地域の地史イベント……小笠原憲四郎

473. 14 : 15 （招待）新生代太平洋地域のプレートテクトニクスと日本列島……山路　敦

474. 14 : 30 （招待）新生代東北本州弧における火山活動の変遷史……吉田武義

475. 14 : 45 20–16 Ma火山岩相，特に“砂子淵層”玄武岩の形成期と噴出環境……大口健志・和気史典・佐藤時幸・佐藤比呂志・馬場　敬・岡本金一

476. 15 : 00 北海道～サハリンにおける古第三系～下部中新統の有機質微化石層序に基づく年代と古環境……栗田裕司・小布施明子

477. 15 : 15 北海道東部阿寒地域の古第三系上部～新第三系下部の堆積相と不整合……卜部暁子・藤田　舞

478. 15 : 30 「中央北海道西縁火山活動区」の提唱－東北本州弧と千島弧の会合テクトニクスに由来する火山活動－……岡村　聡・横井　悟

479. 15 : 45 新生代東北日本弧－千島弧会合部の堆積作用からみたイベント……保柳康一

480. 16 : 00 西南日本内帯の古第三紀堆積盆のシークェンス層序とテクトニクス……坂井　卓

481. 16 : 15 九州北西部，五島灘周辺のシーケンス層序と構造発達史……岩田尊夫

482. 16 : 30 隠岐島後の後期新生代堆積－造構史……山崎博史

483. 16 : 45 Early middle Miocene North Pacific shallow-marine temperatures from mollusk stable isotopes……Atsuhito Ennyu, Michael A. Arthur, Karen Bice and Louie Marincovich

484. 17 : 00 日本海沿岸における現生介形虫群集の垂直分布の地理的変化と環境要因……小沢広和

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 47－11 : 51　第5会場＞

P110. 11 : 47 東北日本の反時計回転運動：現時点でのまとめ……星　博幸・高橋雅紀

P111. 11 : 49 日本海東縁の諸地域における，古第三系－新第三系の堆積盆の元素組成の比較……山崎静子・石賀裕明

山脈の上昇と山間・前縁盆地の形成：ヒマラヤと日本

世話人：在田一則（arita@cosmos.sci.hokudai.ac.jp）・酒井治孝・中山勝博

座長：485–488　在田一則，489–493　酒井治孝，494–497　中山勝博

25日（金）　14：00－17：15　第5会場

485.　14：00　（招待）中部山岳地域および近畿三角帯の鮮新世以降のテクトニクスと地形発達史に関する一仮説……池田安隆

486.　14：15　（招待）Tectonic uplift, basin formation and infilling in the Himalaya : Kinematic analysis and implications for petroleum resource evaluation ……Sorkhabi, Rasoul・Arita Kazunori

487.　14：30　ヒマラヤ山脈前縁の付加体－シワリーク丘陵中の17億年ドレライトと正珪岩のスラストパッケージ……酒井治孝・瀧上　豊

488.　14：45　ヒマラヤ前縁盆地における2回の堆積環境の変化と気候変動……田中里志

489.　15：00　ネパール国の新生界シワリク層における河川型の変遷と地史事件　……中山勝博・Ulak, D. Prakash

490.　15：15　ヒマラヤ前縁の上部第四系，活構造と地形配列……木村和雄

491.　15：30　新生代後期における日高変成帯の上昇速度……宮坂省吾

492.　15：45　モラッセ礫のK–Ar年代と山脈上昇:日高山脈の例……在田一則・板谷徹丸

493.　16：00　日高山脈南部の上昇について－アパタイトフィッション・トラック法を用いて－……小野昌子

494.　16：15　飛騨帯中央部のジュラ紀花崗岩類のフィッション・トラック年代……松田高明・後藤　篤・加納　隆

495.　16：30　岩手県湯田盆地の堆積物と年代－奥羽山脈中部の発達過程に関連して－……中嶋　健・檀原　徹

496.　16：45　鈴鹿山脈南部のテクトニクス……松葉千年

497.　17：00　河成地形の高度分布から推定した氷期・間氷期における下刻・埋積のプロセス……高木俊男・藤原　治・小澤昭男

超大陸：そのテクトニクス，マントルおよび環境変化

世話人：吉田　勝（myoshida@sci.osaka-cu.ac.jp）・有馬　眞・磯﨑行雄

座長：498–502 有馬　眞，503–506，P112　石川正弘，507–510　磯﨑行雄，511–514　清川昌一

26日（土）　9：00－11：15，第8会場

498.　9：00　（招待）超大陸の分裂とスーパープルームの役割……丸山茂徳

499.　9：15　（招待）インド中央構造帯のテクトニクス……Mukhopadhyay

500.　9：30　Assembly and dispersion of Pannotia: The“ reatest Gondwanaland ”? during the latest Neoproterozoic……吉田　勝

501.　9：45　南インド・ダルワールクラトンの花崗質岩のカリ長石三斜度……加納　隆・内山国志・衛藤卓郎

502.　10：00　南インド，Tamil Naduに産するアルカリ深成岩類の同位体地球化学的研究：Yelagiri, Sevattur, Samalpatti岩体 ……宮崎　隆・加々美寛雄・周藤賢治・森清寿郎・ラジャセカラン，K.C.・ラムモハン，V.

503.　10：15　原生代インド東ガート帯と形成年代のテクトニクス ……高野 直・有馬　眞・加々美寛雄

504.　10：30　Geology and petrography of the Eppawala carbonatite body and surrounding rocks ……Weerakoon, M. W. K., Shuto, K.

505.　10：45　インド洋形成テクトニクスとアフリカ，インド，オーストラリア大陸 北上史 ……玉木賢策

506.　11：00　初期大陸の形成と安定化－32億年前ピルバラ海岸グリーンストーン帯の例－……清川昌一・平　朝彦

26日（土）　14：00－16：00，　第8会場

507.　14：00　（招待）大陸とマントル対流の相互作用とダイナミックスについて……本多　了

508.　14：15　地震波速度構造と大陸地殻ダイナミックス……石川正弘

509.　14：30　超大陸の形成と地殻のデラミナーション……有馬　眞

510.　14：45　ロデニィア大陸の形成・分裂と地球環境の変遷……川上紳一

511.　15：00　原生代後期の氷河堆積物を覆うcap carbonateに見られる縞の基礎記載……東條文治・川上紳一・吉岡秀佳・岡庭輝幸

512.　15：15　シベリア地塊南縁部におけるカンブリア紀沈み込み帯の復元－ロシア南部アルタイ地域に産する緑色岩の変成作用－……太田　努・宇都宮敦・石川　晃・丸山茂徳・M. M. Buslov

513.　15：30　ロシア南部ゴルニアルタイ地域のベンド紀・カンブリア紀石灰岩：産状と岩相……内尾優子・磯﨑行雄・太田　努・丸山茂徳・M. M. Buslov

514.　15：45　超海洋中の炭素とP–T境界事件：収支と同位体シグナル ……磯﨑行雄

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　11：15－11：17　第8会場＞

P112.　11：15　インド南部の始生代花崗岩と東南極の始生代酸性片麻岩のRb–SrおよびSm–Nd同位体の特徴……田結庄良昭・加々美寛雄・Mahabaleswar, B.

環境地質－微生物による重金属の除去と環境修復を含めた地質汚染および廃棄物・残土における諸問題

世話人：田崎和江（kazuet@kenroku.kanazawa-u.ac.jp）・上砂正一

座長：515–518　上砂正一，519–522　佐藤賢司，
523–524，P113–P117　田崎和江

25日（金）　9：00－11：30，第4会場

515.　9：00　中間処理施設跡地の地質汚染調査
……森崎正昭・佐藤賢司・奥田泰資・日暮　淳・長谷川香・平沢裕史・上砂正一・楡井　久

516.　9：15　東関東自動車沿いの残土の分布について
……福間　進・楡井　久

517.　9：30　房総半島における地下水中のひ素の分布
……佐藤賢司・熱田みどり・風岡　修・森崎正昭・楠田　隆・古野邦雄・酒井 豊・香村一夫・香川　淳・楡井　久

518.　9：45　植物による重金属の濃集
……田崎和江・長谷川香織・青木　歩

519.　10：00　微生物を用いた重金属固定に関する基礎的実験
―神岡鉱山休廃坑の水質浄化をめざして―
……松本和也・田崎和江

520.　10：15　石川県尾小屋鉱山に見られるバイオマット
……張永杰・佐藤大介・田崎和江

521.　10：30　揮発性溶剤に汚染された河成層の調査と浄化対策について……間中理哉

522.　10：45　流入河川の影響からみる河北潟の水質と底質
……鈴木七重・田崎和江

523.　11：00　地質汚染調査のあり方……上砂正一・上垣内純子

524.　11：15　（招待）地球環境と微生物 ……加藤憲二

25日（金）　ポスター会場

＜口頭紹介　11：30－11：40　第4会場＞

P113.　11：30　薩摩硫黄島にみられる微生物関与の特異的堆積物
……四ヶ浦弘・田崎和江

P114.　11：32　硫化水素泉におけるイオウの挙動
……大野源広・山村　健・田崎和江

P115.　11：34　熱水噴出孔周辺における生体鉱物化作用
……山村　健・俵　健二・田崎和江

P116.　11：36　非鉄金属鉱山における植物の重金属濃集
……長谷川香織・田崎和江

P117.　11：38　排気ガスの微粒子の挙動
……佐々木直哉・田崎和江

環境地質―水文地質・都市地質―

世話人：長瀬和雄・古野邦雄（riegc@ppp.bekkoame.or.jp）
座長：525–527　長瀬和雄，528–530　古野邦雄

26日（土）　9：00－10：30　第4会場

525.　9：00　新潟平野の地盤沈下の現況について
……青木　滋・上條賢一

526.　9：15　地下水盆における近年の地盤沈下と地下水位変動
……古野邦雄・香川　淳・楠田　隆・楡井　久

527.　9：30　秋吉台の地下水系について
……配川武彦・藤井厚志

528.　9：45　東北タイの水文地質と地下水水質の関係
……今泉真之・Somsak Sukdan・Krisaree Palopakern

529.　10：00　塩水楔観測システムの開発
……徳岡隆夫・三瓶良和・亀井健史・西村清和・須崎　聡・松田滋夫・久保田俊介・鈴木重教

530.　10：15　水源の相違と水の浄化費用（千葉県内の事例から）……酒井　豊・楡井　久・楠田　隆

環境地質―地震地質・地殻変動と動的問題および防災

世話人：香村一夫（riegc@ppp.bekkoame.or.jp）・小荒井衛
座長：531–534　風岡 修，535–537　久保田喜裕，
538–541　小荒井衛

25日（金）　14：00－16：45　第4会場

531.　14：00　信濃川流域のネオテクトニクス（その1）
―津南町地域のテフラと段丘―……渡辺秀男・信濃川ネオテクトニクス団体研究グループ

532.　14：15　信濃川流域のネオテクトニクス（その2）
―津南町地域の完新世段丘と液状化―
……久保田喜裕・信濃川ネオテクトニクス団体研究グループ

533.　14：30　信濃川流域のネオテクトニクス（その3）
―小千谷市・川口町地域の河成段丘と変動
……飯川健勝・信濃川ネオテクトニクス団体研究グループ

534.　14：45　信濃川流域のネオテクトニクス（その4）
―小千谷市三仏生・真人の活断層と液状化―
……高浜信行・信濃川ネオテクトニクス団体研究グループ

535.　15：00　国府津―松田断層と地震活動……長瀬和雄・小沢　清・棚田俊収・萬年一剛

536.　15：15　房総半島北部～北西部で発生する地震による最大加速度値質……楠田　隆・酒井　豊・浅尾一巳・楡井　久

537.　15：30　盛土造成地調査への各種物理探査の適用例
香村一夫・風戸孝之・楡井　久

538.　15：45　火山灰の混入が地層の液状化強度に与える影響……風岡　修・楠田　隆・香村一夫・楡井　久

539.　16：00　地層の液状化にともなう吹きあげ現象と引きこみ現象について……大塚富男・高浜信行

540.　16：15　流動化による未固結砂泥互層の変形・破壊過程と流体の移動様式……姉川学利・宮田雄一郎

541.　16：30　礫質堆積物の液状化・流動化現象
……浅田恵里・北村晃寿

環境地質―人間社会と地質環境

世話人：鈴木喜計（ged03722@niftytserve.or.jp）・藤井昭二
座長：542–547　鈴木喜計

26日（土）　10：30－12：00　第4会場

542.　10：30　千葉県佐倉市における「湧水調査ボランティア」
―身近な環境地質学―
……香川　淳・古野邦雄・楠田　隆・楡井　久・佐倉市自然環境調査団

543. 10 : 45 地質環境研究室の一般公開と地質環境教育
……加藤晶子・古野邦雄・原　雄・伊藤哲也・香川　淳・香村一夫・風岡　修・楠田　隆・森崎正昭・中村正直・楡井　久・酒井　豊・佐藤賢司・須藤雅彦・末永和幸・高梨祐司・田村嘉之・山濱　裕

544. 11 : 00 愛知県豊田市北東部の領家花崗岩地域の地球化学図
…名古屋大学宇宙地球化学講座：代表　山本鋼志

545. 11 : 15 干出した諫早湾泥干潟で観察された貝類群集の多様性……早坂竜児

546. 11 : 30 瀬戸内海の歴史からみた海砂問題……井内美郎

547. 11 : 45 環境地質学的法則とダイオキシン汚染問題について……楡井　久

脊椎動物化石の系統と古生態

世話人：高橋啓一（takahasi@lbm.go.jp）
座長：548–551　仲谷英夫，552–556　後藤仁敏，557–560，近藤洋一

25日（金）　14 : 00－17 : 15，第7会場

548. 14 : 00 飛騨外縁帯福地地域より産出した古生代魚類化石について……後藤仁敏・大倉正敏

549. 14 : 15 備北層群および布志名層から産出した楯鱗化石について……中野雄介・高安克己

550. 14 : 30 東アジアにおけるコイ科魚類の歴史……友田淑郎

551. 14 : 45 アケボノゾウの体幹・体肢骨の特徴
……小西省吾・高橋啓一

552. 15 : 00 中部地方に産出するナウマンゾウ化石について
……近藤洋一

553. 15 : 15 日本産マンモスゾウ類とその課題
……高橋啓一・生津恵子

554. 15 : 30 アフリカ地溝帯の前期更新世哺乳類動物相と古環境 ……仲谷英夫・諏訪　元・Berhane Asfaw

555. 15 : 45 セイウチ科の進化について……堀川秀夫

556. 16 : 00 能登半島の中新統・飯塚珪藻土部層から産出した絶滅鰭脚類*Allodesmus*について ……小西健二・甲能直樹・柳沢幸夫・宮本正規・鍵主直

557. 16 : 15 現生鰭脚類の種内変異を考慮したアロデスムス属の分類……椋田崇生

558. 16 : 30 金沢市更新統大桑層産のヒゲ鯨類下顎骨化石
……長澤一雄・松浦信臣

559. 16 : 45 福井県の国見累層（中新世）産の哺乳類足跡化石
……安野敏勝

560. 17 : 00 九州北西部中新世野島層群の足跡化石と分布範囲
……河野隆重

中・古生代古生物

世話人：安藤寿男（ando@mito.ipc.ibaraki.ac.jp）
座長：561–564　安藤寿男，565–568　佐藤喜男，569–572，P118–P120，P123　中澤　努

26日（土）　9 : 00－12 : 00，第7会場

561. 9 : 00 化石の現地保存展示技術について……佐藤喜男

562. 9 : 15 河川の運搬作用が植物遺体集団におよぼす影響―東京都多摩川水系における観察から―
……大久保　敦

563. 9 : 30 石油根源岩ケロジェンタイプからみた顕生代の植物・古環境変化……鈴木宇耕

564. 9 : 45 岐阜県庄川上流地域の手取層群の層序と非海生二枚貝化石群集
……中田恒介・小荒井千人・松川正樹

565. 10 : 00 非海成二枚貝化石の生層序学的分解能の評価―日本と韓国の下部白亜系に基づいて―
……松川正樹・伊藤　慎・林　慶一・高橋　修・梁　承栄・林　成圭

566. 10 : 15 白亜系御所浦層群の二枚貝化石群……小松俊文

567. 10 : 30 サハリン・マカロフ地域の上部白亜系の大型化石層序……前田晴良・重田康成・岡本　隆

568. 10 : 45 後期白亜紀*Damesites*属アンモナイトの分類
……平野真史・平野弘道

569. 11 : 00 北部ペルーのシネムール階から産した放散虫
……鈴木寿志・プリンツーグリム ペーター・シュミット エッフィング ラインハルト

570. 11 : 15 美濃帯中部三畳系チャート層における放散虫化石の群集変化……谷口雅章

571. 11 : 30 足尾葛生地域の黒色珪質粘土岩から産出する三畳紀古世の放散虫化石……鎌田祥仁

572. 11 : 45 タイ国東部Klaengにおけるチャート/砕屑岩シーケンス中の最上部ペルム系放散虫
……指田勝男・Nakornsri Nikorn・Sirot Salyapongse

26日（土）　ポスター会場
＜口頭紹介　12 : 00－12 : 06　第7会場＞

P118. 12 : 00 豊橋市東部地域の秩父帯から産出する三畳紀放散虫化石……家田健吾

P119. 12 : 02 石炭紀ケーテーテス類の成長形態と礁生態系の中での位置づけ―青海石灰岩における観察例―
……中澤　努

P120. 12 : 04 *"Inoceramus" kusiroensis*（前期マストリヒシアン：白亜紀）の分類と化石層序学的位置
……安藤寿男

古生物　―新生代―

世話人：天野和孝（amano@juen.ac.jp）
座長：573–576　鈴木明彦，577–581　入月俊明，582–583，P121–P122　佐藤時幸，584–587　奈良正和，588–590　天野和孝

27日（日）　9 : 00－11 : 45，第7会場

573. 9 : 00 北海道東部の中新統石井沢層基底部より産出した岩石穿孔性二枚貝化石とその産出意義
……成田　健・天野和孝

574. 9 : 15 新潟県の鮮新統鍬江層より産出した*Humilaria*（二枚貝）の古生物地理学的意義 ……天野和孝

575.　9 : 30　鮮新統柵累層産の安山岩に穿孔した二枚貝化石群集……長森英明・品田やよい・田辺智隆

576.　9 : 45　鹿児島湾，燃島貝層について（その2）……松島義章・奥野　充・長岡信治・森脇　広・新井房夫・中村俊夫

577.　10 : 00　（招待）新生代における太平洋と他の海洋との開閉事件と本邦貝類化石群の対応……小笠原憲四郎

578.　10 : 15　北海道東部阿寒地域のデスモスチルス類と共産する軟体動物化石群……鈴木明彦・田中小枝・木村方一・嵯峨山積・石村豊穂

579.　10 : 30　中海・本庄水域の汽水環境特性と二枚貝殻体の炭素・酸素同位体比との関係……山口啓子・瀬戸浩二・高安克巳

580.　10 : 45　北浦東岸に分布する成田層の貝化石……大原　隆・菅谷政司

581.　11 : 00　鮮新世―更新世における寒流系石灰質ナンノ化石種の古生物地理と古海洋（予報）……佐藤時幸・亀尾浩司・高山俊昭

582.　11 : 15　石灰質ナンノ化石*Reticulofenestra*属のサイズ変化とその微化石層序学意味……亀尾浩司・Timothy J. Bralower

583.　11 : 30　長野県富草層群（中新統）の貝形虫化石群集に基づく古環境解析……山田　桂・入月俊明

27日（土）　14 : 00―15 : 45，第7会場

584.　14 : 00　瀬戸内区における前期中新世後期の貝形虫群集と海洋環境……入月俊明・山田桂・丸山　徹・伊藤ひとみ

585.　14 : 15　岩手県一関地域における中新統の浮遊性有孔虫化石群集と古環境……林　広樹

586.　14 : 30　埼玉県秩父盆地の中新統から発見された生痕化石……小幡喜一

587.　14 : 45　山形県上部中新統本郷層より多毛類化石の発見……金光男・長澤一雄・大森昌衛

588.　15 : 00　和歌山県田辺層群白浜累層下部産出の多毛類化石の産状……長田敏明・佐瀬和義・寺井一夫・中屋志津男

589.　15 : 15　東海層群から産出するブナ属化石……塚腰　実

590.　15 : 30　花粉分析からみた琉球列島におけるスギの消長……黒田登美雄・小澤智生・古川博恭・大城逸朗

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 45―11 : 49，第7会場＞

P121.　11 : 45　北海道中川町より産出した温暖種を含む軟体動物化石群集……松田敏孝・疋田吉識・鈴木明彦・都郷義寛・阿部恒平

P122.　11 : 47　高周波堆積シーケンス形成時の陸棚―沿岸環境における底生生物群集の復元　中部更新統金剛地層の生痕ファブリック解析から……奈良正和

地学史・地学教育

世話人：有田正史（arita@gsj.go.jp）

座長：591–594　三田直樹，595–598　中尾征三，599–602　有田正史，P123　中澤　努

26日（土）　14 : 00―17 : 00，第7会場

591.　14 : 00　巨大ザメ・メガロドンはいつ絶滅したか？―ある科学仮説の伝播事例―……兼子尚知・矢部英生・後藤仁敏

592.　14 : 15　構造運動論の発展段階と現状の問題点……鈴木尉元

593.　14 : 30　地質調査に関わる技術標準の国際的動向と我が国の対応……谷　和夫

594.　14 : 45　インターンシップによる地学系学生の企業研修とその効果……田中　剛・前田美佐男

595.　15 : 00　穂別町富内のイギリス海岸……櫻井和彦・地徳　力

596.　15 : 15　高師小僧の名前の由来……松岡敬二

597.　15 : 30　微生物が作る鉱床「湯の滝（Mn）・錦沼（Fe）」での科学教育と環境浄化活用提言……三田直樹・三浦洋行・白井　朗・澤村　寛・村石　靖・金井　豊・丸茂克美

598.　15 : 45　ミュージアム鉱研“地球の宝石箱”設立の意義―企業の社会貢献と環境整備の問題点―……加藤信一・江口　工

599.　16 : 00　生涯学習社会における地学教育を論ずる―科学技術館の科学の祭典に参加して―……神戸信和・三浦恵美・内野令四郎・棒　直仁・近藤聡宏・坂本洋典・平山大地

600.　16 : 15　明治以降の学校教育での「地学」という言葉の登場と歩み……倉林三郎

601.　16 : 30　「川崎の大地のつくりとおいたち」小学校の地質の教育……阿部国広

602.　16 : 45　すべての子どもたちに地球科学教育を……鈴木邦夫

26日（土）　ポスター会場

＜口頭紹介　12 : 06―12 : 08　第7会場＞

P123.　12 : 06　地質標本館グラフィックスシリーズ―地質調査所の地学普及用ポスター……利光誠一・佐藤喜男・坂野靖行・斎藤　真・豊　遙秋・川辺禎久

応用地質―岩盤崩落および崩壊

世話人：籾倉克幹（momikura.yoshimasa@kiso.co.jp）・千木良 雅弘

座長：603–606　千木良 雅弘，607–610，P125–P129　籾倉 克幹

27日（日）　9 : 00―11 : 15，第10会場

603.　9 : 00　（招待）地質にまつわる国際的な基準化の動向……谷　和夫

604.　9 : 15　御岳くずれの発生場所と発生時期の予測……籾倉克幹・松井智典・矢笠登美子

605.　9 : 30　六甲花崗岩地域における地震時斜面崩壊の発生場所……菊山浩喜・横山俊治

606.　9 : 45　1997年出水市針原川土石流災害……岩松　暉・中村隆介

607.　10 : 00　大規模地すべりと「外来」地下水……渡部直喜・藤田裕幸・鈴木幸治・佐藤　修

608.　10 : 15　圧縮空気下での堆積岩の風化特性試験
……大山隆弘・志田原巧

609.　10 : 30　重要文化財・下野煉瓦ホフマン窯の風化と保存
……朽津信明

610.　10 : 45　岩盤地すべりの三次元移動過程
……佐々木一郎・新谷　融

611.　11 : 00　面構造を有する岩盤のクリープと地すべり・崩壊
……千木良雅弘

27日（日）　ポスター会場

＜口頭紹介　11 : 15－11 : 25　第10会場＞

P124.　11 : 15　六甲山東部地域における斜面崩壊について－広島県の斜面崩壊と比較して－
……宮原正明・松井章拓・北川隆司

P125.　11 : 17　松本盆地のGPS地すべり移動観測
……上田和琴・藤井健一・高山大貴・角野由夫・田辺政貴

P126.　11 : 19　奥尻島神威山岩屑なだれの堆積地形と発生年代
……雨宮和夫・宮坂省吾・加藤孝幸

P127.　11 : 21　湯内港崩壊－ノッチに起因した岩盤崩落－
……永田秀尚

P128.　11 : 23　塊状蛇紋岩体の大型崩壊－北海道，鵜川岩体の「大崩れ」……加藤孝幸・田中耕平・樋掛鉄也・斎藤晃生・Goutam, P.

年会受付で本登録票に参加費を添えてお出し下さい．引換にネームカードをお受け取り下さい．参加費は正会員と非会員一般の方（*印）のみ必要です．

キリトリ線

キリトリ線

当日持参

日本地質学会105年年会

参　加　登　録　票

*下記のいずれかを○で囲んで下さい．

名誉会員　正会員*　院生会員　学生会員

非会員一般*　非会員学生

フリガナ
氏名

所属

今回は発表しますか（共同発表含む）

□　発表をする

□　発表しない

入会の仕方

入会ご希望の方は下の申込書に必要事項を記入し学会事務局へお送り下さい．
申込書はコピーしてお使い下さい．入会に際しては正会員か院生会員の紹介が必要です．近くに会員がいない場合はその由お申し出下さい．なお会費は前納制となっています．年会費は正会員：10,000円，院生会員：8,000円，学生会員：5,000円です．

日本地質学会入会申込書 Application form for the Geological Society of Japan

*会員番号	*会員種別 □ 正会員 □ 院生会員 □ 学生会員
氏名（ふりがな）Name in Japanese	ローマ字表記 Name
_____年 Year ____月 Mo. ____日 Day 生 born on	Sex: □ 男 Male □ 女 Female
学位 Degree: □ 博士 Dr. □ 修士 Master □ 技術士 Engineer □ その他 Other_____	
専門（下欄から3つまで） Specialties (less than 4 items) 1. _____ 2. _____ 3. _____	
学歴 Academic career: _____学校 High School _____年卒業 Year completed _____大学 University _____学部 Faculty _____年卒業（見込み）Year completed 修士 Master: _____大学 Univ. _____研究科 Fac. _____年修了（見込み）Year completed 博士 Doctor: _____大学 Univ. _____研究科 Fac. _____年修了（見込み）Year completed	
自宅住所 Home address:（郵便番号 Zip code - ） 電話 Phone: ファックス FAX: 電子メール E-mail:	
所属機関名・住所 Affiliation with address:（郵便番号 Zip code - ） 電話 Phone: ファックス FAX: 電子メール E-mail:	
連絡先 Correspondence: □ 自宅 Home □ 所属機関 Office	
紹介者名（正・院生会員） Recommended by (name of member) _____	印 Signature _____
*受付（ 年 月 日） *入金（ 年 月 日）振替・現金・銀行・他 *承認（ 年 月 日） *送本（ 巻 号）	

太枠内のみにご記入下さい．（*Official use only）

専門分野（番号で）01：層位 02：堆積・堆積岩 03：古生物 04：構造地質 05：火山・火山岩 06：深成岩 07：変成岩 08：鉱床地質（金属・非金属） 09：鉱床 10：鉱物 11：燃料地質 12：地熱 13：第四紀 14：環境地質 15：都市地質 16：土木地質 17：土質工学 18：水文地質 19：探査地質 20：土木工学 21：情報地質 22：地震地質 23：海洋地質 24：地球物理 25：地球化学 26：地質年代学 27：地理 28：地学教育 29：考古学 30：その他 40：地球惑星学

日本地質学会 *News*

Vol.1 No.8 August 1998

The Geological Society of Japan *News* 日本地質学会／〒101−0044 東京都千代田区鍛冶町1−10−4 丸石ビル
電話 03−3252−7242 Fax 03−5256−5676 E-mail : geosocjp@ra2.so-net.or.jp ホームページ http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/gsj/

Contents

日本地質学会第105年年会プログラム

日本地質学会の危機的財政状況
財政問題検討委員会報告……2

日本地質学会国際賞の英文名称の募集
各賞問題検討委員会……2–3

第106年（1999年）総会でのシンポジウム企画の募集
行事委員会……3

INHIGEOと日本の地質学史研究組織 今井 功……4–5

巨大ザメ・メガロドンはヒトと遭遇したか？
－NHKスペシャル「海～知られざる世界」を観て－
兼子尚知・矢部英生・後藤仁敏……6–7

博物館紹介⑫ 宮崎県総合博物館 伊東嘉宏……8–9

博物館だより：夏季特別展
兵庫県立人と自然の博物館 三笠市立博物館……10

大分地質学会の紹介 野田雅之……11

地学英語雑感⑥ 良いセンテンスをつくる－4 嶋﨑吉彦……12

紹 介……13
井尻正二・真野勝友・堀田 進：新･文明のなかの未開
レリックの世界……13

ご案内……14–15
平成10年度「深田研談話会」/第17回日本自然災害学会学術講演会および第35回自然災害科学総合シンポジウム/日本地熱学会20周年記念シンポジウム/平成9年度地方自治体活断層調査報告会

各賞・研究助成……15
平成11年度笹川科学研究助成

公募……15
新潟大学理学部自然環境科学科の教員公募

訃報

地質学論集近刊案内 第50号「構造地質 特別号－21世紀の構造地質学にむけて－……16

院生コーナー……17–18
夜間小集会に参加しよう！/研究室・セミナー紹介No.2 早稲田大学教育学部地学専修高木研究室/アメリカ大学院留学報告－from Penn State 圓入敦仁

支部コーナー……19–20
関東支部：第10回地質汚染（土壌を含めた地層汚染・地下空気汚染・地下水汚染）技術研修会のお知らせ（第2報）/第4回シーケンス層序学巡検－古東京湾の堆積物をみる－および町民公開講座（予定）－霞ヶ浦・北浦周辺の自然環境－/「現代の貝塚」中止のお知らせ
他支部のお知らせ

執行委員会だより 第6回執行委員会/1998年度臨時評議員会のお知らせ……20

The Island Arcだより……21

カレンダー……22

会員の「口座引落」方式導入による「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」のご提出について（お願い）……23

出版物在庫案内

表紙解説

新潟県間瀬産魚眼石および方沸石

魚眼石は層状珪酸塩に区分され，結晶系は正方，化学組成は$KCa_4[Si_8O_{20}]$（F, OH）・$8H_2O$であり，Fの多いものを弗素魚眼石，OHの多いものを水酸魚眼石と呼び，区別しているが，両者の肉眼的区別は難しい．魚眼石は，我国では玄武岩・安山岩等の火山岩の空隙に沸石や方解石と産出する例が多いが，花崗岩や閃緑岩ペグマタイト，スカルン鉱床，浅熱水性鉱脈鉱床からも産する．自形の結晶で産出する場合は，四角柱状～短柱状をなし，柱面に明瞭な条線が発達する．柱面と直交する面に劈開が発達し，薄くはがれることから，ギリシャ語apo（away），phyllazein（to get leaves）を意味する英名apophylliteが与えられた．和名の「魚眼石」は，ドイツ語の“Fischaugenstein”をそのまま訳したものであり，劈開面での真珠光沢の反射が魚の目に類似することによる．

この写真の標本は，新潟県弥彦・角田山塊の間瀬海岸から産したものである．本産地は，中新世の間瀬玄武岩類の枕状溶岩および火山砕屑岩類の空隙に多くの沸石類や魚眼石を産することで古くからよく知られている．写真の柱面と錐面の発達した淡青色結晶が弗素魚眼石で，偏菱24面体結晶をなす無色透明な方沸石，および方沸石に包有される白色粒状の方解石を伴う．

この標本は地質調査所地質標本館の所蔵する「岡本鉱物コレクション」に含まれるもので，元九州大学講師の岡本要八郎博士の収集した鉱物標本約3,400点よりなる．地質標本館では，収蔵標本のデータベース化を進めており，本年3月『地質標本館標本資料報告第2号 地質標本館所蔵標本目録 岡本鉱物コレクション』（豊 遙秋・春名 誠共著）のカタログを完成・出版している．岡本鉱物コレクションは，収蔵されている標本のうち約220点が，保育社刊『原色鉱石図鑑』『続原色鉱石図鑑』『標準原色図鑑全集6 岩石鉱物』に利用されている点でユニークで，標本は大部分が8 cm×9.5 cmの小箱に納められており，この写真の標本も，長径が5cm余りの小さなものである．

（写真・解説：地質調査所地質標本館 豊 遙秋）

表紙デザイン：渡部芳夫 レイアウト：村松雅子

日本地質学会の危機的財政状況（財政問題検討委員会報告）

1.　新・財政問題検討委員会の発足

平成10年6月20日，第1回定例評議員会で承認

委員：上砂正一（委員長），秋葉文雄，磯崎行雄，久保和也，嶋本利彦，高橋正樹，水野篤行，吉田武義

2.　これまでの経過

日本地質学会の財政が逼迫しており，このままでは日本地質学会の財政が破綻するのは時間の問題となっております（会計委員会報告，地質雑，103巻8号）．このような状況を受けて，1997年12月に財政問題検討委員会（野村　哲委員長）が発足し，1997年度第4回定例評議員会において財政状況改善のために緊急答申が報告されました．この内容は，今年のニュース誌No. 4に詳しく報告されております．

野村委員会では学会の活動と財源を根本的に見直し，学会の財政をまかなう原則を提案いたしました．学会の活動ごとに財源を提案した点において，会費収入に全面的に依存したこれまでの学会運営とは抜本的に違った改革案となっております．原則に従えば，自動的に将来の会費などが算定できることになります（ただし，原則の見直しは常に必要）．野村委員会の提案の骨子は以下のとおりです．

学会の基本的活動：学会活動として不可欠であり，全ての会員に有益な活動を「基本的活動」と位置づけ，その財源は基本的には会費でまかなう．地質学雑誌とニュース誌の発行，事務局の維持（事務室賃貸料と人件費）などが基本的活動として提案している．

受益者負担の原則：学会活動によって利益を得る個人またはグループは経費の一部を負担する．例：論文の著者（出版料または別刷り値上げ），学会の参加者（学会参加費，講演要旨投稿料）．

独立採算制の原則：一部の会員が利益を得る活動は原則として独立採算とする．例：シンポジウム，学術大会，支部活動，専門部会の活動．

財源の拡充：寄付金の受け入れ体制の確立（とくに税制対策），地質学論集の価格設定の原則の改訂，論集のタイムリーな企画と出版，広告収入の大幅増加，など．

3.　避けられない会費の値上げ

上記の原則に基づいて，基本的活動をまかなうための費用を計算しますと，6,076万円（平成10年度予算を参考にしました．ただし，文部省助成金，雑誌売り上げ，広告料収入などを考慮）になります．

このことから，正会員の年会費を12,000円にすることは避けられない状況です．ただし，ニュース誌の頁数が各号あたり少なくとも50頁（予算上は30頁）になりますと，会費はさらに値上げする必要があります．ニュース誌の充実は学会運営にとって極めて重要であります．しかし，財政状況を考えると，ニュース記事を簡潔にし，多くの会員に有益な記事に限定して掲載するかあるいは装丁を安価にしてできるだけ多くのページを割くなどの工夫が必要と思います．

4.　本委員会の検討課題

野村委員会の答申を受けて，財政再建の原則を見直し，具体的な財政再建策を策定し評議員会に提案し，さらに総会で審議をお願いすることが本委員会の任務です．第1回委員会では，野村委員会提案の基本原則を承認しました．学会の財政再建については，9月の臨時評議員会では最重要課題として時間を割いて議論される予定です．また，今秋の105会年会（信州大学）では，本委員会は財政再建案をポスターセッションで発表しますので，ぜひ多くの会員の方々からご意見をいただけますようお願いいたします．

財政問題検討委員会（上砂正一・文責）

日本地質学会国際賞の英文名称の募集

1.　各賞問題検討委員会の発足：経過と課題

昨年度から日本地質学会国際賞が新設され，スタンフォード大学のW. G. Ernst教授に授与されました．「国際賞」は地質学会の国際化のために大変意義深いものですが，賞の正式な英文名称，賞の性格（とくに地質学会賞との関係）などは決まっておりませんでした．また，地質学会の財政が非常に厳しい折から，「国際賞」の財源をどこに求めるかも切実な課題でした．このような状況を受けて，昨年12月の評議員会において，秋山雅彦前会長を委員長とする各賞基金検討委員会が発足しました（他の委員：小松正幸，坂　幸恭，丸山茂徳，木村　学，嶋本利彦）．第1回「国際賞」は，2つの機関と評議員有志からの寄付によって，予定通り授与されました．各賞基金検討委員会からは，本年3月の評議員会において，同賞の名称の暫定案と問題点が報告されました．

各賞問題検討委員会は，本年4月の第1回評議員会において，地質学会の各賞にまつわる問題を整理し，改善案を提案するために発足しました（委員：嶋本利彦（委員長），小泉　格，丸山茂徳，木村　学，板谷徹丸）．本委員会では，今年度は「国際賞」にまつわる問題を最重点課題としてとりあげ，他の学会賞に関しては問題点を整理することを目標にしたいと思います．

2.　「国際賞」の名称に関する問題点

国際賞の英訳は大変難しい問題でした．“International”という語は本来「国家間の」という意味ですから，語彙の上でも賞の名称に相応しくありませんし，賞の名称に使われた例も見あたりません．各賞基金検討委員会は，暫定案として“Geological Society of Japan Medal”を提案しましたが，この名称が日本地質学会賞の英文名称（Geological Society of Japan Award）と余りにもよく似ていることから，正式名称を再検討するべきことを答申しました．第1回国際賞はこの名称で授与されましたが，正式な名称が決まれば賞状などを再交付することで，受賞者の了解をいただきました．

上記2つの委員会では，諸外国の学会賞の名称を丸山委員を中心に詳しく調査し，本年6月の第2回評議員会で資料の一部を報告しました．国際的にはメダルに人名をつけた名称が圧倒的に多く，アメリカ地質学会のペンローズメダルのように高額寄付者の名前がつけられた例もありますが，ほとんどは重要な業績を残した研究者の名前がつけられております．とくに学会最高級の賞では，賞の人名の専門と受賞者の専門は無関係に学会賞が授与されており，生存

者の名前がつけられた例もあります．

3. 「国際賞」の名称の募集

締めきり：本年10月31日必着

送付先：地質学会事務局（封筒に「国際賞」と記入して下さい．）

本委員会では，日本地質学会の英文名称と明瞭に区別できる名称が思いつかないこと，国際的には人名をつけたメダルが圧倒的に多いことから，人名をつけたメダルにする判断に傾いています．しかし，「国際賞」の名称は非常に重要ですので，評議員会とニュース誌を通じて広く会員から名称に関するご意見をいただいてから，最終判断をすることにしました．本年6月の第2回評議員会では，応募結果に基づいて本委員会で原案を作成すること，名称は後述のような原則に従って選定することで承認されました．和文名称と英文名称が全く違うと混乱しますので，最終的には「国際賞」の名称が変わる可能性もあります．本委員会としては，年末の評議員会で「国際賞」の最終名称が提案できることを希望しています．名称を提案される場合には，下記項目　の情報をお送り下さい．ご意見をいただく場合には，形式は問いません．

名称提案に際してお送りいただく情報

人名をつけるメダルを提案される場合には，候補者名・推薦理由・主要研究実績・主要論文リストを送付下さい．国内・国外の研究者の推薦状など，参考資料としては何を添付していただいてもかまいません．

その他の名称を提案される場合には，下記の選考の原則にご留意下さい．和文と英文名称をセットでご提案下さい．高額寄付者の名称をつける可能性も残しております．自薦・他薦を問わず，ご推薦を歓迎いたします．

名称選考の原則

人名をつけたメダルの場合：(i)地質科学の幅広い分野で国際的に大きなインパクトを与えた研究者名をつける（citation indexもそのための判断材料とする）．(ii)日本地質学会の賞だから日本人の名称が望ましい．生存者か逝去者かは問わない．(iii)大口の寄付があれば，寄付者の名前をつけたメダルも可能性として考える．

その他の名称を提案する場合：(i)日本地質学会賞の英文名称と区別が明白であること．(ii)補足説明がなくても国際的に通用する名称であること．

4. その他の問題

以下，問題点と現時点における委員会の考えをまとめておきます．ご意見があれば，上記3の要領で学会事務局におよせ下さい．

「国際賞」と地質学会賞の関係

現行の会則では，両者の関係が明確に規定されておりません．本委員会は以下の案を評議員会に提案しております（検討中）．(a)両賞は地質学会の最高の賞とし，同列として扱う．(b)地質学会賞は会員を対象とし，「国際賞」は非会員を対象とする（外国人とは限らない）．(c)当面，「国際賞」は地質科学の基礎研究と日本の地質学界に貢献のあった人を対象とする．

各賞の財源

「国際賞」も含めて全ての学会賞を授与すると，各年度で100万円近い財源が必要になります．本委員会も，各賞基金検討委員会の答申と同様に，次の案を評議員会に提案しました（検討中）．(a)学会賞にまつわる費用は別会計とし，資金の調達は寄付による．(b)学会の自主努力を重視し，学会会員にも寄付をつのる．

この案については，「学会賞の授与は学会の重要な活動の一つであり，これまで通り，学会の通常経費からまかなうべきである」という意見があります．会員から寄付を集める手続き上の難しさを指摘する意見もありました．その一方，財政問題検討委員会では，学会の経費を会費の形で会員に一律に負担を強いるやり方を根本的に見直して，全ての会員に有益な基本的活動のみを会費でまかなうという案が検討されております．学会賞の授与は，学会に不可欠な活動ではありません．個々の研究者と地質学界の発展を期待する期待料のような性格をもっています．期待の大きさは会員個人によって違うことを考えると，寄付に相応しい予算項目だと思います．学会経費を会費のみに依存する方法も限界にきており，寄付で各賞の財源をまかなうことは，学会として寄付を活用する道を開く意味でも重要です．税法上，寄付を受け入れやすい体制の整備も急がれます．これらの点について，率直なご意見を歓迎いたします．

各賞にまつわる諸問題

各賞の公平な選考基準と選考体制の整備は非常に重要です．論文の筆頭著者と共著者の扱いに関する規準，などについて様々な意見が寄せられています．まだ検討をはじめたばかりです．日頃の疑問とご意見をお寄せ下さい．

106年（1999年）総会でのシンポジウム企画の募集：申込期限　9月22日

1999年3月26–27日に，早稲田大学において地質学会第106年総会を開催します．つきましては，その時に開くシンポジウムの企画を広く募集します．学術面でタイミングよく，また広く世間に地質学会の存在をアピールできるような魅力的・画期的な企画の提案をお待ちしております．よい企画をお持ちの会員は9月22日までに，地質学会行事委員会宛にお申し込み下さい．申し込み方法は，ファックス，電子メール，郵送のいずれでも結構です．申込書には，シンポジウムの名称，趣旨，コンビーナー名および連絡先，そして予想参加人数を明記して下さい．

なお，開催校である早稲田大学からはすでに下記の企画が提案されています．

「カザフ共和国コクチェタフ超高圧変成帯研究の最近の進展とその地球科学的意義」（仮称）

コンビーナー：小笠原義秀・丸山茂徳・J. G. Liou（使用言語：英語）

（行事委員会）

INHIGEOと日本の地質学史研究組織

今井　功

最近，国際的にも地質学史の重要性が高まりつつあるように思われる．しかし日本ではまだ地質学史は研究の片手間のような存在で，地質学史に関心をもつ人はいても，組織的な研究の推進には程遠い状態であった．地質学史研究者間の交流が深まったのはごく最近のことである．そこで個人的な地質学史の研究とは別に，国際的な学術体制の流れの中から，これまでの日本の地質学史の研究体制について振り返ってみることにする．

IUGSの設立まで

1960年（昭和35）にコペンハーゲンで開かれた第21回万国地質学会（IGC)で，（IUGS）（国際地質科学連合）の設立とICSU（国際学術連合会議）への加盟問題が討議された．ICSUはもともと国際的な科学技術協力体制の必要性から組織されたもので，1918年に設立されたIRC（国際学術研究会議）を1931年に改組したものである．IGCは伝統的な組織に固執して，l922年以来IUGS設立には否定的だった．しかしICSUとUNESCOと地質学界との協力関係が重視される情勢になって，IGC第21回会議でようやくIUGSを設立することが決議された．IUGG（国際測地学地球物理学連合）の成立に遅れること41年である．

IGCの21回会議には小林貞一，東中秀雄，村上政嗣，渡辺武男，久野　久，片山信夫，斎藤正次，八木健三，小島丈児ら多数が出席している．翌1961年3月，IUGSの創立総会がパリで開かれ，小林貞一が副会長の一人に選出された（～1964）．日本では学術会議がその対応機関となっている．なお同年9月，IUGSはICSUに加盟した．その後IUGSの実行委員会や役員会がたびたび開かれ，傘下の各委員会には日本からもそれぞれ代表が参加している．

INHIGEOの設立

1964年（昭和39），ニューデリーで開かれたIGCの第22回会議で，総合的な地質学史の編纂を目的とする国際地質学史委員会（International Comission on the History of Geological Sciences，通称INHIGEO）の設立が決議され，1967年にアルメニアでINHIGEOの創立総会が開かれた．初代委員長にはソ連のV. V. Tikhomirovがなり，日本代表として正会員に小林貞一，通信会員に渡辺武男が選ばれた．しかし1969年，INHIGEOはその性格上IGCから離れ，IUGSとIUHPS（国際科学史連合）に加盟することになった．以来，INHIGEOはほぼ毎年シンポジウムを開き，Newsletterを発行している．日本でのINHIGEOに対応する機関は学術会議である．

日本地学史資料調査委員会の発足

こうして地質学史に関する国際機関はできても，日本では地質学史についての研究組織はなく，地質学史に関心をもつ人は個人的に科学史学会に所属して見解を発表するしかなかった．また地質学史の資料の収集・保存のための組織がなく，地質学史研究者の交流の場もなかった．これらを考慮した小林貞一は，西ドイツにおける膨大な地学史関係文献・資料の収集・保存の実績を参考にして，1972年（昭和47）に東京地学協会に日本地学史資料調査委員会（Comittee of History of Japanese Earth Sciences）を組織した．これは地学史に関する資料の収集・保存を目的とするもので，小林貞一を委員長に，木村敏雄・今井功・湊　秀雄・岡山俊雄・石山　洋・諏訪彰・川上喜代四が委員となった．後には渡辺武男・後閑文之助・土井正民・黒田和男が委員として加わっている．なお1976年には，渡辺武男がINHIGEOの副会長を務めており，調査委員会の席でINHIGEOのNewsletterが配布されていた．しかしその頃は日本代表のINHIGEOの正会員，通信会員は一人もいなかった．

日本地学史資料調査委員会は1984年頃までに「明治前日本地学文献集」（1979），「日本地学欧文文献集」（1978），「日本地学史文献集　付海外関係文献」（1976），「日本地学史文献集補遺」（1983）を作成，また坪井誠太郎，渡辺万次郎，小牧実繁ら諸先輩の回顧記事をまとめ，後閑文之助会員には「日本の古代より近世に至る地質学と関連学の発達史」の執筆を，徳永重元氏には「徳永重康の生涯と業績」の執筆を要請した．さらに松下　進（京都大学），松本達郎（九州大学），浅野　清（東北大学），原田準平（北海道大学）の諸先生に各大学の地質学教室の歴史の執筆をお願いした．以上はいずれも地学雑誌に掲載されている（小林ほか，1984）．

この間，ワシントンの自然史博物館のE. L. Yochelsonの提唱で1982年に国際的な地質科学史学会（History of the Earth Sciences Society，通称HESS）が設立され，“Earth Sciences History”が創刊された．これは年2回発行の会誌で，その多量な情報はこれまでの地質学史を再認識させるものがある．この会の設立のきっかけとなったのは，アメリカ地質学会（GSA）に地質学史部門ができたことによるとされている．HESSの会員は1993年に約450名で，日本からは猪郷久義，沓掛俊夫，中村光一，谷本　勉，今井　功，山田俊弘らが加入した．なおHESSはINHIGEOとも連携しながら現在も活躍している．

日本地学史編纂委員会の設置

一方，創立以来13年を経過した日本地学史資料調査委員会は1984年（昭和59）に解散を余儀なくさせられた．小林委員長は「予期した目標に到達することはできなかったが，次に計画されるであろう日本地学史の編さんに生きる資料調査を展開し，地学史への関心を高める努力をしたことを報告し，本委員会の終結を告げる」と述べている（小林ほか，1984）．その後，地学協会の坂倉勝彦理事を世話人として「日本地学史編纂に関する検討会」が組織され，和達清夫地学協会会長にその趣旨を説明した結果，l985年に東京地学協会に日本地学史編纂委員会（Editorial Comittee of History of Geosciences in Japan）が設置された．委員長は坂倉勝彦，委員は土井正民・石山　洋・今井　功・黒田和男の4人であった．しかし1985年12月に坂倉委員長が亡くなり，翌年その後任となった土井正民委員長も8月に亡くなり，編纂委員会は一時頓挫，やむなく10月に今井　功が委員長になった．以後，八耳俊文，垣見俊弘，谷本　勉が委員として加わり，1987年（昭和62）頃から編纂業務は軌道に乗るようになった．1998年までに「西洋地学の導入」＜その1～3＞，「日本地学の形

成」くその1～3＞をまとめ，逐次地学雑誌に掲載している．その内容はまだ充分とはいえないが，現在も作業が継続されている．

INHIGEOへの積極的参加

INHIGEOの副会長だった渡辺武男は，学術会議に対して日本からの通信会員の推薦を再三要請しており，これを受けて地質研連でINHIGEOへの推薦の手続きがとられたが，通信会員の選出規定が定まっていないため．実現に至らなかった．1986年には渡辺武男が亡くなり，日本はついにINHIGEOから隔絶した状態になった．これに対して学術会議は1990年，関係修復のため地質研連を通して正会員の候補者に八木健三，通信会員の候補者に小林英夫，諏訪兼位，清水大吉郎，鈴木尉元をINHIGEOに推薦した．これらの候補者は同年10月北京で開催された第15回INHIGEOシンポジウムの総会で承認され，日本は再びINHIGEOの加盟国になった．

そこで1991年4月，愛媛大学で開かれた日本地質学会総会の折りに，INHIGEO国内会員を中心とする懇話会がもたれ，INHIGEOに対応する日本としての活動方針などが討議された（鈴木，1991）．これをうけて同年9月にドレスデンで開かれた第16回INHIGEOシンポジウムには正会員の八木健三が出席した．八木（1991）はこの会議の詳しい報告を地質学雑誌に載せている．なおこの総会で新たに大森昌衛，今井　功，杉村　新が通信会員となった．第17回INHIGEOシンポジウムは1992年に京都で開かれた．この総会では正会員，通信会員の区別がなくなり，すべてmemberとして登録されることになった．この時点でINHIGEOは36か国，116名の会員を擁する組織となった．この時の会長はオーストラリアのD. Branaganである．

地質学史懇話会の設立

こうした情勢を背景に，大森昌衛により日本での地質学史に関する会議の設立が提案され，1994年に地質学史懇話会（Japanese Association for the History of Geological Sciences，通称，JAHIGEO）が設立された．この会はINHIGEOの国内対応機関の性格をもつもので，年2回の例会と日本地質学会総会時に夜間小集会を行い，「地質学史懇話会会報」を発行している．会長に大森昌衛，事務局長に山下　昇が就任した．この年の夏，シドニーで開かれた第19回INHIGEOシンポジウムには鈴木尉元会員が出席，その様子を「地質学史懇話会会報」4号（1995）に報告している．イタリーのナポリで開かれた第20回INHIGEOシンポジウム（1995）には八木健三，諏訪兼位両会員が参加し，北京で開かれた第21回INHIGEOシンポジウム（1996）には鈴木尉元，清水大吉郎の両会員が出席している．ナポリ会議の模様は諏訪により，北京会議の模様は鈴木によって報告された（地質学史懇話会会報　6号，7号）．なお1996年に懇話会の沓掛俊夫がINHIGEOのmemberとなっている．

一方，地質学史懇話会の会員の活動も次第に顕著になり，1995年の第3回ハットンシンポジウムには沓掛俊夫会員が参加，1997年にロンドンとエジンバラで開かれたライエル/ハットン200年会議には山田俊弘，矢島道子両会員が参加した．さらに毎年日本における地質学史の研究の状況がINHIGEOのNewsletterに掲載されるようになった．1996年に日本地学史の研究体制づくりに尽力した小林貞一が亡くなった．同じ年に懇話会事務局長の山下　昇が亡くなり，鈴木尉元，沓掛俊夫らが幹事として懇話会の運営にあたっている．1998年3月現在で懇話会の会員は64名に達した．また1998年5月に愛知大学豊橋校舎で開催された日本科学史学会総会の折りに同所で地質学史懇話会が開かれ，初めて科学史学会加入の地学史研究者と懇話会の会員との交流が行われた．

このようにして，これまで個人的あるいは委員会形式でばらばらに行われていた日本における地質学史の研究が，次第に組織的にまとまり，お互いの情報交換により質的に向上し，国際的にも認められるようになってきたと思われる．終りに，この稿をまとめるにあたり，貴重なご教示をいただいたINHIGEOの八木健三会員と地質学史懇話会の大森昌衛会長に謝意を表する．

文　献

小林貞一，1962，国際地学連合（IUGS）と万国地質学会議（IGC）．地学雑，71，192–194.

小林貞一，1966，第21回万国地質学会議に出席して．地質雑，67，376–379.

小林貞一，1971，INHIGEOとDDR地学史資料集．地学雑，80，115–116.

小林貞一ほか，1984，日本地学史資料調査委員会報告．地学雑，93，248–250.

大森昌衛・野沢　保，1993，国際学術組織への参加と対応．日本地質学会編「日本の地質学100年」，446–459.

鈴木尉元，1991，INHIGEOに関する懇話会．地質雑，97，579.

鈴木尉元，1995，第19回国際地質学史委員会（INHIGEO）シンポジウムの報告．地質学史懇話会会報，no 4，17–18.

渡辺武男，1968，地質学の発展と国際学術協力―万国地質学会議を中心に―．日本地質学会編「日本の地質学―現状と将来への展望―」，1–15.

八木健三，1991，INHIGEO国際シンポジウム報告．地質雑，97，1011–1013.

巨大ザメ・メガロドンはヒトと遭遇したか？

―NHKスペシャル「海～知られざる世界」を観て―

兼子尚知（地質調査所地質部）・
矢部英生（新潟大学大学院自然科学研究科）・
後藤仁敏（鶴見大学歯学部）

NHKスペシャル「海～知られざる世界（8回シリーズ）」が，本年4月よりNHK総合チャンネルで始まりました．「地球大紀行」につづく地球をテーマにした大型企画ですが，研究者の目から見て疑問点があり，担当ディレクターと話をしたところ改善に向かいました．よりよい科学番組づくりに協力できた例として，その経緯を以下に紹介します．

●海の巨大怪獣伝説

シリーズ第一集「魔の海からの旅立ち」が，4月26日に放送されました．その中で，不思議と神秘に満ちた海の象徴として，地中海地方に伝わる「海の巨大怪獣伝説」が引き合いに出され，伝説の由来のひとつと想像される出来事の説明がありました．イタリアのジェノバ水族館のアントニオ・ナターレ博士の談話で，「巨大ザメ・メガロドンは14,000年前まで生きていた証拠があり，これが海に乗り出した人々を襲った可能性は十分に考えられる」と．でも，ちょっと待ってください．高さが十数cmを越える大きな歯を持ったメガロドンこと *Carcharocles megalodon*（Agassiz 1843）の化石は，中新統から鮮新統にかけて産出するとされています（上野，1991；後藤，1996）．それが人々と遭遇していたとは，なにに基づいているのでしょうか．筆者らがこの内容についてNHKに問い合わせを行ったところ，第一集制作担当ディレクターから，「メガロドンの絶滅時期についてはいくつかの説があるが，ナターレ博士の説を採用した．ただし，その年代値の根拠について，博士からは特に説明を得ていない．」との回答を得ました．

●「鮮新世絶滅説」および「更新世絶滅説」

“14,000年前”（後期更新世）という年代値の根拠が不明では，正否の判断はできません．そこで筆者らが文献を調査したところ，メガロドンの絶滅時期を鮮新世とする説と更新世とする説の，ふたつの説があることが明らかになりました．ここで便宜的に，それぞれを「鮮新世絶滅説」および「更新世絶滅説」と呼ぶことにします．後藤（1972），Keyes（1972），Bendix-Almgreen（1983），Yabumoto and Uyeno（1994），Applegate and Espinosa–Arrubarrena（1996）は「鮮新世絶滅説」の立場を，Cappetta（1987），Purdy（1996）は「更新世絶滅説」の立場をとっています．そして現在どちらの説も，完全に証明あるいは否定されているわけではないことがわかりました．

ところが，さらに文献をひもといていくと“更新世絶滅説”の実体が明らかになりました．Tschernezky（1959）は，1870年代にイギリスの海洋調査船チャレンジャー号が太平洋底からドレッジで採取した，メガロドンの歯の化石に付着する二酸化マンガン（マンガン団塊）の厚さを測定し（1.70–3.64 mm），当時推定されていたマンガン団塊の成長速度（0.15–1.4 mm/10^3y）で単純に割り算を行って，その年代を11,333～24,266年前であろうと報告しました．これには「マンガン団塊の成長は間断無く，常に一定割合で不変であった」という仮定が含まれています．しかし現在の知識からは，その仮定は誤りであると結論づけられます．マンガン団塊についての知見は，1970年代以降飛躍的に増えました（臼井ほか，1987；臼井，1995）．近年の研究によって，放射性同位体年代測定法を用いたマンガン団塊の生成年代が明らかになり，と同時にその成長速度は一定ではなく大きく変化することもわかってきました．そして平均成長速度は，数mm/10^6y（佐藤・臼井，1996）～10 mm/10^6y（斎藤，1979）程度とされ，上にあげた値はこれを二桁も上回る速度です．すなわち，Tschernezky（1959）の年代推定法は方法論自体が不適切で，その年代値は現在となっては採用し難いといえるでしょう．なお，マンガン団塊が見られる場所は，堆積速度が極めて遅いか無堆積の環境にあり，数百万年あるいはそれ以上の期間，脱落したサメの歯が二酸化マンガンにコーティングされながらも海底にさらされていることは十分に考えられます．それゆえ，海底面から得られたというだけの理由では，サメの歯が更新世のものであると断定することはできません．

しかしこの論文以降，“大洋底の赤粘土からマンガン団塊に伴って得られたメガロドンの化石の時代＝更新世”という“説”が，一部の研究者の間に広まったようです．Belyaev and Glikman（1970）は中部太平洋底から得られた試料を記載するとともに，Tschernezky（1959）の年代論に強い疑問を示しました．しかし，板鰓類化石の教科書として近年もっとも支持されているCappetta（1987）では，メガロドンが更新世まで生存していた可能性を示唆して，Belyaev and Glikman（1970）を引用しています．また，Roux and Geistodoerfer（1988）はTschernezky（1959）の手法をそのまま用いて，インド洋で得られたマンガン団塊中のメガロドンの化石の年代を15,000～60,000年前とし，Purdy（1996）はこれを“更新世絶滅説”の根拠のひとつとして引用しています．Cappetta（1987）もPurdy（1996）も，自分たちの説を裏づける独自の証拠や，（同位体年代などの）新たな年代測定値を示しているわけではありません．番組に登場したナターレ博士の言葉は，これらの資料に依るのではないかと推定されます．

一方，「鮮新世絶滅説」は，メガロドン

Fig. 1　メガロドンの歯化石（舌側面）；*Carcharocles megalodon*（Agassiz 1843）．アメリカノースカロライナ州Pungo River Formation（中新世前期～中期）産．スケールは2 cm．（矢部所蔵・撮影）

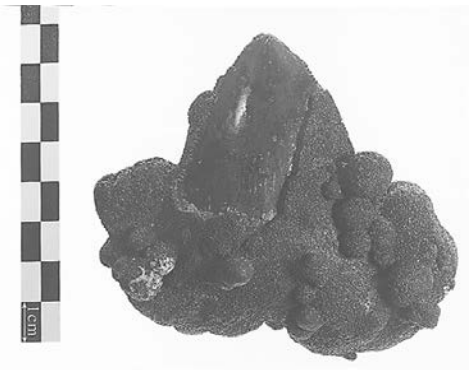


Fig. 2　マンガン団塊の核となっているメガロドンの歯化石．中部北太平洋産．（地質調査所地質標本館所蔵　GSJ F15204，兼子撮影）

の化石が地層から産出した確実な記録は鮮新統までで，明らかに保存が悪く二次化石と判断されるものを除けば，それより上位の地層からは発見されていない，という事実に基づいています．すなわち，世界中で数え切れないほど行われている地質調査による「検証」を受けて，棄却されることなく「鮮新世絶滅説」は現在も生き残っているのです．これは，現時点でのこの仮説の信頼度が高いことを物語っています．そして，この立場においては，伝説として残るようなメガロドンとヒトとの遭遇は無かったと判断できるでしょう．

このようなふたつの仮説がある場合，その論拠や検証の度合いを鑑み「相対支持度判定」をした上で，どちらに重きをおいて両者をどのように取り扱うべきか，地質学会員諸氏には自ずと明らかであると思います．

さらにメガロドンに関して，番組では「およそ7,000万年前に出現し，体長20m以上，口の大きさ2mを越える巨大魚」とも述べておりました．しかし，生層序学的記録からその出現は中新世とされ（Cappetta, 1987；Applegate and Espinosa-Arrubarrena, 1996；Purdy, 1996），最大体長はかつて18.3mから30.6mと見積もられていたが，最近では約13m（Randall, 1973）から約16m（Gottfried et al., 1996）と考えられており，口の大きさは最近復元されたものでは1.5mを少し越える程度です（後藤，1989）．

以上述べましたように，NHKスペシャル「海～知られざる世界（第一集）」でとりあげられたメガロドンに関する知見は，最新の科学的研究成果を反映していないと考えられる部分があります．このシリーズが最新の研究成果を取り入れた番組であるとうたっていることや，公共放送としてのNHKの影響力の大きさを考えますと，もう一歩踏み込んだ取材と，仮説のとりあげ方にあと少しの慎重さがあればと感じました．幸いにして，その後の担当ディレクターとのやりとりの中で筆者らの主張をある程度認めていただき，後日出版される印刷物では修正を加えるとの知らせを受けました*注）．我々が携わっている学問分野の研究成果を広く紹介している番組ですから，このあとに続くシリーズに大いに期待したいと思います．

●質の高い報道や番組制作に貢献を

地質学や古生物学はもとより，研究活動全般が社会から正当に認知され，理解を受け，将来も発展していくためには，そしてなにより教育的見地からも，報道・出版などにおける科学的に“おかしい”部分に対して，その都度根気よく指摘を行っていくことが極めて重要なのではないかと考えます．今回，制作者に問い合わせをした結果内容の修正が確約されたことは，それなりに意義があることと思います．また，本稿をまとめる過程で，いくつかの報道関係者による学会への期待の声があると他の研究者から聞きました．それは，種々の取材の要望に対する窓口を学会に設けてもらえないか，というものです．それぞれのテーマについての複数の専門家を学会から紹介することによって，より信頼性のある高い次元での取材が可能になり，ひいてはそれが学術的に質の高い報道や番組制作に貢献することになるでしょう．

本小文をまとめるにあたり，モスクワ大学地質学部リュドゥミラ・ティトヴァ博士にはロシア語文献を，地質調査所篠原宏志博士にはフランス語文献を，それぞれ翻訳していただきました．富山市科学文化センター赤羽久忠氏には，メガロドンの顎の復元写真を提供していただきました．地質調査所臼井　朗博士はマンガン団塊に関する最新の情報をご教示くださり，同三田直樹主任研究官は本小文をまとめることを勧めてくださるとともに多くのご便宜をはかってくださいました．以上の方々に篤くお礼申し上げます．

文　献

Agassiz, L., 1843, *Recherches sur les poissons fossiles.* Tome 3. *Imprimerie de Petitpierre*, Neuchatel, 390＋83p.

Applegate, S. P. and Espinosa-Arrubarrena, L., 1996, The fossil history of *Carcharodon* and its possible ancestor, *Cretolamna*：A study in tooth identification. *In* Klimley, A. P. and Ainley, D. G., eds., *Great white sharks—The biology of Carcharodon carcharias*, Academic Press, California, 19–36.

Bendix-Almgreen, S. E., 1983, *Carcharodon megalodon* from upper Miocene of Denmark, with comments on elasmobranch tooth enameloid: coronoïn. *Bull. Geol. Soc. Denmark*, 32, 1–32.

Belyaev, G. M. and Glikman, L. S., 1970, The teeth of sharks on the floor of the Pacific Ocean. *Trudy Instituta Okaenologii, SSSR*, 88, 252–277.

Cappetta, H., 1987, *Handbook of Paleoichthyology. 3B Chondrichthyes II*. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart, 139p.

後藤仁敏，1972，日本産の化石軟骨魚類についての一総括．地質雑，78，585–600.

後藤仁敏，1989，化石巨大鮫 *Carcharocles megalodon* の顎の復元．化石研会誌，22，7–13.

後藤仁敏，1996，カルカロクレス．新版地学事典（地学団体研究会編），平凡社，268.

Gottfried, M. D., Compagno, L. J. V. and Bowman, S. C., 1996, Size and skeletal anatomy of the giant “Megatooth” shark *Carcharodon megalodon*. *In* Klimley, A. P. and Ainley, D. G., eds., *Great white sharks—The biology of Carcharodon carcharias*, Academic Press, California, 55–66.

Keyes, I. W., 1972, New records of the elasmobranch *C. megalodon* (Agassiz) and a review of the genus *Carcharodon* in the New Zealand fossil record. *New Zealand Jour. Geol. and Geophys.*, 15, 228–242.

Purdy, R. W., 1996, Paleoecology of fossil white sharks. *In* Klimley, A. P. and Ainley, D. G., eds., *Great white sharks—The biology of Carcharodon carcharias*, Academic Press, California, 67–78.

Randall, J. E., 1973, Size of the great white shark (*Carcharodon*). *Science*, 181, 169–170.

Roux, C. and Geistodoerfer, P., 1988, Shark teeth and tympanic bullae of cetaceans: Nuclei or manganese nodules collected in the Indian Ocean. *Cybium*, 12, 129–137.

斎藤常正，1979，現在の海洋底の堆積物．岩波講座地球科学5（勘米良他編），岩波書店，53–96.

佐藤任弘・臼井　朗，1996，マンガン団塊．新版地学事典（地学団体研究会編），平凡社，1268–1269.

Tschernezky, W., 1959, Age of *Carcharodon megalodon*? *Nature*, 184, 1331–1332.

上野輝彌，1991，カルカロドン．古生物学事典（日本古生物学会編），朝倉書店，57–58.

臼井　朗・水野篤行・森谷智之・中尾征三，1987，中部太平洋海盆北部・中部のマンガン団塊—「深海底鉱物資源探査に関する基礎的研究」の成果—．地質月報，38，539–585.

臼井　朗，1995，海底マンガン鉱床の研究—その現状と展望．地質ニュース，no. 493，30–41.

Yabumoto, Y. and Uyeno, T., 1994, Late Mesozoic and Cenozoic fish faunas of Japan. *The Island Arc*, 3, 255–269.

*注）6月下旬に出版された．ここでいう「鮮新世絶滅説」を定説として扱い，「ナターレ博士の説は広く認められているわけではない」と記述されている．

見出し写真：メガロドンの顎の復元模型．
（後藤仁敏復元，富山市科学文化センター所蔵，後藤道治氏撮影）

館全景

歴史展示室「喜界カルデラの大噴火による降灰で逃げまどう人々」 南九州は壊滅的な打撃を受け，その後の歴史に影響を与えた．

宮崎県総合博物館

Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History

宮崎県総合博物館　学芸課主査　伊東嘉宏

宮崎県総合博物館は，宮崎市のほぼ中央の宮崎神宮の森の中にあります．近くの丘からは，東に日向灘と人工の海を再現したシーガイア・オーシャンドームを見ることができます．また，西には九州山地とともにすっくと立ち上がった高千穂峰を有する霧島火山群の山並みが見られます．本館は，自然史・歴史・民俗で構成され，また分館として西都原古墳群の中に西都原資料館や古代生活体験館があります．

当館は，今年5月1日にリニューアルオープンしました．施設は，2階建てで総面積8,314 m^2，展示室2645 m^2，「みんなの情報室」など新たに教育・研修施設を充実させ教育普及関連施設493 m^{2}になりました．

◆常設展示

学習の場にふさわしい展示・分かりやすい展示・楽しい展示を目指して，「宮崎の自然と歴史の立体図鑑」をイメージして，6,000点を越える展示資料で充実しました．また，綾の照葉樹林をモデルにした照葉樹林スーパージオラマや実物大の花びら型住居・炭焼き窯の復元など資料と背景を一体化しました．さらに，見るだけでなく匂う・聴く・触れるなどの体験的展示物も数多く導入し，パソコンや映像装置など自ら操作して知りたいことを遊び感覚で引き出せる工夫をしました．

〔自然史展示室〕

森・水辺・大地・生物・ふるさとの自然の5テーマで構成しています．森は，日本一の残存面積を誇る照葉樹林とその中で生活している動植物をジオラマの中でふんだんに紹介しています．水辺もジオラマで干潟・磯・サンゴの海・砂浜・湿原・川の生物を紹介し，身近にある多様な自然に目を向けています．大地は，後で詳しく紹介します．生物では，宮崎にいる動物や植物について単に資料の紹介だけでなく，生物の営みやその工夫にまで解説しています．最後のふるさとの自然では，現在失われつつある身の回りの自然について，過去の私たちの生活を振り返ることで考える展示になっています．

〔歴史展示室〕

前半の考古の内容では，石器や土器など人々が使用した道具から生活が見える展示にしています．また，アカホヤ火山灰が降り積もるようすを表現した背景の大型イラストは圧巻です．後半の歴史の内容では，戦国・江戸・明治・昭和に至る宮崎の歩みを具体的な資料をもとに体感できる展示になっています．

〔民俗展示室〕

山・里・海にくらす人々の生活の知恵や祈り・感謝を当時使われた道具をもとに紹介しています．特に国指定重要有形民俗文化財「日向の山村生産用具」は，昔の人の苦労と知恵に感心させられます．

■「宮崎の大地」

宮崎の大地では，その形成が長い時間と多くの地殻変動によって作られたものであることをテーマにしています．そして宮崎の大地の生い立ち，大地を構成する岩石・鉱物類，地球シアターの3つの内容で構成しています．

□宮崎の大地の生い立ちでは，

① 赤道からやってきたサンゴ礁

・祇園山を中心にクサリサンゴ，ハチノスサンゴなどの化石や周囲のフズリナ類の紹介とその由来について解説しています．

② 太平洋の底が集まってきた

・枕状溶岩の実物資料を展示場内に持ち込

自然史展示室「照葉樹林ジオラマ」 大型ジオラマには多くの動植物が展示され森を体感できる．

民俗展示室「炭焼き窯の復元」 宮崎の豊かな森林資源を活用した

み，四万十層群の現在のようすと形成の仕組みを付加テクトニクスで説明しています．地層の中から見つかった深海底の証拠と現在の海底の資料との対比を試みています．また，付加体の形成を映像で解説しています．

③　宮崎平野の土台

・鬼のせんたく岩で代表される宮崎層群の分布と，その特徴や違いを紹介しています．特に豊富な化石群の一部を新たに収集された資料（中新世のサンゴ化石）とともに展示しています．宮崎層群の形成について映像で解説を試みています．

④　宮崎は火山の博物館

・1500万年前の祖母山や現在も活動している霧島火山群，宮崎を襲った阿蘇や姶良火山の大噴火のようすや証拠を紹介しています．

⑤　九州山地の隆起が平野をつくった

・宮崎の平野を特徴づける平野，特に洪積台地の紹介と分布，沖積平野の形成を九州の中央部での隆起傾向の結果との立場から解説しています．

⑥　宮崎の大地は，今

・宮崎の地形と日向灘の海底地形を含めて大型模型が展示してあり，プレートの影響が想像できます．また，九州付近の地震震源分布は，九州地方の地下の動きをみることができます．

□大地の構成する岩石・鉱物

・学習コーナーとして位置づけ，県内の岩石と鉱物を中心に紹介しています．

地球シアター「地球シアター」　地球と宮崎の生い立ちの映像と生物進化を示す化石

□地球シアター

・生物の進化をたどることができるように多くの資料を展示しています．T・レックス（MOR 555）やナウマンゾウ，エディアカラ・バージェス動物群などや，大型のアンモナイト・恐竜の上腕骨の実物などは目を引く資料です．

・大型スクリーンでは，地球誕生から始まって宮崎の大地の特徴と生い立ちを分かりやすく構成し解説しています．

◆展示解説

各展示室には，2人から3人の展示解説員がいます．展示内容について来館者へ説明したり，質問に答えています．

◇博物館活動のこれから

リニュアルオープンの結果，多くの入館者を得，また好意的な反響に力づけられています．

これまでに培ってきた資料収集や調査研究を基礎に，そして更に充実させることによって県民のさまざまな要請に応え，生涯学習の場や資料の提供等の活動を充実させ，教育普及活動の拡大と深化を推進して博物館活動を充実させていきたいと考えています．

そのために，宮崎をベースにしながらも広い視野にたった地道な資料調査および研究に力を入れて行きたいと考えています．

◆利用案内

○観覧時間

午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

○休館日

毎週月曜日（但し，祝日と重なるときはその翌日）

国民の祝日の翌日（但し，土曜日，日曜日または祝日と重なるときはその翌日）

年末・年始（12月28日～1月4日）

○入館料

	個人	団体（20名以上）
大人	300円	200円
高大生	200円	100円
小中生	100円	50円

○交通

JR九州「宮崎神宮」駅より徒歩10分

宮崎交通バス

宮崎神宮行き　終点下車徒歩10分

綾・国富・平和が丘方面行き「博物館前」下車1分

宮崎の大地（導入）「日向岬の柱状節理群」約1400万年前の噴火で形成された．西方には尾鈴山がそびえる．

海底地形模型「宮崎の地形と海底模型」　宮崎の現在が，多くの地殻変動の結果形成されたことを物語る．

博物館だより　夏季特別展

兵庫県立人と自然の博物館

企画展「くらしの中の石の世界」

開催期間：7月18日（土）～9月20日（日）

兵庫県は，生野鉱山や明延鉱山で代表されるように，かつて有数の鉱山県であり，ある時期の日本の経済を支えてきました．一方，兵庫県は石材の産地でもあります．たとえば六甲山地から切り出された花崗岩は「みかげ石」とよばれて各地に搬出され，花崗岩の代名詞となりました．また播磨地域の白亜紀火砕岩類は，世界文化遺産となった姫路城の石垣に利用され，今も盛んに採石されています．今回の企画展は，このような岩石や鉱物の利用に焦点をあてたもので，兵庫の岩石・鉱物に加えて，当館に収蔵されている各地の岩石・鉱物標本を多数展示し，石がどのように利用され，人の生活にどう役立ってきたかを紹介しています．

展示内容は，まず「石のできる場所」で岩石の分類や基本的な事柄を紹介した後，「宝石となる鉱物」，「金属の原料となる鉱物」，「さまざまなところで利用される鉱物」，「建築材料として利用される石」で鉱物と岩石の標本と，それらを使用した製品や利用についての展示をしています．そして最後に「資源のこれから」として，資源の枯渇・環境問題についてふれています．さらに，このほかに蛍光鉱物や鉱物の電導性・磁性などの実験コーナーもあり，来館者が自ら実験することで，鉱物の性質にふれることができるようになっています．多くの会員の方々に御来館いただきたいと思います．

問い合わせ先：兵庫県立人と自然の博物館
〒669–1546　三田市弥生が丘6丁目
電話・Fax（普及課直通）：0795–59–2002
ホームページ：
http//www.nat-museum.sanda.hyogo.jp/
開館時間：10：00～17：00
休館日：毎週月曜日（日曜が祝日の場合は火曜日）
入館料：大人　200円
大・高生　150円
中・小生　100円
交通：電車では，神戸電鉄「フラワータウン駅」下車すぐ．車では中国自動車道「神戸・三田IC」から5分．

三笠市立博物館

日本最古の化石サンゴ礁

―4億3,000万年前，日本は熱帯にあった―

開催期間：7月19日（日）～9月23日（水）

三笠市立博物館では，今年度の自然科学系特別展として，高知県横倉山産のシルル紀化石を中心とした特別展を行う．シルル系は国内では分布も狭く，また古生物も未研究のものが多い．こうしたことから，一般の人々のみならず，研究者の大半にもこの時代の化石には，なじみが少ないと思われる．そこで，今回は，国内のシルル系の中では，化石の豊富な横倉山にスポットを当てて，当時の生物の紹介を行うことにした．展示標本数は約300点で，床板サンゴ，三葉虫，直角石，腕足類等を中心とする．また，図録（全頁カラー，18p）も400円で販売する．展示標本の多くは，個人収集家からの借用であるが，横倉山産化石を系統的に収集・展示している公的機関が，ほとんどないことから，これらの化石の多くはふだん目にすることができない貴重なものである．展示の項目として，「横倉山の概要」，「サンゴについて」，「シルル紀の生物」，「床板サンゴ類」，「四放サンゴ類」，「三葉虫類」，「当時の海底景観図（2葉）」，「直角石類」，「腕足類」，「巻貝類」，「その他の化石」，「赤道からやってきた横倉山」，「建材としての横倉山石灰岩」などがある．これらのうち，主な項目の概略を次に紹介する．

「横倉山の概要」では，縮尺1万分の1の横倉山周辺立体模型を作成し，地理的に特異な横倉山レンズ状岩体の形状と地質を立体的に把握できるようにした．また，横倉山花崗岩や日本最古の火山豆石などの岩石も展示する．「床板サンゴ類」「四放サンゴ類」は展示面積の約半分を占める．クサリサンゴ類は，国内未記載種数種も含めて展示する．中でも高さ40cm近くのクサリサンゴの大型群体は貴重である．また，ハチノスサンゴ類と四放サンゴ類は，軟弱な泥底に適応した形態，古生態を示すものが多く，これらについては，古生態を中心とした解説を行う．「三葉虫類」は，15種あまりの三葉虫を展示する．これらの三葉虫は小型で，破片が多いため，復元図と固定ルーペを多用して，見学者の理解の一助とする．また，比較のために外国産の三葉虫も展示する．「直角石類」は，国内産としては非常に保存のよいものを展示し，密集標本も含めて4種類あまりを展示する．これらの直角石は殻表面が観察できる標本もある．「腕足類」「巻貝類」に展示する標本のほとんどは，未記載種と思われるが，こうした展示が研究進行のきっかけとなることが期待される．「建材としての横倉山石灰岩」は，はるばる横倉山から札幌の警察署まで運ばれて壁材となった石灰岩「土佐桜」を展示する．この警察署は昭和9年に建造され一昨年に解体されたもので，遠く離れた北海道と横倉山が縁浅からぬ仲であったことが面白い．この他にも，日本最古の陸上植物化石であるリンボクや，放散虫など微化石の写真も展示する．

交通案内：JR函館本線岩見沢駅から，中央バス「幾春別」行き終点下車，徒歩5分
入館料：大人310円（250円）小人100円（80円），（　）内は20名以上の団体
開館時間：午前9時から午後5時，入館は午後4時半まで．休館日は月曜，ただし月曜祝日の場合は火曜日．
連絡先：〒068–2111　北海道三笠市幾春別錦町1–212–1
電話　01267–6–7545　Fax　01267–6–8455

大分地質学会の紹介

大分地質学会会長　野田雅之

会の名称と発会の経緯：よその県には地質同好者の集いがあって，盛んに活動しているのにどうしたことか大分県にはその兆しが全くない．九州大学（当時）の岡田博有教授（大分県国東町出身），山口大学名誉教授（当時別府大学教授）故村上允英先生から「九州地方の均衡のとれた地質学の発展を図るためには，大分県に地質学関係の学会組織が必要なので，大分に地質同好会をつくっては」との呼びかけを受けたのは1992年2月，鹿児島大学で行われた西日本支部総会の時であった．大分大学地学教室や同大卒業生の協力を得て，1993年12月5日会の発足をみた．当初は大分県地質同好会と称したが，会の性格を考慮して，翌年，大分地質学会と改めた．

会の構成：

会長：野田雅之　〒870–0881 大分市深河内五組の二　電話 097–544–4332
白亜紀化石層序，白亜紀軟体動物イノセラムス専攻

事務局：大分県教育センター研究部　都留俊之気付　〒870–1124 大分市旦野原847–2　電話 097–569–0118　振替口座（普）01950–1–60513　大分地質学会

会員数：102名（1998年6月末現在）

会員の資格：

1. 県内在住の地質に興味を持つ者．年齢は問わないが，中学生以下は保護者の承諾が必要（会費納入の関係があるので）．
2. 県外の人で，大分県の地質に興味を持つ者．
3. 大分県出身で，県外に勤務または居住する地質研究者，技術者．
4. 県外の地質専門家で，県内に研究対象のフィールドを持つ者．

入会申込み：所定の入会申込書を事務局に請求して記入提出する．

地質巡検ならびに化石採集会（1998年4月29日）津久見石灰岩地域

氏名（ふりがな），住所，生年月日，職業，電話番号，地質専門の方はできれば専攻分野．

会費：年3,000円，ただし，会誌特別号のページ数によって，次年度に追加徴収することがある．採集会，巡検会，講演会等のテキストならびに予稿集は，その都度購入していただくことになる．

会の活動内容：

1. 化石，岩石，鉱物の採集会の開催．年1～2回実施，簡易印刷のテキスト配布（実費）．
2. 地質巡検会（日帰り）は夏休み中に開催．簡易印刷のテキスト配布（実費）．
3. 講演会ならびに巡検会（泊をともなう）は10月中に開催．講演内容のプレプリントならびに巡検案内配布（いずれも簡易印刷，実費）．
4. 総会ならびに研究発表会は1月中に開催．簡易印刷の予稿集配布（実費）．
5. 県内小地域ごとに，また，対象をしぼった小集会が随時行われている．
6. 大分地質学会誌の発行．年1回，全アート紙，B5判，約100ページ．
内容：原著論文，解説，寄書，講話，トピックス，巡検ならびに採集案内，学会記事．
7. 大分地質学会誌特別号の発行．不定期刊行，全アート紙，B5判，約100ページ．
内容：1冊1論文またはテーマを決めてシンポジウムの特集．

大分地質学会の既刊出版物：事務局に申し込めば入手できる．

大分地質学会誌，創刊号，（1995），60ページ，頒価1,000円．

大分地質学会誌，第2号，（1996），62ページ，頒価1,000円．

大分地質学会誌，第3号，（1997），94ページ，頒価1,200円．

大分地質学会誌，第4号，（1998），107ページ，頒価1,200円．

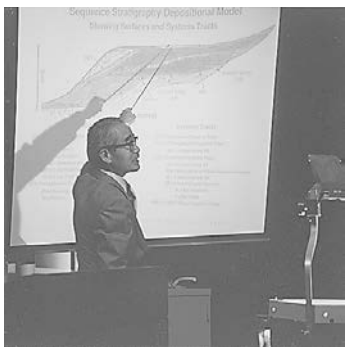
大分県地質同好会誌別冊，第1号，（1994），野田雅之，九州田野層群ならびに大野川層群より産出する白亜系イノセラムス．49ページ，8図版，頒価1,000円．

大分地質学会誌特別号，第2集，（1996），野田雅之・大塚雅勇・加納　学・利光誠一，九州御船層群ならびに姫浦層群より産出する白亜紀イノセラムス．63ページ，15図版，頒価1,200円．

大分地質学会誌特別号，第3集，（1997），野田雅之編集，九州庄内化石林についてのシンポジウム　付．阿蘇野珪藻土．99ページ，頒価1,200円．

大分地質学会出版物（上：会誌，下：会誌特別号）

大分地質学会出版物の特徴は，紙質・製本ともに上質で，写真が豊富，かつ鮮明であること．内容的にはローカルな出版物，同好者を対象とした普及的な出版物という立場から，市販の書物では物足りない，かといって中央学会の学術論文では理解しにくいといった内容のものを解説的にとりあげたものが多い．本格的なレベルの原著論文は先取権や頒布等の問題もあるので，できるだけ専門学術誌にまわすよう編集部では配慮している．



講演会　岡田博有先生「地質の新しい見方」（1998年12月5日，於大分大学教育学部地学教室）

地学英語雑感⑥　良いセンテンスをつくる－4

嶋﨑吉彦

（6）句読点－Punctuation－

本来日本語には句点「。」と読点「、」，すなわち英語流にいえばピリオドとコンマの2種類しかない．それにくらべて英語には；コンマ，セミコロン，ピリオド，コロン，ダッシュ，ハイフン，アポストロフィ，エックスクラメーション　ポイント，など大変な種類がある．しかし，これらは西洋語本来のものではないらしく，印刷技術の発達にともなって，現在使われているようなpunctuation markが一般的に用いられるようになったとのことである．それ以前は全く今とは異なった句読点のようなものを使ったり，使わなかったりしていたようである．

いずれにせよ英語の色々な発展段階で増えてきたpunctuationを効果的に使いこなすのは容易ではなさそうである．しかし現在の英語のセンテンスはpunctuationなしでは成り立たず，何とかこれらを使わなければならない．Punctuationの目的は，いうまでもなく，文章の内容を明瞭にわかり易くすることである．したがって極めて機能的なものであって，それ自体が意味をもっているものでないことは言うまでもない．そこで筆者は，目的に沿った常識的な使い方をすれば良いなどと簡単に考えてしまうが，しかしやはり記号それぞれの基本的な機能（約束事）を正確に知っておくことは理解し易い文章を書く上で重要であろう．

これについては，USGSでも最近重視し始めたようで，“Suggestions”のed.5と7をくらべると，7のほうが相当多くのページをpunctuationに割いている．米国の地学屋達もなかなかpunctuationを正確に使いこなしていないことが目に付き始めたのであろうか．

筆者自身も決して使い方がうまい方だとは思っておらず，また色々と異なった使い方もあるようだが，USGS方式を中心に“Suggestions”その他から使い方を紹介する．ここでは我々にとって重要と思われる部分を重点的に採り上げて，種類別に順次述べていこうと思う．

さてpunctuationの機能は，①関連ある言葉をまとめる，②関連のない言葉を離す，③挿入句的な言葉を囲む，④重要な言葉を強調する，と言えるようである．　まず最も頻繁に使われるコンマから述べよう．

a. コンマ

最も多く用いられ，かつ使い方に迷うことの多いpunctuation markはコンマではなかろうか．

導入句節は意味が余程明瞭でなければ，コンマで切った方が良い．導入分詞句節の後には必ずコンマをいれる．“Where data are inaccurate or insufficient results deviate from what is expected.”insufficientの後にコンマをいれる．また“Deflected by natural obstructions the lava stream turned eastward.”ではobstructionsの後にコンマが必要である．この辺は余り問題はなかろうし，また常識的であろう．

同格の名詞を三つ以上並べるときに，最後の“and”の前にはコンマを入れないように教わった人が多いのではないかと思う．これは多分英国式で，米国では入れていると考えて良いようである．“Suggestions ed. 7”では，入れるように特筆し，入れないのは間違いであり，特に科学技術文書では注意を要すると言っている．例えばFluorite, barite, calcite, and kaolin.さらに，“The basement complex consists of three conformable, well-layered units of gabbro, diorite and granodiorite, and granophyre.”の例でわかるように，granodioriteのあとのコンマがなければ混乱すると言う．後者の例のような場合にはコンマを入れ，前者の場合には入れない人もいるようであるが，この点は知っておいて，それぞれ好みの使い方をすれば良いのではなかろうか？

同格の形容詞（parallel or coordinate adjective）を並べるときには，そに間にコンマを入れる．しかし同格でない（non-parallel）のときは入れない．この両者の違いは，間に“and”を入れるか，順序を入れ替えても意味が変わらなければ同格形容詞だそうである．

例えば；

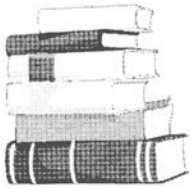
hard, impermeable soil
　　しかし　　hard clay soil
short, swift streams
　　々　　short tributary streams
freezing, driving rains
　　々　　heavy spring rains
silty, clayey sand
　　々　　yellowish-gray clayey sand

挿入語句の両側にはコンマを入れて本文と区別する．例えば，“Several individual flows, each thicker than 25m, have been traced for more than 160km.”この場合，カッコまたはダッシュを入れても良いが，こちらのほうは強調したり，考えが急転する場合に使った方が良いようである．

次にコンマを入れてはいけない場合がある．センテンスの主語と述語の間，述語と目的語の間，前置詞とその目的語との間，形容詞とその名詞の間にコンマを入れて離してはならない．挿入語句の場合のみが例外である．また“Suggestions”を引用すると，“A national program aimed at reducing hazards to life and property and at minimizing disruption of governmental and private activities, is spelled out in a newly published report.”この場合は，activitiesの後のコンマを削るか，programのあとにコンマをいれて挿入句的なものにしてしまうかいずれかの処置が必要である．筆者の持論である，英語の達人以外はなるべく主語と述語をくっつける，という点からすると，これは二つのセンテンスに割るか，どうしてもこのような文を書かなければならないのなら，せめて両方にコンマを入れて挿入句にした方が良さそうに思える．

以上コンマの使い方についての概略を記した．筆者には，我々はこの程度使えれば良いのではないかと思える．また，例えば同格の名詞を三つ並べた時の二つ目の後にコンマを入れるか否か，などについては，それぞれの出版物の編集部で決めれば良いことであろうし，個人的には同じ文章内で一貫していればどちらでも良いように思える．要するに文章の意味が理解しやすい方法で良いのではなかろうか．

次回はpunctuationについて引続き述べる．



紹　介

［新］文明のなかの未開
レリックの世界
井尻正二・真野勝友・堀田　進著

〔築地書館　1998年3月発行，四六判，272ページ，定価　本体2,500円＋税〕

本書の旧版にあたるものは，1962年に三一新書の1冊としてまとめられた井尻正二著の『文明のなかの未開』である．1968年には，それを絶版として増補改定されたものが築地書館より出版され，30年の間に11回も版を重ねた．今回，著者に新しく真野・堀田の両氏が加わり，旧版が出版されてからの急激な社会の変化と，自然科学・社会科学の目覚ましい進展を踏まえて改定が加えられ，新たに新版として刊行された．

本書の特徴は，旧版の（あとがき）で述べられているように，“生物の世界に見られる「レリック」というカテゴリーを軸にして，社会のレリックと，文化またはイデオロギーのレリックを概観”することを基本テーマとしていることである．レリック（あるいはレリクト）という言葉は，地質学でも，生物学でも，生態地理学や系統学の分野で異なった意味で使われていて，一般には馴染みが薄い．それらの中で，系統発生の進化速度の議論で扱われるオウムガイやカブトガニのように，一般には『生きている化石』として知られているものが遺存種とよばれ，本書で扱われるレリックの概念はそれにあたる．すなわち，本書では，古生物学で用いる遺存種，すなわちレリックという用語をカテゴリー（ヘーゲル的な意味での）として扱い，生物進化の視点から見た社会や文化におけるレリックの考えが展開されている．このような旧版での方向づけは新版にも受け継がれているが，内容にいくつかの相異点が見られるので，ここではそれについて紹介する．

旧版は3章から構成されていたが，新版の本書では4章からなり，新しく1章が付け加えられた．本書の第Ⅰ章は《生き残った生物》という標題で，〈雪男の正体〉〈バイカル湖のアザラシ〉〈メタセコイアの発見〉〈カモノハシのすむ国〉〈シーラカンスのうきぶくろ〉と，興味をひかれる話題が並び，最後に〈生きている化石＝レリック〉の節で「レリックとは何か」の説明がされる．この第Ⅰ章は，旧版では第Ⅱ章《前世界の生物》として扱われた内容のものである．旧版の第Ⅰ章は，《野蛮と未開の世界》であり，最初から社会的な問題が取り上げられていた．今回の新版では，社会的な問題の章は後にまわり，第Ⅱ章《昔の社会》として扱われている．たしかに，レリックという言葉に馴染みの薄い読者にとっては，今回のような配列の方が理解し易いことであろう．旧版では，《はじめに》で，古生物学を学ぶ者の歴史的なものの見方や感じ方を，ほかの自然現象や社会の問題に推し広げて述べてみたいという意図が語られ，それに続いての第Ⅰ章の《野蛮と未開の世界》であり，第Ⅱ章の《前世界の生物》となっていた．

第Ⅱ章の《昔の社会》は，〈思い出のパプア島〉〈カンガルーの狩人〉〈トナカイの民〉〈ものいう道具・こわされない道具〉〈ユーカラのなかのアイヌ〉という構成になっていて，その内容は大局的には旧版とは変わっていない．旧版では，著者の体験談である〈パプア島の生活〉から始まり，読んでいるうちに社会におけるレリックの世界へ導かれた．新版では，それが次の第Ⅱ章に回ったために，第Ⅰ章のレリックの話から読み始めることになる．昨今，テレビなどで安易に“文明化された未開の”パプア・ニューギニアの人達の姿を見られるようになったが，半世紀も前の体験を記したこの〈思いでのパプア島〉には，それらとは違った貴重な記録が残されている．第Ⅱ章の《昔の社会》は，旧版では《野蛮と未開の世界》であった．この野蛮，未開という用語は，モルガンの『古代社会』で使われたものである．エンゲルスは，『家族・私有財産・国家の起源』で，このモルガンの『古代社会』とマルクスの『資本論』とをもとに，未開から文明へという古代社会の発展過程を分析し，未開社会の集団内での生産力の発展が私有財産と父権家族の発生と強化，さらに階級対立の激化が国家を成立させるという考えを示したことはよく知られている．この第Ⅱ章では，現在の我々の社会に見られるレリックの姿に，野蛮・未開・文明という社会・文化の発展段階を通しての考察を加えているが，レリックは，生物では種の単位のことであるのと同じく，社会制度のレリックの場合も，ある民族，ある地域（国）の支配的な経済制度が対象になるとしている．あらゆる民族に一様な一元的な進化過程を想定したモルガンの学説は訂正され，未開社会を経済的な条件ではなくて構造，トーテミズムやコムニケーションによる精神構造によって解釈しようとする視点もとられているが，そうしたことについても，レリックの視点からの議論が必要なのではなろうか．

第Ⅲ章の《心のしがらみ》は，旧版では《人の心》とされていたもので，〈人間らしさ〉〈本能の末裔〉〈社会の細胞〉〈神々の誕生〉〈義理の親孝行〉で構成されている．ここでは，旧版にあった“子どものなやみ”は省かれ，新たに〈神々の誕生〉のところに“日本の神道”という項目が加わり，日本人の心に深くかかわるシャーマニズム（日本的シャーマニズム）についての考察が述べられていて，本書の最後にある〈心のレリックとの闘い〉に関係することになる．このように，心の問題にレリックの概念を持ち込むことには異論があるかも知れないが，ここで述べられている“人間的なもの”“母性愛”“家族の由来”“親孝行”などを読めば，レリックの見方が心の問題を理解するには不可欠で重要であることがよく分かる．

最後の第Ⅳ章の《レリックの教え》は，今回，新しく書かれたもので，その構成は，〈生物のレリックに学ぶ〉〈社会のレリックに対する反省〉〈心のレリックとの闘い〉となっている．旧版では，第Ⅲ章の終わりに〈日本の文化〉という項目があり，そこの“失われた旧石器時代”と“レリックの未来”という2つの文章と，“あとがき”が全体の（まとめ）をしていた．新版の第Ⅳ章では，レリックについてどのように考えていったらよいかということが述べられていて，内容が理解しやすくなっている．つまり，生物でのレリックの理解には，生物進化の内因と外因，それとレリックの存在する条件についての観点の必要性が示され，さらに視野を拡大した場合，自然・社会・思惟を貫くものの理解はヘーゲル的な循環の弁証法からではなく，「発展的弁証法」の見方が重要という問題提起がされている．そうした見方を，社会発展の認識に拡げた場合，生産力と生産関係の対立と矛盾というこれまでの内因重視ではなく，社会をめぐる自然環境・他の社会（国々）との関係・社会の上部構造などの外因，さらに，それらの間での次元の異なる運動法則の階層制や相関関係などの研究の重要性が指摘されている．最後の，〈心のレリックとの闘い〉では，日本の封建道徳への批判の陰に隠れ，諸悪の根源ともいうべき日本的シャーマニズムへの批判や闘いが，ないがしろにされてきたことへの反省が述べられている．

新版では付表として，地質年代表，経済的社会構成体と地質系統の対比表，図解　社会のしくみ（図解　生産様式），さらに旧版にもあった石器時代年代表が補足修正され，読者の理解に便利である．また，旧版にもあったレリックの植物・動物のリストは，補足訂正がされ，さらに利用し易くなった．本書は読み易く，話題性に富み，深い内容のある良書であり，地質学・古生物学の関係者ばかりでなく，広い諸分野の方々も読まれて，本書が提示している問題をみんなで深めていくことを期待する．

（亀井節夫）

ご案内

平成10年度「深田研談話会」ご案内

財団法人深田地質研究所では，「地質学およびその関連分野における先端的な研究者と，地質・地質工学関係の，とくに若手技術者との相互交流の場を設け，交流を通して応用地質学の実践と技術の向上を図る」ことを目的として，「深田研談話会」を開催しています．本年度は以下のように予定されています．

参加費：無料．ただし，第16回の現地談話会については現地交通費（貸し切りバス）の一部1,000円を自己負担．現地までの交通費および昼食は各自負担．

申し込み方法：参加ご希望の方は，Faxまたははがきにてお申し込みください．その際，氏名・職業・連絡先（住所・電話番号）をご記入ください．

申込先：財団法人深田地質研究所
〒113-0021 東京都文京区本駒込2-13-12
電話 03-3944-8010 Fax 03-3944-5404

・第15回談話会 9月11日（金）午後3時～午後5時 講演課題「後期新生代のカルデラ火山群の地質」 講師：山元孝広氏（地質調査所）
・第16回談話会現地談話会 10月3日（土）9時～午後5時（JR幕張本郷駅集合・解散）指導内容「堆積構造の見方 その2」場所：佐原～東庄間（利根川に沿ったルート） 定員：40名程度 講師：伊藤 慎（千葉大理学）
・第17回談話会 11月6日（金）午後3時～午後5時（大阪深田ビル4階会議室） 講演題目「ダイナミック地層学：堆積と累重の過程を明らかにする新しい地層学」 講師：増田富士雄（京都大大学院理学）
・第18回談話会 11月13日（金）午後3時～午後5時 講演題目「地球情報学―特にその統計処理」 講師：正路徹也（東京大大学院工学系）

第17回日本自然災害学会学術講演会および第35回自然災害科学総合シンポジウムのご案内

第17回日本自然災害学会学術講演会を下記のように開催いたしますので，多数ご参加下さいますようご案内いたします．

期 日：1998年10月15日（木），16日（金）9時～17時
場 所：金沢大学工学部秀峯会館
金沢市小立野2-40-20 電話 076-234-4656
参加費：3,000円（講演要旨集代を含む）
懇親会：自然災害科学総合シンポジウムと共催
日時：1998年10月16日（金）18時～20時
場所：金沢スカイホテル，
会費：6,000円
参加申込：下記実行委員会までファクシミリまたは郵送でお申し込み下さい．

第35回自然災害科学総合シンポジウムおよびオープンフォーラム

「福井地震から50年 都市直下型地震災害を考える」を下記のように開催いたしますので，多数ご参加下さいますようご案内いたします．

期 日：1998年10月17日（土）9時～17時
場 所：金沢大学工学部秀峯会館
金沢市小立野2-40-20 電話 076-234-4656
内容：9：00～12：00 自然災害科学総合シンポジウム
・「自然災害総合研究班の活動をめぐる最近の情勢について」
・「1997年イラン東北部の地震とその被害に関する研究」
・「秋田県鹿角市八幡平地すべり・土石流災害に関する調査研究」
・「1997年7月梅雨前線停滞に伴う西日本の豪雨災害に関する調査研究」
・「実時間災害対応ネットワーク構築について」
13：30～17：00 オープンフォーラム
「福井地震から50年 都市直下型地震災害を考える」
参加費：無料（講演概要集配布，無料）
懇親会：上記のように，自然災害学会と共催で懇親会を開催いたしますので，多数ご参加下さいますようご案内申し上げます．
連絡先および申込先：
〒920-8667 金沢市小立野2-40-20
金沢大学工学部土木建設工学科
第17回日本自然災害学会学術講演会及び第35回自然災害科学総合シンポジウム
実行委員会 幹事 宮島昌克
電話 076-234-4656，Fax 076-234-4644
E-mail : miyajima@t.kanazawa-u.ac.jp

日本地熱学会20周年記念シンポジウム開催について

日本地熱学会は設立20周年を記念して，平成10年東京大会において下記のとおり記念シンポジウムを開催致しますので，多数ご参加下さい．

日 時：平成10年10月27日（火）9時30分～17時30分
場 所：東京都新宿区西早稲田1-20-14
早稲田大学国際会議場 井深ホール（総座席数450席）
表 題：「新地熱発電所と今後の地熱開発」
内 容：最近運開した（運開予定の）地熱発電開発地点について，探査・開発の経過および将来計画に関する講演（各20分）と討論（各10分）を行い，最後の総合討論において我が国における今後の地熱開発のあり方を展望する．

9：30- 9：40 会長挨拶（司会：野田徹郎）
9：40-10：10 脇田健治「葛川地点の開発経過と現況」
10：10-10：40 鷹觜守彦「葛根黠田2号機の開発経過と現況」
10：40-11：10 二子石正雄「上の岱地熱発電所―探査・開発から現況まで―」
（休憩）
11：30-12：00 佐伯和宏「柳津西山地熱発電所の探査・開発経緯と蒸気供給の現状」
12：00-12：30 真島俊昭「八丈島における地熱発電の現況」
（昼食）
（司会：由佐悠紀）
13：30-14：00 春口健次「八丁原発電所の開発経過と現況」
14：00-14：30 本松利郎「滝上地域の開発の経緯と現況」
14：30-15：00 児玉牧夫「霧島地域における地熱開発―経緯，現況及び今後の展望―」
（休憩）
15：20-15：50 佐久間弘二「山川発電所の開発経緯と今後の課題」
（総合司会：野田徹郎・由佐悠紀）
16：00-17：30 総合討論「我が国における今後の地熱開発」
（日本地熱学会行事委員会・企画委員会）

平成9年度地方自治体活断層調査報告会

科学技術庁では平成9年度地震関係基礎調査交付金で行われた地方自治体による活断層調査の報告会を下記の日程で行います．参加ご希望の方は下記までファックスまたははがきにてお申し込みください．プログラム等詳しい内容につきましては，下記問い合わせ先までご連絡ください．

日 時：平成10年11月4日（水）9：30～17：30，5日（木）9：30～16：45
会 場：東京都千代田区大手町1-8-3 JAビル8階 JAホール
概要：地震関係基礎調査交付金による活断層調査に関する情報を自治体間で交換し合い，活断層調査の有効な調査手法および成果の地域防災への適切な活用方法について検討するとともに一般市民に全国で調査を実施している活断層情報を提供する．

日程としては11月4日は平成9年度で調査が終了した断層，11月5日は平成10年度も調査継続中の断層についての発表が行われる．

発表者：平成9年度地震関係基礎調査交付金事業実施自治体
一般参加者定数：150名程度

参加費：無料
申込方法：ファックスまたははがきに，氏名，勤務先（または自宅）住所，電話・ファックス番号を明記の上，下記までお送り下さい．
問い合わせ・申込先：
〒101–0064 東京都千代田区猿楽町1–5–18 千代田本社ビル5階
(財)地震予知総合研究振興会　地震調査研究センター　活断層報告会係
電話 03–3295–1501　Fax 03–3295–1507

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，執行委員会までお申し込み下さい．

平成11年度笹川科学研究助成募集について

趣旨：「笹川科学研究助成」は，21世紀に向かって真に質の高い社会の実現のため萌芽性，新規性および独創性のある内容をもった研究を奨励し，振興することを主旨とし，他からの研究助成が受け難い研究を全国的に掘り起こすとともに，意欲に満ちた優れた若手研究者の育成ならびにその研究に対する助成を目的とします．
対象となる領域並びに申請区分：人文学，社会科学および自然科学（医学を除く），またはそれらの境界領域に関する研究．なお，本年度は上記領域を次の申請区分に分けます．
一般科学研究
学芸員・図書館司書等が行う研究
海洋・船舶科学研究
研究計画および助成額：研究計画は，単年度（平成11年4月1日から平成12年2月15日まで）内で研究が完了し，成果をとりまとめられるものとします．
なお，次年度以降も継続して行う必要がある研究計画については，その研究の内容に応じ3か年を限度とし，各年度ごとに審査の対象とします．ただし，次年度以降の助成については，内約いたしません．
助成額は，1研究課題あたり年間100万円を限度としています．
募集の対象者：平成11年4月1日現在，35歳以下の者であって，次の条件を満たす者．ただし，大学院生，学芸員および図書館司書にあっては，その限りではありません．
＜応募条件＞
平成11年4月1日現在，大学院修士課程ならびに博士（前期・後期）課程に在籍する者および進学予定者　大学院生と同等以上の能力を有する者　大学，研究所，研究機関，教育機関等において研究活動に従事する者　博物館（含む類似施設）で学芸的業務に従事している学芸員等および図書館で情報処理に関し研究活動に従事する司書等
申請の方法：所定の「平成11年度笹川科学研究助成交付申請書」を使用．
募集期間：平成10年9月1日（火）から平成10年10月30日（金）まで必着．
募集方法：新聞その他で一般公募．
選考方法：(財)日本科学協会内に学術専門領域別からなる学識経験者で構成する笹川科学研究助成選考委員会を設け，審査選考を行う．なお，申請者に対して申請の研究内容等について，照会する場合があります．
決定通知：助成金の決定は，平成11年4月中に通知．なお，内定は，平成11年3月末日までにお知らせします．
助成の対象となる研究費：平成11年4月1日から平成12年2月15日まで，研究の実施に直接必要な経費とします．
応募方法：申請書のお申し込みは，官製ハガキ，FaxもしくはE-mailにて郵便番号，住所，氏名，電話番号および希望部数を明記の上，ご連絡ください．
以上の要領で募集されます．詳細は学会あるいは下記にお問い合わせください．
財団法人日本科学協会笹川科学研究助成係
〒105–0001 東京都港区虎ノ門1–11–2
第2船舶振興ビル3階
電話 03–3502–1931　Fax 03–3580–8157
E-mail : LDG 01360@niftyserve.or.jp

公募

教官公募等の求人のニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

応募

既掲載の公募の採用結果のお知らせがありましたので，ご報告いたします．

島根大学総合理工学部地球資源環境学教室助手
志比（しび）利秀氏（金沢大学大学院）

新潟大学理学部自然環境科学科の教員の公募について

下記の要領で教員を公募いたします．

記

職名および人員：新潟大学理学部自然環境科学科　地球環境科学大講座　教授1名
専門分野：広い意味での環境地質学
応募資格：博士の学位を有し，大学院自然科学研究科博士前期・後期課程の担当が可能であること
担当講義：学科の専門科目（講義のほか実験・実習を含む）のほかに，教養科目の講義も担当．また，大学院自然科学研究科の講義を担当予定．
着任時期：1999年（平成11年）4月1日
提出書類：　履歴書　業績リスト（レフェリー制度の確立された学会誌等に掲載された学術論，その他の論文，国際会議等の報告に分けてリストを作ること）
研究成果の概要（2000字程度）　主要論文の別刷5編程度　今後の研究計画と教育に関する抱負（2000字程度）
照会可能な2名の方の連絡先
提出締切：1998年10月15日
問い合わせおよび書類の送付先：（書類は書留で送付のこと）
〒950–2181 新潟市五十嵐二の町8050
新潟大学理学部自然環境科学科
学科長　石田昭男
電話/Fax 025–262–7536
E-mail : ishida@artemis.ge.niigata-u.ac.jp
その他の参考事項：自然環境科学科は1994年（平成6年）度に新設された学科で，地球環境科学大講座，環境生物学大講座，物質循環科学大講座の3大講座から構成されている．学生定員30名，教員定員18名からなる．現在の地球環境科学大講座のスタッフと研究テーマは次のとおり
教　授　檀上篤徳　原子・分子物理学
助教授　高橋利保　超高層大気物理学
助教授　久保田喜裕　資源・環境地質学
講　師　卯田　強　活断層・構造地質学

訃　報

本会員の次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．
正会員　佐藤任弘氏（6月19日），原田哲朗氏（8月1日），野村松光氏（8月8日），山田哲雄氏（8月15日）

☆地質学論集　近刊案内

地質学論集第50号が7月下旬に刊行されましたので，ご案内いたします．価格は2,500円．送料は380円．（現金または郵便振替00140–8–28067）なお，構造地質研究会会員には，会誌として，無料配布されます．

地質学論集　第50号　1998年7月

―構造地質　特別号―　21世紀の構造地質学にむけて

（狩野謙一・高木秀雄・金川久一・木村克己・伊藤谷生・山路　敦・小坂和夫編，1998年7月発行，263ページ，会員頒価2,500円，送料380円）

本論集は，日本地質学会構造地質専門部会の発足をふまえ，日本における構造地質学の進展を目標に掲げる唯一の組織である構造地質研究会の発足から30周年を記念して開催された「構造地質研究会1996年冬の例会」でのシンポジウム「構造地質の各研究分野における最近の研究の進展過程および今後の問題点のレビュー」（構造地質研究会・日本地質学会共催）を基礎として編集されており，構造地質研究会の機関誌「構造地質特別号」としても位置づけられている．

構造地質専門部会の活動を始めるにあたり，構造地質学の各分野における現状をレビューしつつ問題点を整理し，21世紀に向けた今後の課題を検討し模索していく作業が行われてきた．本論集では，その作業の一貫として，すでに構造地質研究会で活動をスタートしていた各研究グループごとに論文を編集した．それらは「基礎構造地質」，「日本列島のテクトニクス」，「地殻探査および堆積盆テクトニクス」，「地震地質・ネオテクトニクス」，「地球および惑星テクトニクス」，「応用構造地質」の6グループである．

計20編の論文のほとんどはレビュー論文であり，幅広い構造地質学の各分野における最近の動向と今後の課題を理解する上で役立てていただければ幸いである．とくに若い研究者にとっては，構造地質学―テクトニクス分野の今後の研究に向けてのよい指針となるであろう．

目　次

はじめに　狩野謙一・高木秀雄・金川久一・木村克己・伊藤谷生・山路　敦・小坂和夫……i–ii

基礎構造地質

岩石における動的再結晶……清水以知子　1–12

Fractal structural geology……Hiroyuki Nagahama　13–19

Progress in the studies of texture development in quartzite: recent topics……Toru Takeshita, Osamu Nishikawa, Masahiko Tagami and Jun-ichi Ando　21–32

未固結堆積物の変形挙動……廣野哲朗・芦　寿一郎　33–46

岩石の摩擦と流動に対する熱水および化学反応の影響：主要未解決問題……金川久一　47–57

破砕―塑性遷移領域の断層岩類……高木秀雄　59–72

アナログ・モデル実験にみる沈み込み帯の構造：延性的なマントル・ウェッジの流動から脆性的な上部地殻の変形まで……安間　了　73–88

日本列島のテクトニクス

日本列島の起源と付加型造山帯の成長　―リフト帯での誕生から都城型造山運動へ―……磯﨑行雄　89–106

付加体の構造地質学　―四万十帯を中心とした研究の現状と課題―……狩野謙一　107–130

付加体のout–of–sequence thrust……木村克己　131–146

四万十帯のデュープレックスと低角ナップ構造……村田明広　147–158

古生代～中生代の“アジア大陸”と“日本列島”……大藤　茂・佐々木みぎわ　159–176

地殻探査および堆積盆テクトニクス

反射法地震探査の発展と構造地質学の新たな展望……伊藤谷生・佐藤比呂志・井川　猛　177–192

反射法地震探査と衝突型造山帯テクトニクス……在田一則　193–204

地震地質・ネオテクトニクス

地震予知研究における構造地質学の役割……嶋本利彦　205–212

地球および惑星テクトニクス

月の起源・進化・テクトニクス……山路　敦・佐々木晶・山口　靖・小野高幸・春山純一・岡田達明　213–226

火星のテクトニクス……小松吾郎　227–234

応用構造地質

地質構造を捉える多様な視点と相互インターフェイスの必要性　―応用地質学が期待する21世紀の構造地質学―……横田修一郎　235–240

岩盤クリープと崩壊―構造地質学から災害地質学へ―……千木良雅弘　241–250

水みちとしての断層と節理―構造地質学から応用構造地質学へ……小坂和夫　251–263

地質学論集の割引について

地質学論集の割引については以下のとおりです，大いにご利用下さい．

No. 39以前の論集：院生・学生は4割引，正会員は2割引

No. 40以降　　：院生・学生のみ2割引

論集の割引は，とくに経済的な困難をかかえながらも，日夜研究をつづけている院生・学生諸氏への優遇を重点におきました．なお，院生・学正会員諸氏への優遇措置は，各号につき一人一冊と限らせていただきます．申込みの際，「院生」あるいは「学生」会員であることを明記下さい．

夜間小集会に参加しよう

来る信州大学における地質学会の夜間小集会において若手研究者懇談会を開催します．今年は現役バリバリの研究者（7月時点で未定）を迎えて，学生時代に何を考え，どういった視野で研究を推し進めていったのかなどをあまり専門的ではなく，一般的な側面においておおいに語ってもらおうという企画を考えております．誰が出てくるかはまだ承諾を得ておりませんので，今のところ，不明ですが，決して期待を裏切ることのない演者を招待しますので是非参加して下さい．小集会における議題は各大学の院生間のネットワーク作りと院生会員の会費問題についての討論を行う予定です．

研究室紹介　No. 2

早稲田大学教育学部地学専修高木研究室

セミナー場所・日時：早稲田大学本部キャンパス，16号館6階607教室，水曜日，16：00

スタッフ：高木秀雄

概要・特色：高木研究室は現在，大学院理工学研究科に所属する博士課程3名，修士課程4名と，地学専修に所属する卒論生7名の総勢14名で，本地学教室の地質系の特色でもあるフィールド調査に基礎を置いた研究を進めています．また，4月より当研究室出身の重松紀生氏が，助手（3年期限付）として地学専修に加わりました．この大所帯の各研究をまとめて表現すれば，1）断層岩類（マイロナイト類・シュードタキライト・カタクレーサイト・断層ガウジ）の構造解析と変形機構の解明．2）褶曲構造や剪断帯の構造解析・運動像を基幹としつつ，岩石学・年代学なども組み入れた地質構造発達過程ならびに東アジアと日本列島のテクトニクスの解明となります．その目指すものは，天然におけるマイクロ―メソ―マクロスケールの地質構造発達・改変様式のより現実的な理解であり，その核心は，各々のスケールごとの変形構造を把握し，異なるスケール間や空間の間での各変形構造の階層的関係性を明らかにすることにある……と考えられるのですが……

高木研究室は，教育学部の理学科地学専修にあります．この理学科は，数学，生物学，地学専修からなり，いずれも理学部のカリキュラムと変わりなく，1年次より実験・実習のレポートに追われます．早稲田の政治経済学，法学，商学，社会科学，教育学部といった文系優勢の本部キャンパスのなかでのマイノリティで，白衣なんかを着てキャンパスを歩いていると，好奇の視線，もしくはあんたらよーやるよ視線が突き刺さります．これを快感と呼ばずして，なんと表現すればいーのでしょう．この快感をさらに高めるために（？）1999年度より「地球科学専修」に名称が変更されます．

研究内容

以下の具体的研究課題が進行中です．現在研究室で最も人数をさいて取り組んでいる課題は，かつて領家帯と三波川帯の間に存在していた地質体を“古領家帯”ととらえた作業仮説の構築と，古領家帯構成要素の残存物と想定される地質体の構造地質学・堆積学・岩石学・地質年代学的検討です．他に，野島断層コアを用いた断層帯の物質地震学的解析（澤口・島田），畑川破砕帯における破砕―塑性遷移領域の断層岩の変形・地震発生機構の解明（重松）なども進行中です．

（DC1，DC2：日本学術振興会特別研究員，＊：古領家帯関連）

D3　澤口　隆DC2：北海道様似郡様似町，日高変成帯の幌満（ほろまん）かんらん岩体の延性剪断変形構造解析とその上昇プロセスの解明（上部マントル流動メカニズムの解明）

D1　新井宏嘉：関東山地，三波川帯の構造的上位に位置する跡倉ナップの構造発達史，とくに横臥褶曲の内部構造解析と運動像，褶曲構造発達過程の解明．跡倉層の後背地推定．

島田耕史DC1：　紀伊半島，領家帯南縁部の三次元変形・運動像および上昇過程の解明．とくに横ずれ圧縮場における延性剪断変形と褶曲構造形成の時空関係．　中国雲南省，哀牢山剪断帯の三次元運動像．

M2　阿部龍巳：関東山地，三波川帯の剪断変形運動像と温度構造の解析による横臥褶曲構造の検証．

小林靖広：南部北上帯，氷上花崗岩体の岩相区分と構造解析．古領家帯に産する深成岩類との地球化学的対比*．

曺　奎煥（Cho Kyu-Hwan）：韓半島淳昌（Soon-Chang）剪断帯の構造解析とマイロナイト化年代，および淳昌剪断帯と飛騨帯の船津剪断帯の時空関係の検討．

吉村浄治：愛媛県，唐崎マイロナイトの構造解析と古領家帯構成岩類の変成岩岩石学的対比*．

B4　後藤健太郎：北海道，幌満カンラン岩体中の斜方輝石の変形構造解析．

荒井誠一：愛知県，足助剪断帯における，破砕―塑性遷移領域で形成された断層岩類の構造解析．

淡路動太：カタクレーサイトと断層ガウジの変形からみた，棚倉構造線の運動像，活動史の再検討．

鈴木知明：福島県，畑川破砕帯における，破砕―塑性遷移領域で形成された断層岩類の構造解析．

曽田祐介：大分県，朝地変成岩体の地質構造と花崗岩類の変形，帰属の解明*．

戸邉恵里：熊本県，水越層の地質構造と花崗岩礫の年代測定*．

水野　崇：茨城県，日立変成岩の原岩層序と変形構造解析*．

研究室の一日と現状報告

教育学部の建物の6階のはしっこにある高木研究室の一日は，吉村君の大学の開門と同時の部屋開けから始まります．湯沸かしポットをセットしてくれて，いつもいつもありがとう．さて，ここで進路の話もしておきましょう．今年のM2は4人中3人が就職です．M1はいません．卒論生は，7人中5人が院へ進みます．この数は，地質系や他分野就職の比率の高い他の研究室に比べてやや多いようです．今年の就職組は全部で4人ですが，吉村君，阿部君，後藤君の3人が地質系会社に入社します．いずれもガンガン山を歩き，バリバリ仕事（研究）をする快男児（死語？？）で，きっと日本を覆う不況を突き抜けてくれるでしょう．

さて，9時から11時くらいにかけて，その他一同がぽつぽつとやってきます．院生諸兄は自分の机が別の部屋にあるのですが，学部生までの部屋はありません．院生は，早稲田5年目にしてようやく手に入れた自分の机で，それぞれマイペースで研究に取り組んでいます．学部生は荷物を廊下に置いて，教授と一緒の部屋（8畳くらいでしょうか）で研究します．高木さんは，大抵10時すぎに「やあ！」の声とともにあらわれます．イングランドで手に入れたというお気に入りのカップでコーヒーをまず一杯．わらわらと卒論生が集まる騒がしく狭い部屋で，Macや書類に向いながら，集中して仕事に向かっています．たまに独り言が聞こえます．『自称ナチュラリスト』も，最近は学内外の様々な仕事も担当されており，本当に忙しそうです．

最近の卒論生の話題は，上手な薄片の作り方，でしょうか．あるいは，有志の進める英語の教科書『Microtectonics』輪読の訳し方や，地質図の書き方，卒論の内容への期待や不安，高木研ノート（何でも書きま帳）に書かれた議論や発想に関連したものですかね？就職活動に時間をかける必要のない人が多いので，今年の卒論は充実した内容になりそうです．また，7名の院生は，全員が今秋までに国内外の学術雑誌に論文投稿済となる予定です．

来年は，院生が過去最大の8人になる予定です．それぞれが独自の視点と問題意識を持って研究に取り組み，地球科学・自然科学の発展に貢献できるよう研究室一同頑張っていきたいと思います．

研究室ホームページ（高木秀雄教授のみ）
www.waseda.ac.jp/schl/edu/staff/prof/takagi.html
関連ホームページ
・（地質学と地震，研究者紹介；澤口　隆・島田耕史）
wwwsoc.nacsis.ac.jp/trgjp/erg/scientists/scientists.html
・（構造地質研究会）
wwwsoc.nacsis.ac.jp/trgjp/index.html

……

今回は院生会員でアメリカに留学している圓入さんからの投稿です．海外留学を望む有志は必読でしょう．

―アメリカ大学院留学報告―
from Penn State

圓入敦仁（ペンシルバニア州立大学）

このニュースレターが学会員の皆さんに届く頃，アメリカの大学では秋学期が始まり，キャンパスは多くの学生達で活気づき始めます．アメリカの大学院での研究を目指していた私は，地球科学の分野では全米でも屈指の研究大学であるペンシルバニア州立大学（Penn State）の大学院に入学する機会を得て，96年の秋に渡米しました．新しい環境の中，世界中から集まる新入生に混じってオリエンテーションを受けていたのが，昨日のように思い出されます．アメリカと日本の大学で学生生活を経験すると，教育や研究に関してさまざまな興味深い点に気づくことがあります．このコラムでは，私がPenn Stateで経験した大学院での研究生活や教育システム，一般的な学生生活について，これから数回にわたり報告していきたいと思います．日本の大学で地質学を研究する学部学生や大学院生が，海外で学ぶことに興味を持つきっかけになれば幸いです．

日本の大学で地質学を勉強している皆さん学生の中にも，海外の大学院に進学したいと考える人は少なくないと思います．しかし，いざ留学の準備をするとなると，煩雑な手続きや語学力，経済面の問題，更には海外に住むことへの不安などから，留学の希望も夢に終わってしまうケースが多いと思われます．私も東北大に在籍していた時から大学院留学の準備を進めていましたが，幸運にも海外留学のための奨学金を受けることができ，また東北大やPenn Stateの先生方からのサポートもあって，いまこうしてPenn Stateで博士号取得を目標として研究行っています．

海外の大学や研究機関，特にアメリカの大学院に在籍していると，学会などを通して最新情報を得る機会が多くあり，刺激的な環境に身を置くことができます．またNSFやNASAなどからの豊富な研究資金を活用して，自ら最先端の研究を進めることも可能です．このように，大学院生レベルの日本人研究者が海外で勉強することは，常に外部（世界）に対してアンテナを向ける心構えを持つという点で，非常に有意義なことだと思います．近年，日本では基礎研究を重視する傾向がみられ，政府機関から多額のR＆D予算が投入されていることから，OD21などの国際プロジェクトにおいて，日本の地質学研究者がリーダーシップをとる機会が多くなることが予想されます．若手研究者が海外に飛び出して世界中の研究者と議論し，国際プロジェクトをリードすることは，日本の地質学の発展にも大きく貢献するのではないでしょうか．

Penn Stateは米国北東部ペンシルバニア州のちょうど真ん中に位置し，ニューヨーク，ワシントンDC，フィラデルフィア等の主要都市まで，高速道路を走って4～5時間の至近距離にあります．アパラチア山脈に囲まれた自然豊かな広大なキャンパスでは，約3万人の大学生と7,000人の大学院生が学んでいます．私が在籍するDepartment of Geosciences（地球科学科）は，地理学科や気象学科などからなるCollege of Earth and Mineral Sciences（EMS：地球および鉱物科学部）に属します．Geosciencesでは，地球化学，海洋地質学，古生物学，水質化学，海洋化学，構造地質学，地震学，鉱床学，氷床学など地球科学全般にわたる研究が行われており，約40名のファカルティ（教授陣）と80名の院生からなります．学科ビル内にはさまざまな研究設備が整っており，各分野では著名な研究者と共に仕事を進めることができる，非常に恵まれた環境にあります．

またEMSでは，さまざまなタイムスケールで見られる地球科学的現象を，多圏間の相互作用を一つのシステムとして理解することを目的としたEarth System Science Centerにおいて，学科間を越えた研究が行われています．さらに最近，Penn State GeosciencesはNASAがイニシアティブをとる，生命の起源に関する研究プロジェクトの研究施設の一つに指定され，NASA Astrobiology Institute（Science, v. 280, p. 1338参照）が発足しました．このようなexcitingな環境の中で，あなたもアメリカの大学院で研究生活を送ってみませんか．

今回は地質学を専攻する学生が海外に留学する意義と，Penn State Geosciencesについて紹介しました．次回はアメリカの大学院での入学選考方法について紹介したい思います．

……

研究室紹介や海外学会巡検報告についても常時投稿をお待ちしております．院生コーナーの編集は以下の3人で行っておりますので投稿は以下のメールアドレス宛てe-mailでいただければ幸いです．

yoshino@geol.s.u-tokyo.ac.jp　芳野　極（東大）
696g5059@mn.waseda.ac.jp　澤口　隆（早大）
massago@geo.titech.ac.jp　真砂英樹（東工大）

☆関東支部

ご案内

第10回地質汚染（土壌を含めた地層汚染・地下空気汚染・地下水汚染）技術研修会のお知らせ（第2報）

7月号の第1報でお知らせいたしました研修会の日時・申込み方法・期限などについて下記のとおり決定いたしましたのでご案内いたします.

日　時：平成10年11月4日（水）～11月7日（土）3泊4日
場　所：サンピア君津　千葉県君津市法木384-119
　　電話 0439-32-3332　Fax 0439-32-3399
費　用：日本地質学会会員・賛助会員70,000円，一般80,000円
　　（テキスト・宿泊・食事を含む）
スケジュール（予定）
［1日目］
平成10年11月4日（水）13時　JR内房線君津駅　中野口交番前集合　開講式　地質学基礎講座　地質汚染基礎講座　地質汚染の現状　懇親会
［2日目］
環境監査と地質汚染リスク　千葉県の地質汚染対策の現状　地質汚染調査技法Ⅰ　久留里市場汚染現場の汚染機構と浄化　地質汚染簡易測定法　久留里市場汚染現場見学と実習　地層の連続と不連続
［3日目］
土壌の見方と機能　現場分析とラボ分析　地質汚染調査技法Ⅱ　ボーリングコア観察の記載と分析実習　地下水の流れ方　地下水流動とシュミレーション
［4日目］
地質汚染浄化とモニタリング　残土が及ぼす地質環境リスク　内箕輪地質汚染汚染現場の調査と現地見学　閉講式
【募集人数】50名
【申込み方法】下記の申込用紙を参考に，Faxまたは郵送でお申し込み下さい．追ってご参加の可否を連絡させていただきます.

第10回地質汚染技術研修会　申込用紙

フリガナ
氏　　名
　　（年齢　　才　男・女）

所　　属

連絡先住所

電話　　Fax

【申込み期限】10月12日（月）（先着順に受け付けますので，定員になり次第締め切らせていただきます）
【申　込　先】〒135-0007 東京都江東区新大橋1-8-11
　　明治コンサルタント(株)東京支店　佐藤尚弘
　　電話 03-5624-2514　Fax 03-5624-2589

問い合わせ先
佐藤尚弘（同上）
石山英樹（君津市教育部）電話 0439-56-1692
佐藤賢司（千葉県地質環境研究室）電話 043-243-0261
上砂正一（明治コンサルタント(株)環境地質部）
電話 0727-51-1659
手塚裕樹（アジア航測(株)）電話 03-5379-3228
緒方信一（中央開発(株)）電話 048-250-1413

（緒方信一記）

巡検案内（予報）

第4回シーケンス層序学巡検 ―古東京湾の堆積物をみる― および 町民公開講座（予定） ―霞ヶ浦・北浦周辺の自然環境―

関東支部ではシーケンス層序学の巡検を実施しておりますが，毎回大好評のため今年度も企画いたしました.

これまで，茨城大学理学部付属臨湖実験所及び潮来町と共催で行っておりますので今回も共催をお願いする予定です.

最近著しい発展をみせる堆積学の分野で，特にシーケンス層序学は応用地質を専門とする技術者にとっても重要な位置をしめるようになってきました.

霞ヶ浦周辺は，古東京湾の堆積物（下総層群）の露頭が多くみられ，堆積シーケンスを観察するにもっとも適したところといえるでしょう．また，主会場である茨城大学理学部付属臨湖実験所には，生物系の諸研究施設のほか，周辺には北浦や自然保護地があり，渡り鳥・水中生物などの生態なども観察することができます．潮来町の自然環境に恵まれた場所での巡検ですので，環境問題の視点からも実り多いものと期待されます．ふるってご参加くださいますようご案内します.

記

共　催：日本地質学会関東支部
　　：茨城大学理学部付属臨湖実験所（依頼予定）
　　：潮来町（依頼予定）
日　程：1998年12月5日（土）～6日（日）　1泊2日（雨天決行）
スケジュール（予定）
【第1日目】：1998年12月5日（土）
昼　頃●JR鹿島線潮来駅前　集合
●茨城大学理学部付属臨湖実験所見学
●開催の御挨拶　天野一男教授（茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター長）
●シーケンス層序学入門講座
講師：安藤寿男助教授（茨城大学理学部地球生命環境科学科）
●休憩・夕食
●町民公開講座（予定）
●「利根川の東遷と下流域の環境問題」
講師：楡井　久教授（茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター）
●「ソコミジンコが語る湖の環境」
講師：菊地義昭助教授（茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター）
【第2日目】1998年12月6日（日）

●朝食・出発準備
●巡検（バスによる移動）
「堆積相・シーケンス層序から見た古東京湾の堆積物―茨城南部霞ヶ浦–北浦地域（行方台地）の第四系下総層群（予定）」
案内者：安藤寿男助教授
夕　方●解散：JR常磐線土浦駅
募集人員：35名（予定）
参 加 費：一人一般20,000円（予定），学生（院生を含む）15,000円（予定）
宿泊費，第1日目の夕食，第2日目の朝食を含みます．
申込み方法：ニュース誌9月号（来月号）に申し込みの詳細を御案内します．
連　絡　先：日本地質学会関東支部幹事
佐々木和彦（応用地質株式会社）
電話 048–667–9223　Fax 048–667–9275
E-mail : sasaki-kazuhiko@oyonet.oyo.co.jp
（佐々木和彦）

「現代の貝塚」中止のお知らせ

日本地質学会関東支部では，昨年まで過去4回「現代の貝塚」（東京都中央防波堤外側廃棄物処分場等）の見学会を，普及地質学における社会見学の一環として，小・中学校のお子さんや主婦の方も含めた一般の方々を対象に実施してきましたが，今年度は諸事情により中止させていただくことになりました．
総会で承認をいただきながら中止になりましたこと，謹んでお詫び申し上げます．
来年度以降，このような趣旨の見学会について，更に検討していきたいと存じます．皆様のご意見をいただければ幸いです．
【問い合わせ先】
◎東京都土木技術研究所
地象部地質研究室　中山俊雄
電話 03–5683–1530　Fax 03–5683–1515
◎中央開発株式会社　東京支社
地盤技術部　緒方信一
電話　048–250–1413　Fax 048–250–1410
E-mail : shinnichi_ogata@ckc-unet.ocn.ne.jp
（緒方信一記）

お知らせ

・日本地質学会東北支部長に矢内桂三氏（岩手大学）が就任されました．
・日本地質学会関西支部事務局は，7月4日の関西支部1998年度総会以降，京都部会に移りました．支部長は井本伸広氏（京都教育大）です．京都部会幹事は神谷英利氏・大野照文氏（京都大）・田中里志氏（京都教育大）の3名です．このうち庶務担当は神谷英利氏（京都大）となりましたのでお知らせいたします．

執行委員会だより

7月13日14：00～17：30に第6回執行委員会が日本地質学会事務局で行われ，出席者は，足立勝治執行委員長，天野一男，久保和也，佐々木和彦，滝田良基，鳥海光弘，高橋正樹各執行委員，水野篤行事務局長でした．主な報告・審議事項は以下のとおりです．

1. 6月30日に文部省主催の平成10年度学会法人等連絡協議会が行われ，水野篤行事務局長が出席，文部省による学会行政全般に関する情報提供が主な内容でした．
2. 地質科学関係学会懇談会が7月8日に日本学術会議で開催され，八尾　昭評議員，天野一男第一庶務委員長，水野篤行事務局長が出席しました．
3. 「預金口座振替による会費等の引き落とし払込」について第2回定例評議員会の了承に基づいて，(株)三井ファイナンスサービスとの契約書の締結を行うことを了承し，また会員への第1回広報のドラフトを検討しました．
4. 計60名の入会を承認しました．内訳は，正会員10名，院生会員40名，学生会員10名です．
5. 財政問題検討委員会，組織検討委員会，事業計画委員会，第一次地質基準策定委員会からの要望に応じて，松本大会の際にそれぞれの委員会の広報，会員との意見交換のためのコーナーを設けることとしました．
6. 9月24日に信州大学理学部で開催予定の臨時評議員会の開催通知について，報告および議題の項目を検討し，意見交換の結果，時間の制約条件と早急な審議の重要性という観点から，両者共最低限必要な特定の項目，とくに議題については，財政問題に絞ることとしました．

1998年度臨時評議員会のお知らせ

標記評議員会を下記のように，9月24日（木）に開催いたします．傍聴希望の方は9月14日（月）12：00（必着）までに執行委員会宛，氏名・連絡先を記入した申請書をご提出ください．

1998年度臨時評議員会
日　時：1998年9月24日（木）14：00～17：30
場　所：信州大学理学部会議室

The Island Arcだより

The Island Arcが地質学会および関連学会の公式欧文誌であるということから，英語の論文は，すべからくThe Island Arcに投稿しなければいけないのだろうかとか，あるいは，投稿する場合にどのように区別したらいいのかわからないという質問が，大学院生などからよくされるということを何人かの先生方から聞いたことがあります．今回は，この問題について簡単に考えてみたいと思います．

The Island Arcの表紙の裏をみていただきますと，一番上のところに，Editorial Scopeという項目があり，ここには，この雑誌の目的・性格が簡潔に述べられていますので，以下にまず，この文章を転載してみたいと思います．

“The aim of The Island Arc is to provide an opportunity for the prompt, international and high-standard publication of growing earth science research activities in the western Pacific rim and Asia, as well as other parts of the world. The Island Arc focuses on the structures, dynamics and evolution of plate convergence zones including trenches, island and continental arcs, back-arc basins and collision zones in modern and ancient settings. The Island Arc also deals with topics which may not be specific to plate convergence zones but are fundamental to understand them. The Island Arc aims to be a major forum for the presentation and discussion of these important earth science objectives with high academic standards and broard international recognition.”

この文章は，京都でIGCのあった年である1992年に発行された創刊号（Vol. 1, Issue 1）以来変わっていないために，今日では多少修正を加える必要があるのかもしれませんが，基本的には，ハイレベルで国際的な視点から，現在および過去のプレート収束域における重要な地質学的・地球科学的知見を迅速に提供し，議論する場として，The Island Arcが位置づけられていると思います．

もう少し具体的にいいますと，日本人や日本人の参加する国際的グループによるプレート収束域の地球科学事象に関する重要な研究成果をアジアや世界の研究者にいち早く発信する場，また，アジアを初め世界の研究者のプレート収束域に関する重要な地質学的・地球科学的研究成果の発表される場となること，すなわち，プレート収束域の地球科学事象に関する質の高い研究成果が集まる場となることをめざしてThe Island Arcが発刊されたことが述べられているものと思います．

すなわち，The Island Arcの場合には，plate convergence zones，high academic standard, broard international recognitionといった用語が，論文として投稿する際のkey wordsになるものと思います．したがって，世界的，あるいは広域的な面で波及効果の大きい重要な発見の場合は別として，地域の層序とか地域から産出する化石群といったような地域的・個別的内容についての記載に重点がある論文の場合は，英文で書いてある場合でも，国際誌としてのThe Island Arcにはあまり向いていないといえるでしょう．記載的な論文そのものは元データの公表ということで大変重要ですし，英語で書いてある場合は，世界の研究者に通用するわけですが，国際誌の場合には，取り扱っている対象がより一般的，より広域的な問題とどのように関わっているのか，どのような意味をもっているのか，その意義を強調することがより重要になると思います．したがって，特別重要な発見や意味をもつ現象の記載の場合を除いては，記載を中心とした英語の論文の場合には，The Island Arcというよりも，地質学雑誌や大学の紀要といったものの方がより適切であるといえるでしょう．このことは，先にも指摘していますように，記載的な論文の価値が低いという意味ではなく，雑誌の間の一種の役割分担といえるでしょう．

もちろん，記載を中心とした論文であっても，そこに重要な現象や従来の説と矛盾するような新しい事実が記載され，その重要性が主張されているような場合には，国際誌に積極的に投稿していくべきでしょう．はっきりしていることは，日本語の論文では，世界の人を相手にはできないということです．狭い地球のことですから，海外の研究者にも成果をアピールできるよう，また彼らと積極的に議論できるよう，英語の論文投稿に積極的にチャレンジしましょう！

一方地質学雑誌の場合にも，たとえ記載を中心とする論文であっても，英語の論文が投稿されることは，別の意味でも重要な意味をもっています．同誌の場合，印刷費の一部としてこれまで毎年一定の補助金をうけています．この補助金をうけるためには，毎年秋のある時期になると申請書を文部省に提出する必要があります．その際に，年間の見込み総頁数とともに，そのうち，英文の論文が何%（何頁）ぐらい占める見込みなのか，記入する必要があります．この英文の占める割合（見込み頁数）が，補助金の算定上でも大変重要な意味をもっているといわれています．というのは，補助金を出す趣旨が単に印刷費の補助というよりも国際貢献に重点があるといわれているからです．その結果，実績が届け（見込み）頁数よりもかなり異なって（減って）いる場合には，釈明が求められ，その次の年の算定にも響くといわれています．したがって，地質学雑誌の編集側としては，英文論文の投稿が少ないと大変心配することになるということです．

以上をまとめますと，記載を中心とした論文や，議論している内容が国内的な地質学現象・地質学的問題に限られるような論文の場合には，英語の論文であっても，地質学雑誌や大学の紀要などの国内の雑誌の方が向いているでしょうし，逆に，国際的にアピールしたいような材料・対象をあつかっている場合や広域的・国際的地質現象を論じている場合には，The Island Arcのような国際誌に積極的に投稿するのがいいということになるでしょう．

なお，The Island Arcの投稿規定などは，The Island Arcの最後のところに掲載されていますので，それをご参照の上，The Island Arcに積極的にご投稿ください．

CALENDAR

1998, 9〜

地球科学分野に関係する研究会，学会，国際会議などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内いたします．会員の皆さまの情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会主催行事．

9 September

○「Newtonサイエンスセミナー」
12日（土） 場所：国立科学博物館 （株式会社ニュートンプレス 電話 03-3264-5477）

○第6回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（日本水環境学会と主催）
17日（木）〜18（金） 場所：立正大学（大崎）（日本地下水学会事務局 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16立正大学地理学教室内 電話&Fax：03-5496-2084 e-mail：jagh@risgw3.ris.ac.jp）

○第48回東レ科学振興会科学講演会
18日（金） 場所：有楽町朝日ホール（東レ科学振興財団 電話 047-350-6103）

○ 8th Congress of the International Association of Engineering Geology and the Environment
21日（月）〜25日（金） Vancouver, British Columbia, Canada Contact : 8th Congress IAEG c/o Venue West Conference Services Ltd. #645-375 Water Street Vancouver, BC, Canada V6B5C6 tel : 01-604-681-5226 Fax : 01-604-681-2503

○堆積学研究会秋の例会「堆積環境と堆積過程に関する講演会」
24日（木） 場所：信州大学理学部第一講義室 （信州大学公文富士夫 電話 0263-37-2479 Fax 0263-37-2506）

☆日本地質学会第105年年会（松本大会）
25日（金）〜27日（日） 信州大学

10 October

○日本粘土学会1998年度例会 第42回粘土科学討論会
6日（火）〜8日（木） 場所：桐生市市民会館（群馬大学工学部 大谷朝男 電話 0277-30-1350）

○第17回日本自然災害学会学術講演会
15日（木）〜16日（金） 場所：金沢大学工学部秀峯会館
○第35回自然災害科学総合シンポジウムおよびオープンフォーラム「福井地震から50年 都市直下型地震災害を考える」
17日（土） 場所：金沢大学工学部秀峯会館（金沢大学工学部土木建設工学科 実行委員会幹事 宮島昌克 電話 076-234-4656, Fax 076-234-4644
E-mail : miyajima@t.kanazawa-u.ac.jp）

○日本地下水学会平成10年度秋季講演会
16日（金）〜18日（日） 場所：富山県民会館
シンポジウム「富山の地下水と人のくらし」
17日（土）場所：富山県民会館（日本地下水学会事務局 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 立正大学地理学教室内 電話 & Fax：03-5496-2084 e-mail:jagh@risgw3.ris.ac.jp）

☆日本地質学会環境地質研究委員会国際シンポジウム「環境保全と鉱物資源の活用」
25日（日）〜30日（金） 場所：新宿ワシントンホテル（詳細は6，7月号ニュース誌参照）

○日本地震学会秋季大会
26日（月）〜28日（水） 場所：福井市フェニックスプラザ （東京大学地震研究所 森田裕一 電話 03-3818-5089）

○日本地熱学会20周年記念シンポジウム「新地熱発電所と今後の地熱開発」
27日（火） 場所：早稲田大学国際会議場
○日本地熱学会平成10年大会
28日（水）〜29日（木） 場所：早稲田大学国際会議場 （日本地熱学会事務局 〒113-0034 東京都文京区湯島2-16-16 電話 03-5689-3471, Fax 03-3812-7737）

11 November

○平成9年度地方自治体活断層調査報告会
4日（水）〜5日（木） 場所：千代田区大手町JAビル8階JAホール （(財)地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター 活断層報告会係 電話 03-3295-1501 Fax 03-3295-1507）

○国際シンポジウム『琉球列島（南西諸島）—島嶼型動物相の適応放散と絶滅の舞台—』
5日（木）〜7日（土） 主催：鹿児島大学鹿児島大学稲盛会館（鹿児島大学 大塚裕之 電話 099-285-8135）

○第14回ゼオライト研究発表会
12日（木）〜13日（金） 場所：上智大学図書館会議室 （東京工業大学理学部 小池隆之 電話 03-5734-2758）

○第15回東海地震防災セミナー1998
16日（月） 場所：静岡県商工会議所 5階ホール（土研究事務所 電話 054-238-3240）

☆日本地質学会環境地質研究委員会第8回環境地質学シンポジウム
28日（土）〜29日（日） 場所：大阪市立大学法学部棟

1 January 1999

○日本古生物学会1999年年会
29日（金）〜31日（日） 場所：東北大学（横浜国立大学間嶋隆一 電話045-33-9334）

3 March

☆日本地質学会第106年総会
26日（金）〜27日（土） 場所：早稲田大学

6 June

○地球惑星科学関連学会1999年度合同大会
8日（火）〜11日（金） 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

10 October

☆日本地質学会第106年年会
9日（土）〜11日（月） 場所：名古屋大学

○第7回太平洋地域新第三系国際会議
3日（日）〜6日（水） The 7th International Congress on Pacific Neogene Stratigraphy 場所：国立メキシコ大学 主催：RCPNS（太平洋地域新第三系層序委員会） 連絡先：Prof. A. Molina-Cruz, Organizing Committee of VII-RCPNS, Inst. Cien. Mar. Lim., UNAM, Ap. Post. 70-305, Ciudad Universitaria, Mexico D.F. 04510 Fax : 52-5-6160748 国内連絡先：〒422-8035 静岡市宮竹1-9-24 土研究事務所 土 隆一 電話 054-238-3240 Fax 054-238-3241 e-mail : vyz01052@nifty-serve.or.jp 会議前後にExcursionを計画，First Circularは10月に発送される予定．

会費の「口座引落」方式導入による
「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」のご提出について（お願い）

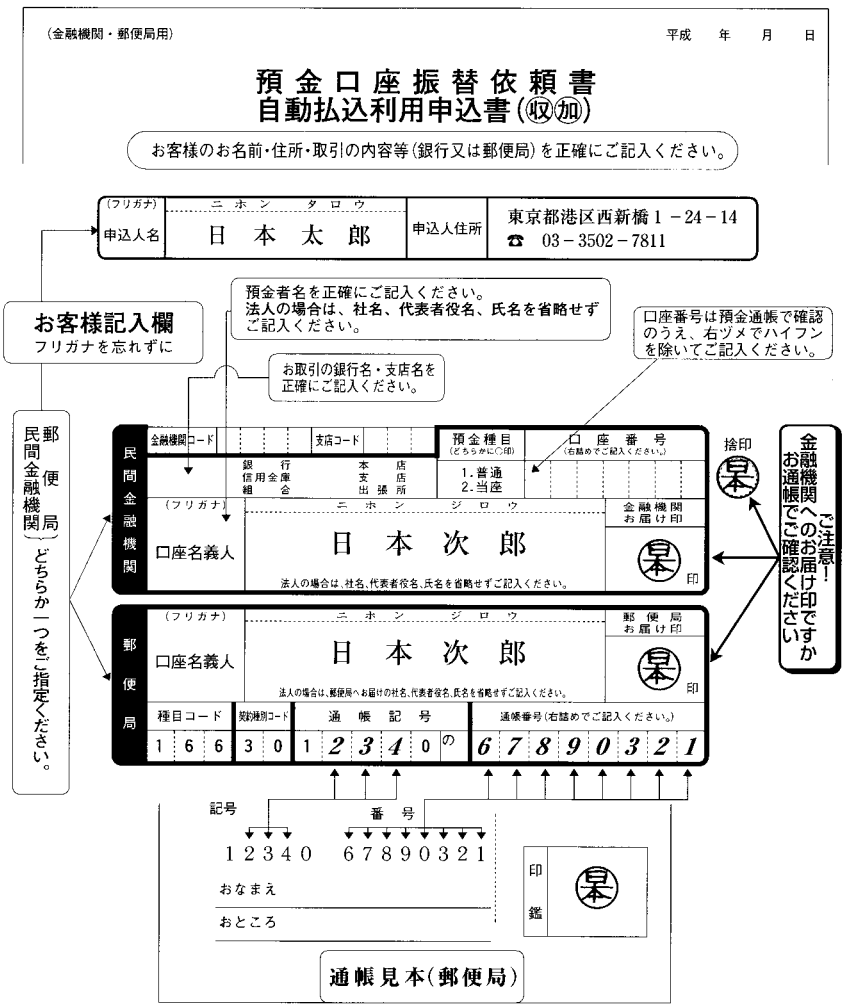
本誌7月号にてもお知らせしましたが，年会費の徴収方法として希望者を対象に「口座引落」を実施することになりました．会員の皆様には，金融機関に出向かなくても良い，振込手数料がかからない，送金忘れがない，などの便利さがありますし，事務局にとりましても事務量の軽減をはじめとする大きなメリットがあります．会計委員会としては「口座引落」を実施するにあたり，最終的には全会員のご賛同とご利用を得ることを目標にしていますが，とりあえずは3割以上の会員（おおよそ1800名）にご利用いただくことを初期目標にしたいと考えています．つきましては，できるだけ多くの会員がご利用下さいますようお願いいたします．会員各位には直接ご利用のご案内を差し上げるべきことではございますが，郵送等の経費節減のため，とりあえず本号に「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」をとじ込みました．1999年分の会費徴収より実施いたしますので「口座引落」を希望される会員は，必要事項を記入してお送り下さいますようお願いいたします．記入に際しては，「記入例」をご参照下さい．また，「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」は，指示どおりに折ってのり付けしていただくと，封書として投函できるように作ってありますので，破損しないようお取り扱い下さい．なお，恐れ入りますが返信切手を貼ってお出し下さるようお願いいたします．

1. 「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」提出期限　　11月10日（火）
2. 第1回目の「口座引落」日　12月24日（木）

（日本地質学会会計委員長　佐々木和彦）

記入例

❖ お通帳とご照合のうえ、太枠の中をボールペンで強くお書きください。



❖ ご記入に誤りがありますと、お客様へ何度もお手数をかけることになりますので、正確にご記入ください。

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問合せください．現金書留または郵便振替　00140-8-28067

割引頒価：21号〜39号　院生・学生4割引，それ以外の会員2割引，40号以降院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第 21 号　続・日本列島の基盤．加納　博ほか編，331 pp., 1982年4月刊，会員頒価2,400円，〒380円

第 22 号　琉球列島の地史．木崎甲子郎ほか編，165 pp., 1983年4月刊，会員頒価2,100円，〒310円

第 26 号　白亜系の国際対比―現状と問題．平野弘道編，172 pp., 1985年3月刊，会員頒価2,000円，〒310円

第 30 号　日本の第四紀層の層序区分とその国際対比．市原　実ほか編，221 pp., 1988年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円

第 31 号　関東地方の基盤と変動．福田　理ほか編，138 pp., 1988年6月刊，会員頒価1,600円，〒310円

第 33 号　西南日本内帯高圧変成帯とテクトニクス．西村祐二郎ほか編，357 pp., 1989年4月刊，会員頒価3,000円，〒380円

第 34 号　堆積盆地と褶曲構造―形成機構とその実験的研究―．三梨　昂ほか編，209 pp., 1990年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円

第 37 号　古日本海東縁の新第三系―層序・古地理・古環境．小林巌雄ほか編，326 pp., 1992年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 38 号　変動帯における砕屑岩類の組成と起源―日本列島を例として―．君波和雄ほか編，401 pp., 1992年3月刊，会員頒価3,500円，〒380円

第 39 号　続湖沼の成因と環境・地質．徳岡隆夫ほか編，189 pp., 1993年3月刊，会員頒価2,200円，〒310円

第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250 pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円

第 41 号　中部九州後期新生代の地溝．長谷義隆ほか編，192 pp., 1993年6月刊，会員頒価3,100円，〒310円

第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357 pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒380円

第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177 pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円

第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335 pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒380円

第 45 号　シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249 pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円

第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162 pp., 1996年9月刊，会員頒価1,900円，〒310円

第 47 号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323 pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒380円

第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia (IGCP 350) Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188 pp.，1997年6月刊，会員頒価2,100円，〒340円

近刊

第 49 号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232 pp.，1998年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円

第 50 号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263 pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒380円

第 51 号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162 pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円

討論会講演要旨（1979年4月刊，東京四谷）会員頒価700円，〒340円

第92年学術大会講演要旨（1985年3月刊，山口）会員頒価3,200円，〒500円

第96年学術大会講演要旨（1989年5月刊，茨城）会員頒価3,500円，〒500円

第101年総会・討論会講演要旨（1994年3月刊，東京）会員頒価1,500円，〒400円

第103年学術大会講演要旨（1996年4月刊，仙台）会員頒価3,500円，〒500円

日本の地質学100年（100周年記念誌，1993年3月刊）頒価8,000円，〒600円

第104年総会講演要旨（1997年4月刊，東京）会員頒価700円，〒300円